
古代アメリカの比較文明論

領域番号1601

平成26年度～令和元年度科学研究費助成事業
(科学研究費補助金)(新学術領域研究(研究領域提
案型))研究成果報告書

令和2年6月

領域代表者 青山和夫
茨城大学人文社会科学部教授

目 次

| | |
|--------------------------|----|
| はしがき | 2 |
| (1) 研究組織（公募研究を含む） | 5 |
| (2) 交付決定額（配分額） | 7 |
| (3) 研究発表 | 8 |
| 1. 主な雑誌論文等 | 8 |
| 2. 学会発表等 | 22 |
| 3. 主な図書等 | 41 |
| 4. アウトリーチ活動 | 42 |
| (4) 研究成果による産業財産権の出願・取得状況 | 43 |
| (5) 研究成果 | 44 |
| 1. 研究領域の目的及び概要 | 44 |
| 2. 各研究項目の連携状況 | 46 |
| 3. 研究領域の設定目的の達成度 | 48 |
| 4. 研究計画に参画した若手研究者の成長の状況 | 53 |
| 5. 主な研究成果 | 54 |
| 6. 今後の研究計画の展開 | 59 |
| 7. 学会誌等に発表した最も代表的な研究成果 | 61 |

<はしがき>

本報告書は、文部科学省の科学研究費補助金新学術領域研究「古代アメリカの比較文明論」(平成 26～令和元年度、領域代表者:青山和夫)の概要について述べる。「古代アメリカの比較文明論」プロジェクトは、科研費の中で複数ある研究種目のうち大型の研究助成が申請可能な新学術領域研究(研究領域提案型)という部門において、平成 26(2014)年度に人文社会系で唯一採択された。新学術領域研究は、「研究者又は研究者グループにより提案された、我が国の学術水準の向上・強化につながる新たな研究領域について、共同研究や研究人材の育成等の取り組みを通じて発展させる」ことを目的としている。

「古代アメリカの比較文明論」プロジェクトの目的は、①精密な自然科学的年代測定法や古環境復元によって、メソアメリカとアンデスの高精度の編年を確立し環境史を解明する、②精密な編年を基にメソアメリカ文明とアンデス文明の詳細な社会変動に関する通時的比較研究を行う、③植民地時代から現代まで、メソアメリカ文明とアンデス文明が中南米の先住民文化に及ぼした影響を検証することであった。さらにこれらの成果を基に導かれる古代文明研究の今日的意義を探究した。

私たちの研究プロジェクトは、科学研究費補助金新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」(平成21～25年度、領域代表者:青山和夫)の成果を踏まえ更なる発展を目指した。私たちは、従来の世界史研究で軽視されてきたメソアメリカとアンデスという古代アメリカの二大文明に地域を絞り、年代軸を格段に精密化して環境と文明の関係を一層詳細に検討し、文明の変動を実証的かつ多面的に検証した。計画研究A04「植民地時代から現代の中南米の先住民文化」を加え、古代文明の資源化をキーワードにより長い時間軸で文明の動態を探究した。そのために考古学、歴史学、多様な研究対象の文化人類学等の人文科学と自然科学の中堅・若手の研究者を中心にチームを再編成した。研究チームは、メソアメリカとアンデスの考古学、歴史学、多様な研究対象の文化人類学、動物考古学、考古植物学、考古科学、環境地理学、認知心理学、哲学、年代学、古気候学、地質学、地質工学、保存科学、情報科学等、多様な分野の代表的な専門家から構成された。プロジェクトに携わった研究者は、国内外の研究協力者を合わせると実に100名を超える。

A02メソアメリカ文明班(代表:青山和夫)とA03アンデス文明班(代表:坂井正人)がA01自然科学的編年・環境史班(代表:米延仁志)と共同調査を実施して、両文明それぞれの特性と詳細な社会変化を精度の高い編年によって実証的かつ多面的に比較した。さらにA04植民地時代から現代の先住民文化班(代表:鈴木紀)を組み合わせて、研究対象が先スペイン期に限定された従来の研究の限界を打破していった。

本領域研究は、国内外の共同研究者と密接に協力し、世界的な学術水準の国際共同研究として実施した。*Nature*、*Science*、*Proceedings of the National Academy of Sciences (PNAS)*、ケンブリッジ大学出版局の*Ancient Mesoamerica*と*Antiquity*、アメリカ考古学会の*Latin American Antiquity*、ネイチャー・リサーチ社の*Scientific Reports*、国際第四紀学連合(INQUA)の*Quaternary International*、オランダのエルゼビアの*Quaternary Science Reviews*といった世界的に評価の高い国際誌の査読論文を含め、国外で英語やスペイン語の論文を意欲的に刊行し、国内外の国際学会で最新の成果を数多く発表した。

本領域のメンバーは研究成果を国内だけでなく、米国、イギリス、ドイツ、スペイン、イタリア、アイルランド、スイス、オランダ、セルビア、ニュージーランド、メキシコ、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル、ニカラグア、ペルー、パラグアイ、アルゼンチン、韓国などの学術雑誌や国際学会において英語やスペイン語で発表した。私たちが海外に向けて研究成果を積極的に発信することによって当該学問分野及び関連学問分野の学術水準を国際的に向上・強化できた。

本領域のメンバーが、メキシコ、グアテマラ、アルゼンチン、アメリカの国際的に評価の高い海外研究者 6名を2016年10月に招聘して、2日にわたって日本で初めてのメソアメリカ研究者国際会議を東京で主催したことは特筆に値する。青山とメキシコ国立自治大学のロドリゴ・リエンド教授が国際会議の座長を務め、研究項目 A03 の若手の研究分担者の松本がコメンテーターとして海外と研究項目 A02・A04 の考古学者、歴史学者、文化人類学者の計 17 本のスペイン語の研究発表にコメントをした。修正加筆した諸論文はメキシコで既に査読を終えており、2020年にメキシコ国立自治大学から研究論文集 *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración* (Kazuo Aoyama and Rodrigo Liendo Stuardo 編)として刊行される。

坂井は国際的に評価の高いアンデス考古学の専門家を招聘して、計 21 件の国際シンポジウムや国際学術会議を国内外で主催して活発な学術交流を推進した。鈴木は、2018年3月17-18日に国立民族学博物館で「ラテンアメリカにおける過去の価値と利用:先スペイン期文明と先住民族文化の資源化をめぐる」を

主催し、研究項目 A04 と海外の研究者がスペイン語で発表した。成果は、スペイン語論文集として出版される。鈴木は 2018 年 7 月にメキシコ国立自治大学人類学研究所で「日墨(メキシコ)国際会議:メソアメリカ社会とその歴史過程における文化変容」という国際シンポジウムを主催し、青山が *Estudio de la lítica maya: Los resultados del análisis de los artefactos líticos de Copán, Aguateca y Ceibal (1986-2018)* と題する招待講演を行った。

私たちの研究成果の中間報告として、青山が編者になって古代学協会の学会誌『古代文化』に特輯「古代アメリカの比較文化論の新展開(上)(下)」を刊行した。メソアメリカとアンデスの考古学だけでなく、スペイン植民地時代の歴史学や博物館におけるマヤ文明の表象と政治性に関する計 10 本の論文を 2017 年に発表した。私たちは古代アメリカ学会の研究大会において数多くの研究発表を行い、成果を数々の論文として学会誌『古代アメリカ』に出版した。鈴木は日本文化人類学会や日本ラテンアメリカ学会、海外ではラテンアメリカ研究アジア・オセアニア会議(CELAO)、ラテンアメリカ、カリブ研究国際学会(FIEALC)、国際アメリカニスト会議(ICA)などで古代アメリカ文明の資源化に関する分科会を企画し、「古代アメリカの比較文明論」プロジェクトのメンバーが積極的に発表した。

新学術領域研究(終了領域)「古代アメリカの比較文明論」(令和元年度、領域代表者:青山和夫)の助成を受けて、主要な研究成果を国民・社会にわかりやすく還元・紹介するために、4 つの研究項目の研究代表者 4 名(青山、米延、坂井、鈴木)を編著者として京都大学学術出版会から 444 頁の学術書『古代アメリカの比較文明論:メソアメリカとアンデスの過去から現代まで』を公刊した。執筆者は計 56 名であり、編者の研究代表者 4 名、主に中堅・若手の研究分担者、連携研究者、研究協力者から構成された。本書は先スペイン期のメソアメリカ文明とアンデス文明の比較研究だけでなく、植民地時代や現代の中南米の人々が古代文明を資源化して再解釈する営みにも詳しく論述する日本初の書籍である。

私たちの研究は、短期間で早急に成果が得られる分野ではない。考古学の発掘調査、歴史学の現地調査や文献史料の掘り出し、文化人類学の聞き取り調査や参与観察及び自然科学の湖沼ボーリング調査や自然科学的年代測定試料の収集といったハードな野外調査を実施するだけではない。その後、多種多様な資料・史料・試料の室内分析及びデータ解析に多くの時間と労力を要する。5 年間こつこつと共同研究を続けて地道に研究成果を残していったが、分析途中や未発表の成果が残されている。本領域研究の重要な研究成果をこれからも論文として世界に発信して、当該学問分野の学術水準をさらに向上・強化していく所存である。

メソアメリカとアンデスに散在した自然環境共生型社会(あるいは自然環境破壊型社会)、資源循環型社会(あるいは資源非循環型社会)、強い(あるいは弱い)回復力(レジリエンス)をもつ社会の実像を提示し、現代社会に向けて発信することが、私たちのプロジェクトの今日的意義の一つといえる。古代アメリカの諸文明の成功事例を知り、逆に失敗事例から歴史的教訓を学ぶことによって、現代社会が持続可能な発展を遂げて危機を回避するための資源となり得るのであり、未来のシナリオの選択に役立つ。

現代の中南米の人々は政治・経済・社会的な諸課題に対処するために古代アメリカ文明に関する知識を資源として活用しようとする関心が強い。彼らの興味や期待を正しく認識し、私たちの研究の妥当性を絶えず自問することで、研究成果の着実な社会還元や研究対象地域への貢献に結びつけることができよう。

私たちは、良質な新聞やテレビ・ラジオ番組、良心的な一般雑誌やわかりやすい一般書などを通じて成果の社会還元にも力を入れた。私たちは、北海道、山形、宮城、石川、福井、東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、愛知、大阪、京都、兵庫、鳥取、福岡、大分など日本の各地で計 156 回の公開シンポジウムや公開講演会を実施した。本領域主催の公開シンポジウムは計 4 回であり、H27 年 6 月と H29 年 7 月に国立民族学博物館、H28 年 6 月と H31 年 2 月にキャンパス・イノベーションセンター東京で開催した。多くの人々との出会いは、私たちの大きな心の宝である。

立命館大学古気候研究センター長の中川毅教授(古気候学)、アリゾナ大学の猪俣健教授(マヤ考古学)、埼玉大学の加藤泰建名誉教授(アンデス考古学)と大阪大学の小泉潤二名誉教授(文化人類学)は、研究評価者として私たちの研究活動を支えて下さった。

神戸大学の石森大知准教授(文化人類学・メラネシア研究)、首都大学東京の石田慎一郎准教授(文化人類学・アフリカ地域研究)、京都大学の曾我謙悟教授(行政学・現代日本政治)と東北大学の川口幸大准教授(文化人類学・中国研究)は、文部科学省の学術調査官としてプロジェクト運営の相談に乗って下さり、貴重な助言を与えてくださった。その他にも「古代アメリカの比較文明論」プロジェクトを推進する上でお世

話になったり、協力していただいたりした国内外の関連機関や人たちは数百名に及び、ここでは列挙できないが、それらの機関や方々に心から感謝したい。

本領域研究に参加した大部分の研究者は中堅・若手である。「古代アメリカの比較文明論」プロジェクト実施期間中に、計 15 名の若手研究者が研究ポスト(うち 10 名が常勤の研究職)を得た。多くの中堅・若手が国際的なレベルの研究の重要性を再認識し、専門分野を超えて共同研究を実施することによって研究の新たな視点を獲得したのは大きな喜びである。こうした中堅・若手の研究者が、新規の研究プロジェクトの企画・申請に中核的な役割を果たし、比較文明論や関連分野に大きなインパクトや波及効果を与え続けることによって、21 世紀の比較文明論の国際的な学術水準の更なる向上・強化と人材育成につながることを期待するものである。

領域代表者 青山和夫

(1) 研究組織

(1) 研究組織 (2019年6月1日現在)

X00 総括班

研究代表者 青山 和夫(茨城大学・人文社会科学部・教授):領域,研究項目 A02 の総括,研究方針の策定
研究分担者 米延 仁志(鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授):研究項目 A01 の総括,研究方針の策定,坂井 正人(山形大学・人文社会科学部・教授):研究項目 A03 の総括,研究方針の策定,鈴木 紀(国立民族学博物館・人類文明誌研究部・教授):研究項目 A04 の総括,研究方針の策定

Y00 国際活動支援班

研究代表者 青山 和夫(茨城大学・人文社会科学部・教授):総括及び「メソアメリカ比較文明論」分野の国際活動支援
研究分担者 米延 仁志(鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授):「古代アメリカ文明の高精度編年体系の確立と環境史復元」分野の国際活動支援,坂井 正人(山形大学・人文社会科学部・教授):「アンデス比較文明論」分野の国際活動支援,鈴木 紀(国立民族学博物館・人類文明誌研究部・教授):「植民地時代から現代の中南米の先住民族文化」分野の国際活動支援,井上 幸孝(専修大学・文学部・教授):メソアメリカとアンデスの先住民世界観の比較研究,杓谷 茂樹(公立小松大学・国際文化交流学部・教授):メソアメリカとアンデスの公共考古学の比較研究,生月 亘(関西外国語大学・英語国際学部・准教授):アンデス地域(エクアドル)の文化人類学
連携研究者 八木 百合子(国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・助教):アンデス地域(ペルー)の文化人類学研究

研究項目 A01 : 古代アメリカ文明の高精度編年体系の確立と環境史復元

研究代表者 米延 仁志(鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授):総括,調査,編年,データ解析
研究分担者 大山 幹成(東北大学・学術資源研究公開センター・助教):調査,編年,気候復元,北場 育子(立命館大学・古気候研究センター・准教授):調査,花粉分析,気候復元,五反田 克也(千葉商科大学・国際教養学部・教授):調査,層序解析,年縞編年,那須 浩郎(岡山理科大学・生物地球学部・准教授):調査,植物遺体同定,原口 強(大阪市立大学・大学院理学研究科・准教授):調査,航空測量,音波探査,データ解析
連携研究者 星野 安治(奈良文化財研究所・埋蔵文化財センター・主任研究員):調査,編年

研究項目 A02 : メソアメリカ比較文明論

研究代表者 青山 和夫(茨城大学・人文学部・教授):総括,マヤ文明の考古学研究
研究分担者 福原 弘織(埼玉大学・教育機構・非常勤講師):テオティワカン国家形成の考古学研究,長谷川 悦夫(埼玉大学・教育機構・非常勤講師):ニカラガ太平洋岸諸遺跡の考古学調査研究,市川 彰(名古屋大学・高等研究院・特任助教):メソアメリカ南東部の考古学研究,嘉幡 茂(京都外国語大学・京都ラテンアメリカ研究所・客員研究員):トラランカレカ遺跡の考古学研究,塚本 憲一郎(山形大学・人文社会科学部・学術研究員):マヤ文明の社会政治組織の研究

研究項目 A03 : アンデス比較文明論

研究代表者 坂井 正人(山形大学・人文社会科学部・教授):研究の統括と考古学調査
研究分担者 松本 雄一(山形大学・人文社会科学部・准教授):インヘニオ谷の考古学研究,本多 薫(山形大学・人文社会科学部・教授):アンデス文明の情報科学的研究,伊藤 晶文(山形大学・人文社会科学部・准教授):アンデス文明の環境地理学的研究,千葉 清史(早稲田大学・社会科学部・教授):考古学研究の哲学的考察,瀧上 舞(国立歴史民俗博物館・プロジェクト研究員):アンデス文明の考古科学的研究,松井 敏也(筑波大学・芸術系・教授):ナスカの地上絵の保存科学的研究,江田 真毅(北海道大学・総合博物館・講師):アンデス文明の動物考古学的研究,山本 睦(山形大学・人文社会科学部・准教授):インヘニオ谷のベンディーヤ遺跡の発掘調査,本多 明生(静岡理工科大学・情報学部・准教授):地上絵の認知心理学的研究
連携研究者 阿子島 功(山形大学・名誉教授):アンデス文明の環境地理学的研究,米田 穰(東京大学・総合研究博物館・教授):アンデス文明の年輪年代学,渡辺 洋一(羽陽学園短期大学・学長・教授):地上絵の認知心理学的研究,門間 政亮(宇部フロンティア大学・短期大学部・助教):アンデス文明の情報科学的研究

研究項目 A04 : 植民地時代から現代の中南米の先住民文化

研究代表者 鈴木 紀(国立民族学博物館・人類文明誌研究部・教授):統括,中南米博物館の先住民文化展示の比較研究

研究分担者 井上 幸孝(専修大学・文学部・教授):植民地メキシコの先住民歴史叙述の分析と後世への影響, 工藤 由美(国立民族学博物館・外来研究員):マプーチェ先住民組織の文化復興運動研究, 杓谷 茂樹(公立小松大学・国際文化交流学部・教授):マヤ遺跡公園整備を巡るステークホルダー間の葛藤に関する研究, 禪野 美帆(関西学院大学・商学部・教授):現代メキシコにおいて再定義される先住民性の研究, 藤掛 洋子(横浜国立大学・大学院都市イノベーション研究院・教授):パラグアイとパナマにおける先住民文化表象の研究, 本谷 裕子(慶應義塾大学・法学部・教授):民族衣装がつなぐマヤネットワーク研究, 小林 貴徳(関西外国語大学・短期大学部・助教):メキシコにおける無形/有形文化財の観光資源化に関する研究, 生月 亘(関西外国語大学・英語国際学部・准教授):エクアドルの先住民教育における古代文明の資源化に関する研究

公募研究 (H27・28)

研究代表者 伊藤 伸幸(名古屋大学・人文学研究科・助教):メソアメリカ文明の高精度編年体系の確立と巨大噴火インパクトの広域比較研究

研究代表者 大森 貴之(東京大学・総合研究博物館・特任研究員):ワランゴ樹木年輪の同位体分析による高精度古環境復元

研究代表者 鶴見 英成(東京大学・総合研究博物館・助教):ペルー、ワヌコ市の遺跡発掘:神殿の起源を巡る編年研究と、その成果への現代的関心

研究代表者 武田 和久(明治大学・政治経済学部・専任講師):インカ帝国イメージの資源化と先住民統治:スペイン植民地期ラプラタ地域を中心に

公募研究 (H29・30)

研究代表者 大森 貴之(東京大学・総合研究博物館・特任研究員):ペルー共和国出土木材の年輪同位体分析に基づく14C編年の再構築と古環境の復元

研究代表者 鶴見 英成(東京大学・総合研究博物館・助教):ワヌコ盆地の古代と現代:アンデス文明形成期の神殿遺跡と地域社会

研究代表者 松本 剛(山形大学・人文社会科学部・准教授):ペルー北海岸シカン遺跡の発掘:人類社会と自然環境の相互作用に関する研究

研究代表者 佐藤 正樹(東京医科歯科大学・非常勤講師):17世紀アンデスにおける先住民共同体とインカ帝国像の変容

研究代表者 大平 秀一(東海大学・文学部・教授):アンデス先史文化の継承性に関する実証的研究:インカ時代～現代

(2) 交付決定額（配分額）

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-------------|-------------|-------------|
| 平成26年度 | 105,000,000 | 31,500,000 | 136,500,000 |
| 平成27年度 | 159,500,000 | 47,850,000 | 207,350,000 |
| 平成28年度 | 115,300,000 | 34,590,000 | 149,890,000 |
| 平成29年度 | 109,300,000 | 32,790,000 | 142,090,000 |
| 平成30年度 | 107,500,000 | 32,250,000 | 139,750,000 |
| 令和元年度 | 3,000,000 | 900,000 | 3,900,000 |
| 総計 | 599,600,000 | 179,880,000 | 779,480,000 |

(3) 研究発表

1. 主な雑誌論文等 (令和2年6月現在、book chapter articles を含む)

[論文]計464本 (内査読有200本)

研究項目A01・A02・A03・A04共同

青山和夫, 米延仁志, 坂井正人, 鈴木紀「古代アメリカの比較文明論」プロジェクトの目標と展望』『古代アメリカ』17: 119-127, 2014, 査読有.

研究項目A01・A02・A03共同

Takeshi Inomata, Daniela Triadan, Verónica A. Vázquez López, Juan Carlos Fernandez-Diaz, Takayuki Omori, María Belén Méndez Bauer, Melina García Hernández, Timothy Beach, Clarissa Cagnato, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu Monumental architecture at Aguada Fénix and the rise of Maya civilization. *Nature* 582(7810): <https://doi.org/10.1038/s41586>, 2020, 査読有.

研究項目A02・A03・A04共同

青山和夫, 福原知識, 長谷川悦夫, 市川彰, 井上幸孝, 嘉幡茂, 坂井正人, 鈴木紀, 瀧上舞, 塚本憲一郎「特輯: 古代アメリカの比較文明論の新展開(上)(下)」『古代文化』68(4):55-109, 69(1):61-108, 2017, 査読有.

研究項目 A01・A02 共同研究

Arroyo, Bárbara, Takeshi Inomata, Gloria Aju, Javier Estrada, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu Contando el tiempo en Kaminaljuyu: fechamientos y la historia del Altiplano Maya. *XXXII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:353-370, 2019, 査読無.

Schieber de Lavarreda, Chista, Takeshi Inomata, Jeremias Claudio, Juan Miguel Medina, Miguel Orrego Corzo, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu Cronología nueva con estratigrafía vieja en Tak'alik Ab'aj. *XXXII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:187-204, 2019, 査読無.

Lohse, Jon C., W. Derek Hamilton, Mark Brenner, Jason Curtis, Takeshi Inomata, Molly Morgan, Karla Cardona, Kazuo Aoyama, Hitoshi Yonenobu Late Holocene volcanic activity and environmental change in Highland Guatemala. *Quaternary Science Reviews* 191:378-392, <https://doi.org/10.1016/j.quascirev.2018.05.014>, 2018, 査読有.

Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Flory Pinzón, Melissa Burham, José Luis Ranchos, Kazuo Aoyama, Tsuyoshi Haraguchi Archaeological application of airborne LiDAR to examine social changes in the Ceibal region of the Maya lowlands. *PLOS ONE* 13(2): e0191619, <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0191619>, 2018, 査読有.

Inomata, Takeshi, Flory Pinzón, José Luis Ranchos, Tsuyoshi Haraguchi, Hiroo Nasu, Juan Carlos Fernandez-Diaz, Kazuo Aoyama, Hitoshi Yonenobu Archaeological Application of Airborne LiDAR with Object-Based Vegetation, Classification and Visualization Techniques at the Lowland Maya Site of Ceibal, Guatemala. *Remote Sensing* 9(6):1-27, doi: 10.3390/rs9060563, 2017, 査読有.

Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Jessica MacLellan, Melissa Burham, Kazuo Aoyama, Juan Manuel Palomo, Hitoshi Yonenobu, Flory Pinzón, Hiroo Nasu High-precision radiocarbon dating of political collapse and dynastic origins at the Maya site of Ceibal, Guatemala. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 114(6):1293-1298, <https://doi.org/10.1073/pnas.1618022114>, 2017, 査読有.

Inomata, Takeshi, Tsuyoshi Haraguchi, Flory Pinzon, José Luis Ranchos, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu, Hitoshi Yonenobu, Juan Manuel Palomo Investigación Arqueológica a través de Lidar en el Area de Ceibal. *XXX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:109-118, 2017, 査読無.

猪俣健, 青山和夫, フローリー・ピンソン, ホセ・ルイス・ランチョス, 原口強, 那須浩郎, 米延仁志「マヤ文明のセイバル遺跡と周辺部の航空レーザー測量と考古学調査」『古代アメリカ』20:123-134, 2017, 査読有.

Inomata, Takeshi, Jessica MacLellan, Daniela Triadan, Jessica Munson, Melissa Burham, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu, Flory Pinzón, Hitoshi Yonenobu Development of Sedentary Communities in the Maya Lowlands: Coexisting Mobile Groups and Public Ceremonies at Ceibal, Guatemala. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 112(14):4268-4273, <https://doi.org/10.1073/pnas.1501212112>, 2015, 査読有.

Aoyama, Kazuo, Hitoshi Yonenobu, Takeshi Inomata, Kazuyoshi Yamada, Hiroo Nasu, Toshiyuki Fujiki, Yoshitsugu Shinozuka, Katsuya Gotanda, Yoshiharu Hoshino Investigaciones Arqueológicas y Paleoambientales en y alrededor de Ceibal, Petén, Guatemala. *XXVII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:987-995, 2014, 査読無.

青山和夫, 米延仁志「マヤ文明の盛衰と環境文明史:セイバル遺跡と近隣湖沼の最近の調査から」『チャスキ』50:4-7, 2014, 査読無.

研究項目 A02・A03 共同

青山和夫「メソアメリカ比較文明論試論—古代アメリカの比較文明論の新展開に向けて—」『古代アメリカ』19:47-61, 2016, 査読有.

研究項目 A02・A04 共同

井上幸孝, 長谷川悦夫「メソアメリカのなかのニカラグア」『ニカラグアを知るための55章』(明石書店), 5頁, 2016, 査読無.

福原知識, 小林貴徳, 杓谷茂樹, 鈴木紀「特集 資源化される古代文明—遺跡の調査と活用に関わるアクター分析—」『古代アメリカ』18:95-142, 2015, 査読有.

研究項目 A03・A04 共同

渡部森哉, 井上幸孝, 多々良穰, 市木尚利, 森下壽典, 石田春彦, 鶴見英成「高校教育を対象とした古代アメリカ学会の普及活動」『古代アメリカ』21:103-118, 2018, 査読有.

研究項目 A01

Matsu'ura, Shuji, Megumi Kondo, Tohru Danhara, Shuhei Sakata, Hideki Iwano, Takafumi Hirata, Iwan Kurniawan, Erick Setiyabudi, Yoshihiro Takeshita, Masayuki Hyodo, Ikuko Kitaba, Masafumi Sudo, Yugo Danhara, Fachroel Aziz Age control of the first appearance datum for Javanese Homo erectus in the Sangiran area. *Science* 367:210-214, doi: 10.1126/science.aau8556, 2020, 査読有.

McLean, Danielle, Paul G. Albert, Takehiko Suzuki, Takeshi Nakagawa, Jun-Ichi Kimura, Qing Chang, Yasuo Miyabuchi, Christina Manning, Alison MacLeod, Simon Blockley, Richard A. Staff, Keitaro Yamada, Ikuko Kitaba, Akiteru Yamasaki, Tsuyoshi Haraguchi, Junko Kitagawa, SG14 Project Members, Victoria C. Smith Constraints on the timing of explosive volcanism at Aso and Aira calderas (Japan) between 50 and 30 ka: New insights from the Lake Suigetsu sedimentary record (SG14 core). *Geochemistry, Geophysics, Geosystems*, doi:10.1029/2019GC008874, 2020, 査読有.

McLean, Danielle, Paul G. Albert, Takehiko Suzuki, Takeshi Nakagawa, Jun-Ichi Kimura, Qing Chang, Alison MacLeod, Simon Blockley, Richard A. Staff, Keitaro Yamada, Ikuko Kitaba, Tsuyoshi Haraguchi, Junko Kitagawa, Victoria C. Smith, SG14 Project Members Refining the eruptive history of Ulleungdo and Changbaishan volcanoes (East Asia) over the last 86 kyrs using distal sedimentary records. *Journal of Volcanology and Geothermal Research* 389:106669, 2020, 査読有.

五反田克也, 米延仁志「沖縄島における最終氷期および完新世の環境変遷—人間活動の影響と堆積環境の関係について—」『千葉商科大学紀要』57(3):7-20, 2020, 査読無.

Albert, Paul G., Victoria C. Smith, Takehiko Suzuki, Danielle McLean, Emma L. Tomlinson, Yasuo Miyabuchi, Ikuko Kitaba, Darren F. Mark, Hiroshi Moriwaki, SG06 Project Members, Takeshi Nakagawa Geochemical characterisation of the Late Quaternary widespread Japanese tephrostratigraphic markers and correlations to the Lake Suigetsu sedimentary archive (SG06 core). *Quaternary Geochronology* 52:103-131, doi:10.1016/j.quageo.2019.01.005, 2019, 査読有.

Longo, William M., Huang Yongsong, Yao Yuan, Zhao Jiaju, Giblin Anne E., Wang Xian, Zech Roland, Haberzettl Torsten, Jardillier Ludwig, Toney Jaime, Liu Zhonghui, Krivonogov Sergey, Kolpakova Marina, Chu Guoqiang, D'Andrea William J., Harada Naomi, Nagashima Kana, Sato Miyako, Yonenobu Hitoshi, Yamada Kazuyoshi, Gotanda Katsuya, Shinozuka Yoshitsugu Widespread occurrence of distinct alkenones from Group I haptophytes in freshwater lakes: Implications for paleotemperature and paleoenvironmental reconstructions. *Earth and Planetary Science Letters* 492:239-250, 2018, 査読有.

McLean, Danielle, Paul G. Albert, Takeshi Nakagawa, Takehiko Suzuki, Richard A. Staff, Keitaro Yamada, Ikuko Kitaba, Tsuyoshi Haraguchi, Junko Kitagawa, SG14 Project Members, Victoria C. Smith Integrating the Holocene tephrostratigraphy for East Asia using a high-resolution cryptotephra study from Lake Suigetsu (SG14 core), central Japan. *Quaternary Science Reviews* 183:36-58, doi:10.1016/j.quascirev.2017.12.013, 2018, 査読有.

Yamashita, Taiji, Miyamoto Kenji, Yonenobu Hitoshi Short-time pretreatment of wood with low-concentration and room-temperature ionic liquid for SEM observation. *Microscopy* 67(5):259-265, 2018, 査読有.

大山幹成「年輪年代学の最近の進展」『考古学と自然科学』76:15-35, 2018, 査読有.

Nasu, Hiroo Prehistoric transitions to sedentarization and agriculture in temperate and tropical regions. *Senri Ethnological Studies* 95:19-34, 2017, 査読有.

Hyodo, Masayuki, Balázs Bradák, Makoto Okada, Shigehiro Katoh, Ikuko Kitaba, David L. Dettman, Hiroki Hayashi, Koyo Kumazawa, Kotaro Hirose, Osamu Kazaoka, Kizuku Shikoku, Akihisa Kitamura Millennial-scale northern Hemisphere Atlantic-Pacific climate teleconnections in the earliest Middle Pleistocene. *Scientific Reports* 7:10036, <https://doi.org/10.1038/s41598-017-10552-2>, 2017, 査読有.

Kitaba, Ikuko, Takeshi Nakagawa Black ceramic spheres as marker grains for microfossil analyses, with improved chemical, physical, and optical properties. *Quaternary International* 455:166-169, <https://doi.org/10.1016/j.quaint.2017.08.052>, 2017, 査読有.

Kitaba, Ikuko, Masayuki Hyodo, Takeshi Nakagawa, Shigehiro Katoh, David L. Dettman, Hiroshi Sato Geological support for the Umbrella Effect as a link between geomagnetic field and climate. *Scientific Reports* 7:40682, <https://doi.org/10.1038/srep40682>. **Nature Asia.com** おすすめのコンテンツに掲載, 2017, 査読有.

Tanaka, Ikuko, Masayuki Hyodo, Yuusuke Ueno, Ikuko Kitaba, Hiroshi Sato High-resolution diatom record of paleoceanographic variations across the Early-Middle Pleistocene boundary in the Chiba Section, central Japan. *Quaternary International* 455:141-148, doi:10.1016/j.quaint.2017.08.017, 2017, 査読有.

Tei, Shunsuke, Atsuko Sugimoto, Hitoshi Yonenobu, Yojiro Matsuura, Akira Osawa, Hisashi Sato, Junichi Fujinuma, Trofim Maximov Tree-ring analysis and modeling approaches yield contrary response of circumboreal forest productivity to climate change. *Global Change Biology* 23(12):5179-5188, 2017, 査読有.

Hyodo, Masayuki, Shigehiro Katoh, Akihisa Kitamura, Kenta Takasaki, Hayato Matsushita, Ikuko Kitaba, Ikuko Tanaka, Masakazu Nara, Takuya Matsuzaki, David L. Dettman, Makoto Okada High resolution stratigraphy across the early–middle Pleistocene boundary from a core of the Kokumoto Formation at Tabuchi, Chiba Prefecture, Japan. *Quaternary International* 397:16-26, doi:10.1016/j.quaint.2015.03.031, 2016, 査読有.

Kitagawa, Junko, Yoshimune Morita, Mirosław Makohonienko, Katsuya Gotanda, Kazuyoshi Yamada, Hitoshi Yonenobu, Ikuko Kitaba, Yoshinori Yasuda Understanding the anthropogenic impact on Akita-sugi cedar (*Cryptomeria japonica*) forest in the late Holocene through pollen analysis of annually laminated sediment from Ichi-no-Megata, Akita, Japan. *Vegetation History and Archaeobotany* 25:525-540, doi:10.1007/s00334-016-0570-2, 2016, 査読有.

Maegakiuchi, Kenta, Masayuki Hyodo, Ikuko Kitaba, Kotaro Hirose, Shigehiro Katoh, Hiroshi Sato Brief sea-level fall event and centennial to millennial sea-level variations during Marine Isotope Stage 19 in Osaka Bay, Japan. *Journal of Quaternary Science* 31:809-822, doi:10.1002/jqs.2907, 2016, 査読有.

山下泰史, 宮本賢治, 尾崎士郎, 米延仁志「プランクトンの走査型電子顕微鏡観察のためのイオン液体を用いた前処理方法」『医学生物学電子顕微鏡技術学会誌』29(1): 20-24, 2015, 査読有.

Hyodo, Masayuki, Ikuko Kitaba Timing of the Matuyama-Brunhes geomagnetic reversal: Decoupled thermal maximum and sea-level highstand during Marine Isotope Stage 19. *Quaternary International* 383:136-144, <https://doi.org/10.1016/j.quaint.2015.01.052>, 2015, 査読有.

Tei, Shunsuke, Yonenobu Hitoshi, Suzuki Shinya, Ohyama Motonari, Gotanda Katsuya, Nakagawa Takeshi, Sugimoto Atsuko Reconstructed July temperatures since AD 1800, based on a tree-ring chronology network in the Northwest Pacific region, and implied large-scale atmospheric-oceanic interaction. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology* 435:203-209, 2015, 査読有.

天野格, 香西篤, 原口強「礫質津波堆積物の認定法」『土木学会論文集 B2(海洋工学)』70(2):266-270, 2014, 査読有.

山田和芳, 五反田克也, 篠塚良嗣, 藤木利之, 瀬戸浩二, 原口強, 奥野充, 米延仁志, 安田喜憲「年縞編

年学の進歩』『月刊地球号外』63:25-30, 2014, 査読無.

研究項目 A02

計画研究

Aoyama, Kazuo Warriors and the Transformation of Classic Maya Kingship: A Diachronic Analysis of Lithic Weapons in Copán, Honduras, and in Aguateca and Ceibal, Guatemala. *Maya Kingship: Rupture and Transformation from Classic to Postclassic Times* (University Press of Florida), in press, 2020, 査読有.

Aoyama, Kazuo Mesoamérica: Su Significado para la Sociedad Moderna y una Comparación con los Andes. *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración* (Universidad Nacional Autónoma de México), in press, 2020, 査読有.

Aoyama, Kazuo, Rodrigo Liendo Stuardo Comentarios Finales. *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración* (Universidad Nacional Autónoma de México), in press, 2020, 査読有.

Liendo Stuardo, Rodrigo, Kazuo Aoyama Introducción: Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde una Perspectiva de Larga Duración. *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración* (Universidad Nacional Autónoma de México), in press, 2020, 査読有.

Ichikawa, Akira, Juan Manuel Guerra, Oscar Camacho, Hiroaki Yagi Una Milenaria Historia entre las Erupciones Volcánicas: El Sitio Arqueológico San Andrés, Valle de Zapotitán, El Salvador. *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración* (Universidad Nacional Autónoma de México), in press, 2020, 査読有.

Ichikawa, Akira, Juan Manuel Guerra Clará Arquitectura de Tierra en la Frontera Sureste Maya: San Andrés en el Valle de Zapotitán, El Salvador, C.A. *Arquitectura Mesoamericana de Tierra Vol.II*, editado por Annick Daneels. Instituto de Investigaciones Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México, México, in press, 2020, 査読有.

Ichikawa, Akira Conservación de Arquitectura de Tierra en San Andrés, El Salvador. *Arquitectura Mesoamericana de Tierra Vol.II*, editado por Annick Daneels. Instituto de Investigaciones Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México, México, in press, 2020, 査読有.

市川彰「噴火災害をどう乗り越えたか—古代マヤ人の火山とともに生きる知恵・記憶—」『南山大学人類学研究所研究論集』9:72-93, 2020, 査読有.

Kabata, Shigeru, Tatsuya Murakami, Julieta M. López Juárez Herencia del Formativo al Clásico en el Altiplano Central de México: Proyecto Arqueológico Tlalancaleca, Puebla. *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración* (Universidad Nacional Autónoma de México), in press, 2020, 査読有.

嘉幡茂「周辺の独自性—トルカ盆地南東部とテオティワカンの黒曜石交易システム」『南山大学人類学研究所研究論集』9:51-71, 2020, 査読有.

Tsukamoto, Kenichiro, Octavio Q. Esparza Olgún Title, Space, and Architecture: Negotiating Kingship in the Classic Maya Kingdom of El Palmar, Mexico. *Maya Kingship: Rupture and Transformation from Classic to Postclassic Times* (University Press of Florida), in press, 2020, 査読有.

Tsukamoto, Kenichiro, Fuyuki Tokanai, Toru Moriya, Hiroo Nasu Building a High-Resolution Chronology at the Maya Archaeological Site of El Palmar, México. *Archaeometry*, in press, 2020, 査読有.

Ceballos Pesina, Xanti S., Agustín Ortiz Burtón, Luiz Barba Pingarrón, Araceli Vázquez Villegas, Kenichiro Tsukamoto Análisis de áreas de actividad en el Grupo Guzmán de El Palmar, Campeche, México. *Estudios de Cultura Maya* 44, in press, 2020, 査読有.

Tsukamoto, Kenichiro A Discrepancy between Elite Office and Economic Status in the El Palmar Dynasty, Mexico. *The Real Business of Ancient Maya Economies: From Farmer's Field to Ruler's Realms* (University Press of Florida), 431-456, 2020, 査読有.

Stanton, Travis, Kenichiro Tsukamoto, Juan C. Fernandez-Diaz, Nicholas C. Barth El LiDAR en Mesoamérica. *Arqueología Mexicana* 163:70-77, 2020, 査読無.

Aoyama, Kazuo Lithic Technologies in Sedentary Societies. *Latin American Antiquity* 30(4):864-865, 2019, 査読有.

青山和夫, 嘉幡茂, 塚本憲一郎, 市川彰, 福原弘識, 長谷川悦夫「メソアメリカの複雑社会の起源・形成・衰退に関する比較文明論」『古代アメリカ』22:3-32, 2019, 査読有.

Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Flory Pinzón, Kazuo Aoyama Artificial plateau construction during the Preclassic period at the Maya site of Ceibal, Guatemala. *PLOS ONE* 14(8):e0221943, <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0221943>, 2019, 査読有.

Ranchos Cruz, José Luis, Flory Pinzón, Takeshi Inomata, Kazuo Aoyama Aplicación del sistema LiDAR en la prospección arqueológica: un estudio de los alrededores del área protegida del sitio arqueológico Ceibal, Sayaxche, Petén. *XXXII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:613-626, 2019, 査読無.

長谷川悦夫「故郷を離れマナグア湖のほとりで—チョロテガとニカラオの移住をめぐる諸問題」『古代アメリカ』22:59-74, 2019, 査読有.

Ichikawa, Akira Pre-Hispanic Earthen Architecture in Southeastern Mesoamerica: Collaborative Research with Local Specialists. *Earth USA 2019 Proceedings*:30-33, 2019, 査読無.

嘉幡茂, J. ロペス, 荒木昂大, 村上達也「水の神と火の神—割って入った神の出現による社会の変化—」『古代アメリカ』22:33-45, 2019, 査読有.

村上達也, 福原弘, D. マタダマス, 嘉幡茂「酒と水と嵐の神の壺—形成期終末期トラランカレカにおける都市の発展と社会統合—」『古代アメリカ』22:46-57, 2019, 査読有.

Esparza Olgún, Octavio, Kenichiro Tsukamoto, Luz Evelia Campaña Valenzuela Estudio arqueológico y epigráfico del Altar 10 de El Palmar, Campeche, México: Un monumento maya del Clásico Temprano. *Estudios de Cultura Maya* 54:65-90, 2019, 査読有.

青山和夫「マヤ文明の地域間・遠距離交換の通時的研究—グアテマラ共和国セイバル遺跡の黒曜石製石器を中心に—」『古代文化』69(4):36-55, 2018, 査読有.

青山和夫「マヤ文明の研究の最前線と魅力 KANSAI GAIDAI UNIVERSITY イベロアメリカ研究センター ニュースレター」7:1-6, 2018, 査読無.

青山和夫「マヤ文字—マヤ文明」『図説古代文字入門』(河出書房新社), 103-112, 2018, 査読無.

Aoyama, Kazuo, Bárbara Arroyo, Hérry Rodríguez El Análisis de Microhuellas de Uso sobre Artefactos Líticos de Obsidiana de Kaminaljuyu de los Períodos Preclásico Tardío y Clásico Temprano. *XXXI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:1107-1118, 2018, 査読無.

青山和夫, バルバラ・アロヨ, ヘンリー・ロドリゲス「マヤ高地の黒曜石製石器とカカオの加工:グアテマラ高地カミナルフユ遺跡の実験使用痕研究」『古代アメリカ』21:89-101, 2018, 査読有.

ヘザー・マキロップ, 青山和夫「古典期マヤ文明の魚の加工と塩:ベリーズ南海岸パインズ・クリーク製塩遺跡群のチャート製石器の使用痕分析」『古代アメリカ』21:27-38, 2018, 査読有.

McKillop, Heather, Kazuo Aoyama Salt and Marine Products in the Classic Maya Economy from Use-wear Study of Stone Tools. *Proceedings of the National Academy of Sciences National Academy of Sciences* 115(43):10948-10952, <https://doi.org/10.1073/pnas.1803639115>, 2018, 査読有.

Hasegawa, Etsuo Excavaciones en el sitio Chilamatillo (N-Ma-8-100), Municipio de Tipitapa, Managua, departamento de Nicaragua. *Mi Museo y Vos* 33:24-37, 2018, 査読無.

Ichikawa, Akira Strengthening social relationships through community archaeology at Nueva Esperanza, El Salvador: Challenges and lessons. *Journal of Community Archaeology and Heritage* 5(4):222-236, 2018, 査読有.

Ichikawa, Akira, Juan Manuel Guerra Nuevo Aporte sobre el Tema de la Erupción del Volcán Ilopango desde el sitio San Andrés, Departamento de La Libertad, El Salvador. *Anales del Museo Nacional de Antropología Dr. David J. Guzmán* 56:22-41, 2018, 査読無.

Ichikawa, Akira, Juan Manuel Guerra Producción de alfarería en el sitio arqueológico San Andrés. *Journal of Humanities, Nagoya University* 1:433-446, 2018, 査読無.

市川彰「トウモロコシから生まれた男たち/中米・マヤ神話」『世界の始まりが見える世界の神話』(創元社), 12-17, 2018, 査読無.

市川彰「エルサルバドル考古学への青年海外協力隊の学術的貢献」岡部恭宣編『国際協力とグローバル人材育成のあいだ—青年海外協力隊への学際的接近』(ミネルヴァ書房), 114-115, 2018, 査読無.

市川彰「フィールドワークを展示することの意義」『名古屋大学教養教育院ギャラリー-clas: Annual』10:44-46, 2018, 査読無.

Murakami, Tatsuya, Shigeru Kabata, Julieta M. López, Paige Phillips A Multi-Method Approach to Reconstructing Occupational History and Activity Areas: A Case Study at the Formative Site of Tlalancaleca, Central Mexico. *Journal of Field Archaeology* 43:634-654, doi: 10.1080/00934690.2018.1537688, 2018, 査読有.

Sugiura Yamamoto, Yoko, Gustavo Jaimes Vences, Shigeru Kabata Omoya, Michael Glascock La obsidiana como un bien de intercambio entre el valle de Toluca y sus regiones circunvecinas durante el Clásico. *Anales de Antropología* 52:55-69, 2018, 査読有.

Tsukamoto, Kenichiro, Luz Evelia Campaña Valenzuela, Xanti Sirani Ceballos Pesina, Renato José Zamudio Gutiérrez, Dulce María Ramírez Hernández, Melina García Hernández, Hirokazu Kotegawa, Javier López Camacho Proyecto Arqueológico El Palmar en Campeche, México: Resultados de la Temporada de Campo 2016. *XXXI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:431-440, 2018, 査読無.

Aoyama, Kazuo Preclassic and Classic Maya Interregional and Long-Distance Exchange: A Diachronic Analysis of Obsidian Artifacts from Ceibal, Guatemala. *Latin American Antiquity* 28(2):213-231, <https://doi.org/10.1017/laq.2017.2>, 2017, 査読有.

Aoyama, Kazuo Ancient Maya Economy: Lithic Production and Exchange around Ceibal, Guatemala. *Ancient Mesoamerica* 27:279-303, <https://doi.org/10.1017/S0956536116000183>, 2017, 査読有.

Aoyama, Kazuo El Intercambio de Obsidiana durante los Períodos Preclásico y Clásico en Ceibal, Guatemala. *XXX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:949-959, 2017, 査読無.

Aoyama, Kazuo, Takeshi Inomata, Flory Pinzón, Juan Manuel Palomo The Development of Maya Civilization and Public Rituals of the Preclassic Maya: Polished Greenstone Celt Caches from Ceibal, Guatemala. *Antiquity* 91(357):701-717, <https://doi.org/10.15184/aqy.2017.44>, 2017, 査読有.

Aoyama, Kazuo, Takeshi Inomata, Daniela Triadan, Flory Pinzón, Juan Manuel Palomo, Jessica MacLellan, Ashley Sharpe Early Maya Ritual Practices and Craft Production: Late Middle Preclassic Ritual Deposits Containing Obsidian Artifacts at Ceibal, Guatemala. *Journal of Field Archaeology* 42(5):408-422, <https://doi.org/10.1080/00934690.2017.1355769>, 2017, 査読有.

青山和夫「先古典期マヤ文明の王権の起源と形成」『古代文化』68(4):58-65, 2017, 査読有.

青山和夫「マヤ文明の多様性と自然環境」『人間と自然環境の世界誌 知の融合への試み』(専修大学出版局), 52-56, 2017, 査読無.

青山和夫「メソアメリカの農耕と文明の形成」『農耕の起源と拡散』(高志書院), 289-306, 2017, 査読無.

青山和夫「南北アメリカ文明」『詳説 世界史研究』(山川出版社), 100-102, 2017, 査読無.

青山和夫, 嘉幡茂, 市川彰, 長谷川悦夫, 福原弘織, 塚本憲一郎「メソアメリカ文明の通時的比較研究序論」『古代アメリカ』20:79-94, 2017, 査読有.

Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Kazuo Aoyama After 40 Years: Revisiting Ceibal to Investigate the Origins of Lowland Maya Civilization. *Ancient Mesoamerica* 28(1):187-201, <https://doi.org/10.1017/S0956536117000037>, 2017, 査読有.

福原弘織「初期国家形成と政治戦略」『古代文化』68(4):84-92, 2017, 査読有.

Hasegawa, Etsuo Investigaciones arqueológicas en el sitio La Paz, Nicaragua. *Current Research Online, Society for American Archaeology* 305:1-6, 2017, 査読有.

長谷川悦夫「後古典期のニカラグア—民族移動、社会変動、環境適応—」『古代文化』68(4):101-109, 2017, 査読有.

Ichikawa, Akira Conserving Prehispanic Earthen Architecture in Modern Times: Toward Sustainable Conservation Activities. *Cultural Resource Studies* 16:19-34, 2017, 査読無.

Ichikawa, Akira Secuencia constructiva de La Campana (Estructura-5), San Andrés, El Salvador. *Journal of the School of Letters* 13:45-55, 2017, 査読無.

Ichikawa, Akira The Effects on Ancient Maya Society of the Catastrophic Holocene-epoch Eruption of Ilopango. *IAR Letters* 15:9-10, 2017, 査読無.

市川彰「メソアメリカ文明と火山噴火—イロパンゴ火山の噴火を中心に—」『考古学研究』64:60-74, 2017, 査読有.

市川彰「メソアメリカ南東部周縁社会の盛衰と巨大噴火」『古代文化』68(4):93-100, 2017, 査読有.

市川彰「先スペイン時代の土製建造物を現代にいかに残すか—持続可能な保存活動にむけて—」『文化資

源学研究』16:1-18, 2017, 査読無.

嘉幡茂, 村上達也, フリエタ・マルガリータ＝ロペス・フアレス「自然景観を取り込んだ古代都市:トラランカレカ」『古代文化』68(4):75-83, 2017, 査読有.

Murakami, Tatsuya, Shigeru Kabata, Julieta M. López, José Juan Chávez V. Development of an early city in Central Mexico: the Tlalancaleca Archaeological Project. *Antiquity* 91(356):455-473, doi: <https://doi.org/10.15184/aqy.2016.268>, 2017, 査読有.

Tsukamoto, Kenichiro Reverential Abandonment: A Terminal Ritual at the Ancient Maya Polity of El Palmar. *Antiquity* 91(360):1630-1646, doi: [10.15184/aqy.2017.143](https://doi.org/10.15184/aqy.2017.143), 2017, 査読有.

塚本憲一郎「古典期マヤ文明の広場と政治権力」『古代文化』68(4):66-74, 2017, 査読有.

Aoyama, Kazuo Warfare, Warriors, and Weapons. *Encyclopedia of the Ancient Maya* (Rowman & Littlefield), 376-379, 2016, 査読有.

Aoyama, Kazuo La Manufactura de los Objetos de Concha y Lapidaria entre los Antiguos Mayas: Los Resultados del Análisis de Microhuellas de Uso sobre Artefactos Líticos con el Microscopio de Gran Alcance. *XXIX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:1031-1040, 2016, 査読無.

青山和夫「ヘビに教えてもらった「ポジティブ思考」」『持続する情熱 完全保存版 青年海外協力隊 50年の軌跡』(万葉舎), 342, 2016, 査読無.

青山和夫「マヤ文明—出会いと日常生活」『科学者の目、科学の芽』(岩波書店), 88-92, 2016, 査読無.

長谷川悦夫「中央アメリカ、ニカラグア共和国マナグア湖畔の考古学調査」『埼玉大学紀要(教養学部)』52:233-241, 2016, 査読無.

Ichikawa, Akira, Oscar Camacho Investigaciones recientes en el sitio arqueológico San Andrés, El Salvador. *XXIX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:551-560, 2016, 査読無.

Ichikawa, Akira Cuando y cómo fue la erupción del Volcán Ilopango, El Salvador: Síntesis desde la óptica arqueológica. *Journal of School of Letters, Nagoya University* 12:23-43, 2016, 査読無.

市川彰「第12回「土の建築」世界会議(TERRA)参加録」『考古学研究』63(3):16-19, 2016, 査読無.

市川彰, 八木宏明「マヤ南東地域サポティタン盆地の編年再考—テフロクロロジーと土器の分析から—」『古代アメリカ』19:1-33, 2016, 査読有.

市川彰「現代社会と考古学の切っても切れない関係」『月刊名大文学部』76:1, 2016, 査読無.

市川彰「古代メソアメリカ文明の周縁史を紐解く」名古屋大学大学院文学研究科エクスプレス 10, 2016, 査読無

嘉幡茂「メキシコの考古学事情(前編)」『考古学ジャーナル』689:31-33, 2016, 査読無.

嘉幡茂「メキシコの考古学事情(後編)」『考古学ジャーナル』692:32-34, 2016, 査読無.

塚本憲一郎「古典期マヤの都市国家におけるイデオロギーのせめぎあい—メキシコ合衆国エル・パルマル遺跡の考古学調査と碑文解説から—」『考古学研究』62:71-90, 2016, 査読有.

Aoyama, Kazuo Microwear Analysis of the Obsidian Macroblade. *Temple of the Night Sun: A Royal Tomb at El Diablo, Guatemala* (Precolumbian Mesoweb Press), 240-242, 2015, 査読有.

Aoyama, Kazuo La complejidad socioeconómica maya del período Preclásico Medio: un análisis diacrónico de artefactos líticos en y alrededor de Ceibal, Guatemala. *XXVIII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:889-900, 2015, 査読無.

Aoyama, Kazuo, Elizabeth Graham Ancient Maya Warfare: Exploring the Significance of Lithic Variation in Maya Weaponry. *Lithics: the Journal of the Lithic Studies Society* 36:5-17, 2015, 査読有.

青山和夫「マヤ文明の起源と公共祭祀—グアテマラ・セイバル遺跡の公共祭祀建築と緑色石製磨製石斧の供物を中心に—」『古代文化』67:53-72, 2015, 査読有.

青山和夫「最近20年のマヤ文明研究の流れの中で」『チャスキ』, 18-19, 2015, 査読無.

青山和夫「開発と環境問題:マヤ文明の歴史的教訓」『世界史のしおり』2015年度2学期, 12-14, 2015, 査読無.

福原弘識「考古学者による古代遺跡の資源化とそのジレンマ:国家的モニュメントとしてのテオティワカン」『古代アメリカ』18:131-142, 2015, 査読有.

福原弘識「暦と神々」『世界の名前』(岩波書店), 236-239, 2015, 査読無.

Ichikawa, Akira, Roberto Gallardo, Hugo Díaz, Julio Alvarado Nuevos datos de radiocarbono relacionados con la erupción del volcán Ilopango. *Anales del Museo Nacional de Antropología Dr. David J. Guzmán* 53:160-175,

2015, 査読有.

Ichikawa, Akira Antes de la erupción del Volcán Ilopango en el Bajo Lempa, El Salvador. *XXVIII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:423-432, 2015, 査読無.

Ichikawa, Akira Evidencias arqueológicas de conflictos en Chalchuapa, El Salvador. *Memoria de V Congreso Centroamericano de Arqueología, El Salvador*, 73-80, 2015, 査読無.

市川彰, 南雅代, 八木宏明「メソアメリカ南東部太平洋沿岸部における先スペイン期製塩活動—エルサルバドル共和国ヌエバ・エスペランサ遺跡を中心に—」『日本考古学』40:1-18, 2015, 査読有.

嘉幡茂「メキシコで考古学調査を行う意義と課題—トラランカレカ考古学プロジェクト」を介して」『京都外国語大学国際文化資料館紀要』11:1-11, 2015, 査読無.

嘉幡茂, 村上達也「古代メソアメリカ文明における古代国家の形成史復元:『トラランカレカ考古学プロジェクト』の目的と調査動向」『古代文化』67:99-109, 2015, 査読有.

Tsukamoto, Kenichiro, Octavio Esparza Olguín Ajpach' Waal: The Hieroglyphic Stairway of the Guzmán Group of El Palmar, Campeche, Mexico. *Maya Archaeology* 3:31-55, 2015, 査読有.

Tsukamoto, Kenichiro, Javier López Camacho, Luz Evelia Campaña, Kotegawa Hirokazu, Octavio Esparza Olguín Political Interactions among Social Actors: Spatial Organization at the Classic Maya Polity of El Palmar, Campeche, Mexico. *Latin American Antiquity* 26:200-220, doi: <https://doi.org/10.7183/1045-6635.26.2.200>, 2015, 査読有.

塚本憲一郎「古代マヤ文明の広場—メキシコ合衆国エル・パルマール遺跡から—」『筑波大学ニューズレター:現代文明の起草としての古代西アジア文明』6:15-16, 2015, 査読無.

Aoyama, Kazuo Symbolic and Ritual Dimensions of Exchange, Production, Use, and Deposition of Ancient Maya Obsidian Artifacts. *Obsidian Reflections: Symbolic Dimensions of Obsidian in Mesoamerica* (University Press of Colorado), 127-158, 2014, 査読有.

青山和夫「先古典期マヤ文明の遠距離交換と石器製作—グアテマラ共和国セイバル遺跡の先古典期中期の打製石器—」『考古学研究』61:83-94, 2014, 査読有.

青山和夫「『真の世界史』から学ぶ」『一冊の本』2014.8, 12-13, 2014, 査読無.

市川彰「メソアメリカ考古学における日本人研究者」『京都外国語大学京都ラテンアメリカ研究所紀要』14:51-72, 2014, 査読無.

嘉幡茂, 村上達也, フリエタ・M・ロペス, ホセ・J・チャベス・V, 福原弘識「メキシコ中央高原における初期国家形成の解明に向けて—トラランカレカ遺跡考古学プロジェクト—」『古代アメリカ』17:53-72, 2014, 査読有.

公募研究

Ito, Nobuyuki, Shigeru Kitamura La Gigantesca Erupción Volcánica en la Frontera Mesoamericana. *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración* (Universidad Nacional Autónoma de México), in press, 2020, 査読有.

Ito, Nobuyuki, David Stuart Chalchuapa: Capital regional en el occidente de El Salvador. *Arqueología Mexicana* 155:82-87, 2019, 査読有.

Ito, Nobuyuki, Shigeru Kitamura, Misaki Fukaya Antes y Después de la erupción volcánica del Ilopango en El Trapiche, Chalchuapa, El Salvador. *XXXI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:707-718, 2018, 査読無.

伊藤伸幸「“様式化したジャガー頭部”石彫について(2)—メソアメリカ南東部太平洋側における意味を考える—」『名古屋大学文学部研究論集』63(188):47-72, 2017, 査読有.

Ito, Nobuyuki ¿Jaguar o murciélago? Cabezas de jaguar encontradas en El Trapiche, Chalchuapa, El Salvador. *Científica* 3(1):7-21, 2017, 査読無.

Fukaya, Misaki, Nobuyuki Ito Estudio cronológico de El Trapiche, Chalchuapa, El Salvador, a través del análisis cerámico del periodo Preclásico con fechamiento por Carbono 14. *XXX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:839-848, 2017, 査読無.

深谷岬, 伊藤伸幸「チャルチュアパ遺跡エル・トラピチェ地区の放射性炭素年代測定—マヤ南部地域先古典期～古典期土器編年の再構築にむけて—」『古代アメリカ』19:77-88, 2016, 査読有.

Ito, Nobuyuki Chalchuapa como capital regional del occidente de El Salvador durante el Preclásico Tardío. *XXIX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:33-44, 2016, 査読無.

Fukaya, Misaki, Nobuyuki Ito, Shione Shibata La secuencia cronológica de Chalchuapa, El Salvador, a través del análisis cerámico. *XXIX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:871-878, 2016, 査読無.
伊藤伸幸「“様式化したジャガー頭部”石彫について(1)」『名古屋大学文学部研究論集』62(185):101-123, 2016, 査読有.

Ito, Nobuyuki, S. Shibata, Julio Alvarado, Miriam Méndez Dos Cabezas de Jaguar Estilizado, excavaciones en El Trapiche, Chalchuapa, El Salvador. *XXVIII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*:747-758, 2015, 査読無.

研究項目 A03

計画研究

Eda, Masaki, Takeshi Yamasaki, Masato Sakai Identifying the bird figures of the Nasca pampas: An ornithological perspective. *Journal of Archaeological Science: Reports* 26:101875, 2019, 査読有.

Matsumoto, Yuichi Paracas en la sierra: Interacción Temprana entre la Sierra Centro-sur y Costa sur. *Peruvian Archaeology* 3:33-64, 2019, 査読有.

本多薫, 門間政亮「ナスカ台地におけるラインセンターの可視領域の範囲と配置について—可視領域解析による可視・不可視領域からの分析—」『山形大学人文社会科学部研究年報』16:31-41, 2019, 査読有.

Sakai, Masato, Jorge Olano Pampa de Nasca 2000 años de actividad en los geoglifos. *El Top Anual De Los Grandes Descubrimientos del Perú* (Editorial TDP), 336-345, 2018, 査読無.

坂井正人「ナスカの地上絵:分布調査、遺跡の保護と保存」『アンデス古代の探求』(中央公論新社), 151-168, 2018, 査読無.

坂井正人「論説 ナスカの地上絵:日本の学術研究と保護をめぐる」『都市清掃』71(343):303-331, 2018, 査読無.

千葉清史「アーサー・ダントの「歴史の物語論」と反実在論」『東北哲学会年報』34:49-61, 2018, 査読有.

Sakai, Masato, Jorge Olano Líneas y Figuras de la Pampa de Nazca. *Nasca* (Asociación Museo de Arte de Lima, Museo Rietberg), 124-131, 2017, 査読無.

Sakai, Masato, Yoshimitsu Ccoyllo, Jorge Olano, Yuichi Matsumoto, Atsushi Yamamoto Avances del Proyecto de Investigación Arqueológica Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca, Campaña 2014. *Actas del II Congreso Nacional de Arqueología* 2:31-35, 2017, 査読無.

坂井正人「ナスカの地上絵と神殿:アンデス文明のイデオロギーと権力をめぐって」『古代文化』69(1):63-72, 2017, 査読有.

山本睦, 坂井正人, ホルヘ・オラーノ, 松本雄一「ペルー南海岸、ラ・ベンティーヤ遺跡の発掘調査」『古代アメリカ』20:95-106, 2017, 査読有.

瀧上舞「アンデス文明における食性変化—ナスカ地域の事例より—」『古代文化』69(1):73-83, 2017, 査読有.

門間政亮, 本多薫「直線の地上絵における形状と制作時期との関係について」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』14:35-44, 2017, 査読有.

伊藤晶文「ペルー, ナスカ台地における現在の地形変化と岩屑の移動」『季刊地理学』69:149-150, 2017, 査読無.

Sakai, Masato, Jorge Olano Resultados preliminares del Proyecto de Investigación Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca. *Actas del Primer Congreso Nacional de Arqueología* 1:283-290, 2016, 査読無.

本多薫, 門間政亮「ナスカ台地におけるラインセンター間の移動距離と負担との関係—歩行時の心拍数を指標として—」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』13:13-27, 2016, 査読有.

伊藤晶文「ペルー, ナスカ盆地周辺の砂漠レス」『山形大学歴史・地理・人類学論集』18:1-5, 2017, 査読無.

渡邊洋一, 本多薫, 門間政亮「ナスカ台地の移動時における直線の地上絵とラインセンターの利用—ウェアラブルカメラを用いた分析—」『山形大学紀要(人文科学)』18(3):139-154, 2016, 査読有.

本多薫, 門間政亮「ナスカ台地におけるラインセンター間の移動について(第3報)—最短経路と経路選択からの検証—」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』12:1-14, 2015, 査読有.

千葉清史「二世界解釈と二側面解釈:そもそも何が問題だったのか?」『近世哲学研究』18:1-35, 2014, 査読有.

Chiba, Kiyoshi Kants Ablehnung des apagogischen Beweises in der <Transzendentalen Methodenlehre>. *XXIII Kongress der Deutschen Gesellschaft fuer Philosophie, Online Publikation*, 1-8, 2014, 査読有.

Takigami, Mai, Izumi Shimada, Rafael Segura, Hiroyuki Matsuzaki, Fuyuki Tokanai, Kazuhiro Kato, Hitoshi Mukai, Omori Takayuki, Minoru Yoneda Assessing the Chronology and Rewrapping of Funerary Bundles at the pre-Hispanic Religious Center of Pachacamac, Peru. *Latin American Antiquity* 25(3):322-343, doi: 10.7183/1045-6635.25.3.322, 2014, 査読有.

公募研究

Matsumoto, Go, Gabriela De Los Ríos, Jordi Rivera Prince, Marie Noguchi, Gabriel Villegas Julca Paisaje ritual de la Gran Plaza en el núcleo ceremonial de Huacas de Sicán. *Paisaje y territorio: prácticas sociales e interacciones regionales en los andes centrales* (Universidad Nacional Mayor de San Marcos), in press, 2020, 査読有.

Tsurumi, Eisei Early settlement and cultural landscape in the Tembladera area of the middle Jequetepeque Valley. *New Perspectives on Early Peruvian Civilization: Interaction, Authority and Socioeconomic Organization during the 1st and 2nd Millennia B.C.* (Yale University Publications in Anthropology 94), 19-34, 2019, 査読有.

Kadowaki, S., Tamura, T., Sano, K., Kurozumi, T., Maher, L. A., Wakano, J. Y., Omori, T., Kida, R., Hirose, M., Massadeh, S., Henry, D. O. Lithic technology, chronology, and marine shells from Wadi Aghar, southern Jordan, and Initial Upper Paleolithic behaviors in the southern inland Levant. *Journal of Human Evolution* 135:102646, 2019, 査読有.

金崎由布子, 大森貴之「アンデス文明形成期後期社会の変容: 「チャビン現象」終了年代の遺跡間・地域間比較をもとに」『年報人類学研究』9:61-86, 2019, 査読有.

Ito, L., Omori, T., Yoneda, M., Yamaguchi, T., Kobayashi, R., Takahashi, Y. Origin and migration of trace elements in the surface sediments of Majuro Atoll, Marshall Islands. *Chemosphere* 202:65-75, 2018, 査読有.

Kusumoto, S., Goto, T., Sugai, T., Omori, T., Satake, K. Geological evidence of tsunamis in the past 3800 years at a coastal lowland in the Central Fukushima Prefecture, Japan. *Marine Geology* 404:137-146, 2018, 査読有.

鶴見英成, カルロス・モラレス「アンデス形成期早期の神殿建築の成立の背景—モスキート平原の新知見から—」『古代アメリカ』21:1-25, 2018, 査読有.

鶴見英成『アンデス古代の探求 日本人研究者が行く最前線』(中央公論新社), 41-62, 2018, 査読無.

鶴見英成「アメリカ」『日本考古学・最前線』(日本考古学協会), 207-220, 2018, 査読無.

鶴見英成「コトシュ遺跡とハンカオ遺跡—ペルー考古学の光と影—」『考古学研究』259:123-125, 2018, 査読無.

松本剛「アンデス齊一説にもとづく祖先イメージの再検討—ペルー北海岸シカン遺跡からの考古学データをもとに—」『古代アメリカ』20:15-40, 2017, 査読有.

Tsurumi, Eisei El Período Formativo en el valle medio de Jequetepeque, norte del Perú. *Nayra Kunan Pacha. Revista de Arqueología Social* 1:175-186, 2017, 査読有.

鶴見英成「古代アンデス狩猟採集民の農耕民化—神殿, 交易ネットワークの形成」『狩猟採集民からみた地球環境史—自然・隣人・文明との共生』(東京大学出版会), 74-87, 2017, 査読有.

鶴見英成『古代アンデス文明展』(TBS テレビ), 64-67, 2017, 査読無.

鶴見英成「ペルー考古学の素描: フィールドでの対話」『月刊考古学ジャーナル』697: 29-34, 2017, 査読無.

鶴見英成「神殿がそこに建つ理由—ヘケペテケ川中流域における社会の変遷」『アンデス形成期の神殿と権力生成』(臨川書店), 355-384, 2017, 査読無.

浅見恵理, 鶴見英成「チャンカイ文化の染織品の研究」『古代アメリカ』20:107-122, 2017, 査読有.

Tsurumi, Eisei, Carlos Morales Excavaciones en la plataforma Z1, Pampa de Mosquito. Primera evidencia del Arcaico Tardío en el valle medio del río Jequetepeque. *Arqueología y Sociedad* 30:353-372, 2016, 査読有.

鶴見英成, セサル・サラ「コトシュ遺跡の測量と形成期早期の神殿研究の展望」『古代アメリカ』19:35-46, 2016, 査読有.

Kaulicke, Peter, Eisei Tsurumi, Carlos Morales Arqueología y paisaje del arte rupestre formativo en la costa norte del Perú. *Boletín de SIARB* 29:18-24, 2015, 査読無.

研究項目 A04

計画研究

Suzuki, Motoi Entre Arqueología y Etnografía: Un Estudio Museográfico de la Representación de Mesoamérica en el Museo Nacional de Antropología, México. *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración* (Universidad Nacional Autónoma de México), in press, 2020, 査読有.

鈴木紀「マヤ」信田敏宏編『先住民の宝』(国立民族学博物館), 75-79, 2020, 査読無.

Honya, Yuko El movimiento nacional de tejedoras mayas para defender el derecho de la propiedad intelectual en el caso de la cultura indumentaria de las mujeres indígenas en Guatemala. *Journal of the International Association of Costume* 57, in press, 2020, 査読有.

Honya, Yuko Traje e identidad en el caso de las mujeres indígenas en el altiplano de Guatemala. *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración* (Universidad Nacional Autónoma de México), in press, 2020, 査読有.

本谷裕子「衣文化の集団的知的所有権の保護に向けて—グアテマラ中西部高地・マヤ先住民女性による社会運動」和崎春日・鈴木裕之・中野紀和・梅屋潔編『響きあうフィールド躍動する社会』(刀水書房), 80-92, 2020, 査読無.

本谷裕子「織りと装いの文化とその集団的知的所有権を守る戦い—グアテマラ中西部高地・マヤ先住民女性の事例から」『法学研究』93(1):23-47, 2020, 査読無.

本谷裕子「民族衣装」信田敏宏編『先住民の宝』(国立民族学博物館), 80-83, 2020, 査読無.

本谷裕子「ナワラ集落の民族衣装の変遷」信田敏宏編『先住民の宝』(国立民族学博物館), 84-85, 2020, 査読無.

本谷裕子「変化する民族衣装」信田敏宏編『先住民の宝』(国立民族学博物館), 86-89, 2020, 査読無.

本谷裕子「先スペイン期起源の織りと装いの伝統を守る—グアテマラ高地のマヤ先住民女性による社会運動」『季刊民族学』171:48-55, 2020, 査読無.

Inoue Okubo, Yukitaka La Historia Cronológica de la Noble Ciudad de Tlaxcala en la Historiografía Indígena Novohispana. *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración* (Universidad Nacional Autónoma de México), in press, 2020, 査読有.

Kobayashi, Takanori El Dilema entre la Conservación de Patrimonio Cultural y el Aprovechamiento de Recursos: El Movimiento Civil por la Tierra, la Historia y la Identidad en Cholula, México. *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración* (Universidad Nacional Autónoma de México), in press, 2020, 査読有.

禪野美帆「水資源の利用権をめぐるコンフリクト—メキシコ市内旧先住民村落の事例—」和崎春日編『響きあうフィールド 躍動する世界』(刀水書房), 446-458, 2020, 査読無.

Shakuya, Shigeki La Imagen Turística de Chichén Itzá como Patrimonio Mundial: De la Situación Pendiente de la Invasión de los Vendedores Locales y el Control Adecuado de la Imagen del Sitio. *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración* (Universidad Nacional Autónoma de México), in press, 2020, 査読有.

Suzuki, Motoi Arte Popular: Contemporary Expression of Mexican Crafts. *Minpaku Anthropology Newsletter* 49:12-13, 2019, 査読無.

鈴木紀「百花繚乱のアルテ・ポプラーへのいざない」『月刊みんぱく』505:2-3, 2019, 査読無.

鈴木紀「アルテ・ポプラー—メキシコの造形表現のいま」『季刊民族学』170:85-97, 2019, 査読無.

鈴木紀「チョコレートとチョコラテ—カカオを楽しむ 2 つの伝統—」『関西外国語大学イベロアメリカ研究センターニューズレター』7:5-9, 2019, 査読無.

鈴木紀「明日の博物館 Museu do Amanhã / ブラジル」『月刊みんぱく』498:16-17, 2019, 査読無.

工藤由美「マプーチェ医療とチリ人患者:サンティアゴの先住民医療の現場から」森明子編『ケアが生まれる場: 他者とともに生きる社会のために』(ナカニシヤ出版), 277-296, 2019, 査読有.

Inoue Okubo, Yukitaka Los tlatoque en la Decimatercia relación de Fernando de Alva Ixtlilxóchitl. *Dimensión Antropológica* 76:12-27, 2019, 査読有.

井上幸孝「植民地時代メキシコ中央部の先住民村落における「権原証書」(títulos primordiales)の作成と使用」『近代ヒスパニック世界と文書ネットワーク』(悠書館), 20 頁, 2019, 査読有

Suzuki, Motoi La diversidad en la representación de las civilizaciones prehispánicas: un estudio comparativo de la museografía. *Arte: memoria del 56o Congreso Internacional de Americanistas 3* (Ediciones Universidad de Salamanca), 256-258, 2018, 査読無.

Suzuki, Motoi Para el “Renacimiento” de las civilizaciones prehispánicas: un estudio comparativo de representación museográfica. *América Latina y el mundo del siglo XXI: Percepciones, interpretaciones e interacciones 2* (Universidad Megatrend), 245-251, 2018, 査読有.

鈴木紀「遙かな新大陸へ—波乱の旅・豊穡な旅」『太陽の塔からみんぱくへ—70年万博収集資料』国立民族学博物館, 16頁, 2018, 査読無.

Ikezuki, Wataru Repensando el significado de “interculturalidad” para continuar y mantener la civilización antigua andina en el contexto cultural contemporáneo por los indígenas y la educación bilingüe intercultural en Ecuador. *América Latina y el mundo del siglo XXI: Percepciones, interpretaciones e interacciones 2* (Universidad Megatrend), 253-258, 2018, 査読有.

Ikezuki, Wataru Revalorización de la “interculturalidad” en la relación entre el pasado y la diversidad cultural contemporánea de los indígenas en Ecuador. *Arte: memoria del 56o Congreso Internacional de Americanistas 3* (Ediciones Universidad de Salamanca), 413-417, 2018, 査読無.

井上幸孝「17世紀初頭の先住民クロニカに見るアステカ征服—アルバ・イシュトリルショチトルの『第13報告書』のテツココ王に関する記述をめぐって—」『専修人文論集』103:163-183, 2018, 査読無.

井上幸孝「民族と文化の混濁—征服から現代まで」先住民文化の資源化』『世界地誌シリーズ 10: 中部アメリカ』(朝倉書店), 14頁, 2018, 査読無.

井上幸孝「サパタ・イ・メンドサ」高貴なるトラスカラ市の年代史』に関する—考察』『人文科学年報』48:63-81, 2018, 査読無.

Kudo, Yumi Adaptación ideológica y práctica de la medicina mapuche en región metropolitana de Chile. *Arte: memoria del 56o Congreso Internacional de Americanistas 3* (Ediciones Universidad de Salamanca), 413-417, 2018, 査読無.

Kudo, Yumi La medicina mapuche en el ambiente urbano: un caso en Santiago de Chile. *América Latina y el mundo del siglo XXI: Percepciones, interpretaciones e interacciones 2* (Universidad Megatrend), 345-351, 2018, 査読有.

小林貴徳「マンガで学ぶ郷土の歴史と文化遺産—メキシコ、トラランカレカにおける遺跡に関する住民の知識と経験をめぐって—」『京都外国語大学ラテンアメリカ研究所「紀要」』18:25-45, 2018, 査読有.

小林貴徳「メキシコにおける共同研究「(考古学+文化人類学)×マンガ」のパーспекティブ」『チャスキ』57:5-8, 2018, 査読無.

Shakuya, Shigeki El patrimonio cultural y la naturaleza en la situación del turismo masivo: el caso de los parques arqueológicos en la parte norte del Caribe Mexicano. *América Latina y el mundo del siglo XXI: Percepciones, interpretaciones e interacciones 1* (Universidad Megatrend), 339-344, 2018, 査読有.

杓谷茂樹「多様なツーリズム—マスツーリズムから「新しい観光」まで—」『世界地誌シリーズ 10: 中部アメリカ』(朝倉書店), 12頁, 2018, 査読無.

杓谷茂樹『ポ波尔・ヴフ』西日対訳版と林屋永吉』『いえらつく(Ielak)』34:9-10, 2018, 査読無.

禪野美帆「メキシコ市内旧先住民村落居住者の自決権をめぐる諸問題」『関西学院大学人権研究』22:11-19, 2018, 査読無.

Honya, Yuko Crear la comunidad y el vínculo a través de los tejidos a mano: el caso de las mujeres indígenas de Guatemala. *Actas del 3er encuentro de textiles mesoamericanos 3*:158-168, 2018, 査読無.

本谷裕子「中西部高地先住民の織りと装い」村ごとに異なる華やかな祭礼衣装』『グアテマラを知るための67章』(明石書店), 10頁, 2018, 査読無.

鈴木紀「メキシコ合衆国」『世界の暦文化事典』(丸善書店), 4頁, 2017, 査読無.

鈴木紀「博物館展示の調査技術: 私的ヴァーチャル・ミュージアムの構築方法」『古代アメリカ学会会報』42:11-13, 2017, 査読無.

鈴木紀「考古学と民族誌の間で: メキシコ国立人類学博物館の楽しみ方」『チャスキ』55:8-11, 2017, 査読無.

鈴木紀「博物館の中のマヤ文明: 表象と政治性」『古代文化』69(1):96-108, 2017, 査読有.

井上幸孝「植民地時代の先住民記録に見る先スペイン期の歴史像の形成」『古代文化』69(1):84-95, 2017, 査読有.

小林貴徳「メキシコ、ゲレロ山岳部につめ寄る鉱山開発、それに向き合う先住民コミュニティの応答」『人権を考える 関西外国語大学人権教育思想研究所紀要』20:39-56, 2017, 査読有.

禪野美帆「メキシコ市内旧先住民におけるカトリックの祭礼をめぐる統合と対立」『商学論究』64 (6):147-164, 2017, 査読無.

本谷裕子「グアテマラ高地先住民女性の織りと装いが織りなす異文化受容」『民族藝術』33:32-38, 2017, 査読有.

藤掛洋子「パラグアイのグアラニー語とグアラニー文化の表象」『ラテンアメリカ時報』1420:42-45, 2017, 査読無.

鈴木紀「ミュージアムの中の古代アメリカ文明」『民博通信』152:4-9, 2016, 査読無.

井上幸孝「メソアメリカの世界像—征服前からスペイン統治下の変容まで」『「世界史」の世界史』ミネルヴァ書房, 16 頁, 2016, 査読無.

井上幸孝「西洋の拡張と土地の命名(2)—命名パターンの存続と変容—」『専修人文論集』99:169-188, 2016, 査読無.

杓谷茂樹「世界遺産チチェン・イツァの「観光イメージ」の適切なコントロールに向けて」『古代アメリカ学会会報』40:117-120, 2016, 査読無.

禪野美帆「近隣居住者の資源としての考古遺跡:メキシコ市内旧先住民村落とエヒードの事例」『商学論究』63(4):171-186, 2016, 査読無.

本谷裕子「ラテンアメリカから世界を考える」『三色旗』816:42-50, 2016, 査読無.

本谷裕子「変わりゆく「伝統」衣装—グアテマラ高地先住民女性の事例より」『慶應教養論叢』137:47-63, 2016, 査読無.

鈴木紀「資源化される古代文明:遺跡の調査と活用に関わるアクター分析—序論」『古代アメリカ』18:95-102, 2015, 査読有.

井上幸孝「西洋の拡張と土地の命名(1)—コロンの第1回航海と「新しい」の系譜」『専修人文論集』97:197-224, 2015, 査読無.

小林貴徳「守るべき遺産、活用すべき資源—メキシコ、 Cholula における文化的景観をめぐる行政と市民連帯」『古代アメリカ』18:103-116, 2015, 査読有.

杓谷茂樹「資源としての「古代都市チチェン・イツァ」—交叉するステークホルダーそれぞれの思惑と地元露店商」『古代アメリカ』18:117-130, 2015, 査読有.

Zenno, Miho Los movimientos sociales de los habitantes originarios de una colonia residencial en la Ciudad de México.『京都ラテンアメリカ研究所紀要』15:97-113, 2015, 査読有.

禪野美帆「メキシコ市内の旧先住民村落における情報空間:誰に何を伝えられるのか」『森羅万象のささやき:民俗宗教研究の諸相』(風響社), 309-328, 2015, 査読無.

藤掛洋子「パラグアイの女性たちの今日的ジェンダー課題」『わたしの21世紀』84:28, 2015, 査読無.

本谷裕子「「現代」マヤイメージの生成と変容:グアテマラ高地・女性の織りと装い」『森羅万象のささやき:民俗宗教研究の諸相』(風響社), 285-308, 2015, 査読無.

井上幸孝「ヌエバ・エスパーニャの先住民記録に見る日本とアジア:チマルパインの『日記』を中心に」『スペイン史研究』28:20-27, 2014, 査読無.

Inoue, Yuki Un análisis de dos Codices Techialoyan: Huixquilucan y Cuajimalpa. *Quaderni di Thule* 13:609-614, 2014, 査読無.

井上幸孝「メキシコ合衆国」(他 35 項目)『世界地名大事典 9:中南アメリカ』(朝倉書店), 45 頁, 2014, 査読無.

工藤由美「テムコ」(他 43 項目)『世界地名大事典 9:中南アメリカ』(朝倉書店), 49 頁, 2014, 査読無.

小林貴徳「Cholula の都市祭礼コミュニティ:バリオのこどもの結束力」『創造するコミュニティ:ラテンアメリカの社会関係資本』(晃洋書房), 30 頁, 2014, 査読無.

小林貴徳「メキシコにおける観光開発政策の転換と地域活性:「プエブロス・マヒコス(魅惑的な町)」『アメリカスのまなざし:再魔術化される観光』(天理大学出版部), 20 頁, 2014, 査読無.

小林貴徳「中央部モレロス州の町村」(他 38 項目)『世界地名大事典 9:中南アメリカ』(朝倉書店), 49 頁, 2014, 査読無.

杓谷茂樹「ある日チチェン・イツァ遺跡公園で感じた違和感について:露店商不法侵入問題のいま」『古代アメリカ学会会報』36:4-7, 2014, 査読無.

杓谷茂樹「マヤ文明とパワースポット」『まほら』80:14-15, 2014, 査読無.

杓谷茂樹「切り拓かれるべき自然、包み込む「自然」:カンクン・ホテルゾーンの遺跡公園の見せ方をめぐって」『アメリカスのまなざし:再魔術化される観光』(天理大学出版部), 20 頁, 2014, 査読無.

杓谷茂樹「アナワク高原」(他 12 項目)『世界地名大事典 9:中南アメリカ』(朝倉書店), 23 頁, 2014, 査読無.

禪野美帆「オアハカデフアレス」(他 3 項目)『世界地名大事典 9:中南アメリカ』(朝倉書店), 5 頁, 2014, 査読無.

本谷裕子「スペイン語を始めましょう:魅惑のメソアメリカへようこそ」『三色旗』797:18-23, 2014, 査読無.

藤掛洋子「特集南米/参加型社会/クレオール:参加型・対話型のヴィジョン:フィールドワークからのまなざし」, 『YEAR BOOK』横浜国立大学都市イノベーション学府/研究院, 6 頁, 2014, 査読無.

藤掛洋子「はじめに」「あとがき」『パラグアイ戦争史:トンプソンが見たパラグアイと三国同盟戦争』中南米マガジン, 13 頁, 2014, 査読無.

藤掛洋子「国境を越えひろがる市民活動:国際協力と地域活動をつなぐ」『ブックレット地域創造論』横浜国立大学, 11 頁, 2014, 査読無.

国際活動支援班

Dupeyron, Agathe, Daniel Saucedo Conference Review: WAC-8 in Kyoto — ‘Leave politics alone’ ?" *Public Archaeology* 16(2):124-127, 2018, 査読有.

Saucedo Segami, Daniel Dante La problemática del patrimonio urbano en Lima, Perú. *Arte: memoria del 56o Congreso Internacional de Americanistas* 3:248-254, 2018, 査読無.

Saucedo Segami, Daniel Dante Una visión crítica de los conceptos de puesta en valor y uso social desde la perspectiva de la arqueología pública. *Actas I Congreso Nacional de Arqueología Volumen III*. Ministerio de Cultura del Perú, 20-33, 2016, 査読無.

公募研究

Sato, Masaki Comentarios. *Revista Andina* 56:85-90, 2020, 査読無.

武田和久「ポリシア、レプブリカ、レドゥクシオン—スペイン植民地宗教政策としてのインカ文明の資源化(16-17 世紀)」『早稲田大学高等研究所紀要』11:103-132, 2019, 査読有.

大平秀一「ペルー・「ワロチリ文書」にみられる山の神々:色彩と明暗をめぐる感性・イメージ」『アンデス・アマゾン研究』3:1-55, 2019, 査読有.

上原なつき「死者儀礼アニメーロの変容と継続:儀礼の再興と中止からフォルクローレ・フェスティバルの演目化まで」『アンデス・アマゾン研究』1:73-89, 2018, 査読有.

大平秀一「アンデス先住民社会における変化と継承性」『古代アメリカ』20:1-14, 2017, 査読有.

佐藤正樹「プリズムとしての地方史—17 世紀ボリビア南西部におけるシルバーラッシュを題材に」『三色旗』814:3-9, 2017, 査読無.

2. 主な学会発表等 (令和元年7月現在)

学会発表は計456本(国内211本、国際245本)で、そのうち海外の招待講演は計24本である。国内だけでなくアメリカ、ドイツ、スペイン、イタリア、アイルランド、セルビア、ニュージーランド、メキシコ、グアテマラ、エルサルバドル、ペルー、パラグアイ、アルゼンチン、韓国などで研究発表を活発に行った。国際研究集会を国内で計20回、海外で計8回開催した。

[学会発表]計 454 本(内海外の招待講演 25 本)

研究項目A01・A02・A03・A04共同

青山和夫, 米延仁志, 坂井正人, 鈴木紀 新たな古代アメリカの比較文明論の構築に向けて。古代アメリカ学会第19回研究大会, 名古屋大学(名古屋市), 2014.12.7.

研究項目A01・A02・A03共同

Kitaba, Ikuko, Takayuki Omori, Yasuharu Hoshino, Tsuyoshi Haraguchi, Takeshi Nakagawa, Hiroo Nasu, Henry Lamb, Achim Brauer, Birgit Plessen, Katsuya Gotanda, Akira Hayashida, David Dettman, Hitoshi Hasegawa, Yoshitsugu Shinozuka, Kazuyoshi Yamada, Toshiyuki Fujiki, Motonari Ohyama, Flory Pinzón, Takeshi Inomata, Kazuo Aoyama, Hitoshi Yonenobu 'Stable' hydroclimate is specific to a narrow temperature window: observations from Guatemalan varves, 1448±4 to 2015±0 CE, XX INQUA Congress 2019, Dublin, Ireland, 2019.7.26-31.

福原弘識, 原口強, 大森貴之, 米延仁志 メキシコ中央高原における国家形成と環境変動。古代アメリカ学会第23回研究大会, 専修大学(川崎市), 2018.12.1.

研究項目A01・A02共同

原口強, 福原弘識, 千葉達朗, 米延仁志 メキシコ、テオティワカン文明に与えた火山噴火の影響。日本地球惑星科学連合2018年大会, 東京ベイ幕張ホール(千葉市), 2018.5.20.

研究項目 A01

(招待講演)Kitaba, Ikuko, Masayuki Hyodo, Takeshi Nakagawa, Shigehiro Katoh, David L. Dettman, Hiroshi Sato Cosmic rays' impact on climate is likely caused by cloud formation mechanisms, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, Makuhari, Japan, 2017.5.20-25.

(招待講演)Kitaba, Ikuko Footprints of the Sun Left in a Tropical Lake. Japanese-American Frontiers of Science (JAFoS) Symposium, Irvine, California USA, 2016.12.2-4.

Kitaba, Ikuko, Masayuki Hyodo, Takeshi Nakagawa, Shigehiro Katoh, David L. Dettman, Hiroshi Sato, Selective cooling on land supports cloud formation by cosmic ray during geomagnetic reversals, 2017 AGU Fall Meeting, New Orleans, USA, 2017.12.11-15.

Kitaba, Ikuko, Richard A. Staff, Yoshitsugu Shinozuka, Kazuyoshi Yamada, Katsuya Gotanda, Junko Kitagawa, Tsuyoshi Haraguchi, Takeshi Nakagawa, Hitoshi Yonenobu Spatio-temporal structure of deglacial climate change: climate changes reconstructed from varved sediments of Lake Ichi-no-megata, Northern Japan, and its correlation with global references, XIX INQUA Congress 2011, Nagoya, Japan, 2015.7.26-8.2.

Kitaba, Ikuko, Takeshi Nakagawa, Erin McClymont, David L. Dettman, Keitaro Yamada, Keiji Takemura, Masayuki Hyodo Towards Better Calibration of Modern Palynological Data against Climate: A Case Study in Osaka Bay, Japan, 2014 AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, 2014.12.15-19

研究項目 A02

研究計画

(招待講演)Tsukamoto, Kenichiro Politics in Ancient Maya Plazas. Guest Lecture at the Costen Institute of Archaeology, カリフォルニア大学ロサンゼルス校(ロサンゼルス市), 2018.11.14.

(招待講演)Aoyama, Kazuo Estudio de la lítica maya: Los resultados del análisis de los artefactos líticos de Copán, Aguateca y Ceibal (1986-2018). Coloquio Internacional México-Japón: Las Sociedades Mesoamericanas y los Cambios Culturales en su Proceso Histórico, メキシコ国立自治大学(メキシコ市),

2018.8.22.

(招待講演) Tsukamoto, Kenichiro, Quintín Hernández Gómez, Xanti S. Ceballos Pesina Resultado Preliminar del Mapeo mediante LiDAR en El Palmar, Campeche. Homenaje a Gerardo Jiménez Delgado, 国立人類学歴史学学院(メキシコ市), 2018.5.25.

(招待講演) Aoyama, Kazuo Rituales Públicos y la Producción Artesanal entre los Mayas del Preclásico Medio: un Estudio de Artefactos Líticos de Ceibal, Guatemala. Jornadas de Lítica Maya, メキシコ国立自治大学(メキシコ市), 2015.11.25.

青山和夫 マヤ文明の交換、ものづくり、宗教儀礼と戦争: グアテマラ、セイバル遺跡の石器の通時的研究. 古代アメリカ学会第 23 回研究大会, 専修大学(川崎市), 2018.12.1.

青山和夫 マヤ文明の研究の最前線. 耳科学問の会, 茨城大学(水戸市), 2018.11.14.

Arroyo, Bárbara, Takeshi Inomata, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu Contando el tiempo en Kaminaljuyu: fechamientos y la historia del Altiplano Maya. XXXII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, グアテマラ国立考古学民族学博物館(グアテマラ市), 2018.7.26.

Schieber de Lavarreda, Christa, Takeshi Inomata, Geremias Claudio, Juan Miguel Medina, Miguel Orrego Corzo, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu Cronología nueva con estratigrafía vieja en Tak'alik Ab'aj. XXXII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, グアテマラ国立考古学民族学博物館(グアテマラ市), 2018.7.25.

Ranchos Cruz, José Luis, Flory Pinzón, Takeshi Inomata, Kazuo Aoyama Aplicación del sistema LiDAR en la prospección arqueológica: un estudio de los alrededores del área protegida del sitio arqueológico Ceibal, Sayaxche, Petén. XXXII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, グアテマラ国立考古学民族学博物館(グアテマラ市), 2018.7.24.

Aoyama, Kazuo La problemática y valoración del pasado de los Mayas: Un caso de estudio sobre el sitio arqueológico de Ceibal, Guatemala. 56 Congreso Internacional de Americanistas, サラマンカ大学(スペイン、サラマンカ市), 2018.7.16.

青山和夫 コメント: 鹿又喜隆「エクアドル沿岸部の土器出現前後の変化」古代アメリカ学会 第 7 回西日本部会研究懇談会, 名古屋大学(名古屋市), 2018.6.30.

青山和夫 山形大学ナスカ・プロジェクトへのコメント. 日本アンデス調査 60 周年記念シンポジウム 日本アンデス調査団と山形大学ナスカ・プロジェクト, 山形大学(山形市), 2018.6.23.

長谷川悦夫 ニカラグア太平洋岸の後古典期—マナグア湖畔の発掘調査から. 古代アメリカ学会第 23 回研究大会, 専修大学(川崎市), 2018.12.1.

市川彰 噴火災害をどう乗り越えたか: 古代マヤ人の火山とともに生きる知恵・記憶. 南山大学人類学研究所シンポジウム「遺跡にみる在来知—モニュメント、自然環境、インターアクション」, 南山大学(名古屋市), 2018.12.26.

Ichikawa, Akira Architectural Development of Earthen Architecture in Southeastern Maya Frontier: San Andres, Zapotitan Valley, El Salvador. 56 Congreso Internacional de Americanistas, サラマンカ大学(スペイン、サラマンカ市), 2018.7.17.

Ichikawa, Akira Intraregional interaction in the Zapotitan Valley, El Salvador: The San Andres regional center and Joya de Ceren Village. 83rd Society for American Archaeology Annual Meeting, ワシントン DC コンベンションセンター(ワシントン市), 2018.4.12.

嘉幡茂, フリエタ・ロペス. なぜ古代人はピラミッドを造ったか: メキシコ中央高原における都市の盛衰. 南山大学人類学研究所シンポジウム「遺跡にみる在来知—モニュメント、自然環境、インターアクション」, 南山大学(名古屋市), 2018.12.26.

Kabata, Shigeru Intercambio de obsidiana en el Altiplano Central. 9ª feria del libro de las Ciencias Sociales y las Humanidades, Colegio Mexiquense, Toluca, 2018.10.10.

López Juárez, Julieta M., Shigeru Kabata La tecnología arquitectónica y su materialización en Tlalancaleca, Puebla. 56 Congreso Internacional de Americanistas, サラマンカ大学(スペイン、サラマンカ市), 2018.7.17.

Murakami, Tatsuya, Shigeru Kabata, Julieta Lopez Changing Urban Networks in Formative Central Mexico: A View from Tlalancaleca, Puebla. 83rd Society for American Archaeology Annual Meeting, ワシントン DC コンベンションセンター(ワシントン市), 2018.4.14.

- Texis, Ariel, Shigeru Kabata, Tatsuya Murakami Tlalancaleca: Ceramics and Interregional Interactions in Formative Central Mexico. 83rd Society for American Archaeology Annual Meeting, ワシントン DC コンベンションセンター(ワシントン市), 2018.4.14.
- López, Julieta, Shigeru Kabata, Tatsuya Murakami, Manuel Ramirez Monumental Architecture in Central Mexico during the Terminal Formative: New Findings from the Tlalancaleca Archaeological Project, Puebla. 83rd Society for American Archaeology Annual Meeting, ワシントン DC コンベンションセンター(ワシントン市), 2018.4.14.
- Tsukamoto, Kenichiro Airborne LiDAR and Ancient Maya Urbanism at El Palmar, Mexico. 9th Annual South-Central Conference on Mesoamerica, サンアントニオ美術館(サンアントニオ市), 2018.10.20.
- Miller, J. Reed, Quintín Hernández Gómez, Javier López Camacho, Kenichiro Tsukamoto Efficacy of Ground Survey Methods for Verifying LiDAR Data at El Palmar, Campeche, Mexico. 9th Annual South-Central Conference on Mesoamerica, サンアントニオ美術館(サンアントニオ市), 2018.10.20.
- Sullivan, Kelsey J., Kenichiro Tsukamoto Reevaluating Current Perspectives on the Ancient Maya Procurement of High Quality Dark Brown Chert in Southern Campeche, Mexico. 9th Annual South-Central Conference on Mesoamerica, サンアントニオ美術館(サンアントニオ市), 2018.10.20.
- Tsukamoto, Kenichiro, Fukui Tokanai, Toru Morita Building a High-Resolution Chronology: A Case from the Maya Archaeological Site of El Palmar, Mexico. 83rd Society for American Archaeology Annual Meeting, ワシントン DC コンベンションセンター(ワシントン市), 2018.4.12.
- Cerezo-Román, Jessica, Kenichiro Tsukamoto Life and Death of Lakam Elites at the Maya Center of El Palmar, Campeche, Mexico. 83rd Society for American Archaeology Annual Meeting, ワシントン DC コンベンションセンター(ワシントン市), 2018.4.12.
- 青山和夫 マヤ文明研究の最前線と今日的意義. 第 57 回日本心身医学会九州地方会, タカラホテル福岡(福岡市), 2018.1.27.
- 青山和夫 マヤ文明の地域間・遠距離交換:グアテマラ、セイバル遺跡の黒曜石製石器の通時的研究. 古代アメリカ学会第 22 回研究大会, 茨城大学(水戸市), 2017.12.3.
- Aoyama, Kazuo Los guerreros y transformación de la realeza Maya del Clásico Terminal: Un análisis diacrónico de armas líticas en Copán, Honduras, y Aguateca y Ceibal, Guatemala. Simposio internacional ¿Ruptura o transformación de la realeza Maya? Del Clásico al Posclásico, 京都外国語大学(京都市), 2017.11.11.
- 青山和夫 マヤ文明の研究の最前線と魅力. 関西外国語大学イベロアメリカ研究センター2017 年連続公開講座, 関西外国語大学中宮キャンパス(枚方市), 2017.11.10.
- Aoyama, Kazuo, Bárbara Arroyo, Hérry Rodríguez El análisis de microhuellas de uso sobre artefactos líticos de obsidiana de Kaminaljuyu de los períodos Preclásico Tardío y Clásico Temprano, Guatemala. XXXI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, グアテマラ国立考古学民族学博物館(グアテマラ市), 2017.7.19.
- 青山和夫 マヤ文明の発展、衰退とレジリアンス:グアテマラ、セイバル遺跡の最新の研究成果. 日本ラテンアメリカ学会東日本研究部会, 専修大学神田キャンパス(東京), 2017.4.8.
- Fukuhara, Hironori, Tatsuya Murakami Living in Early Urban Center: Preliminary Results of the Tlalancaleca Archaeological Project, Puebla. 82nd Society for American Archaeology Annual Meeting, バンクーバー・コンベンションセンター(バンクーバー市), 2017.4.1.
- 長谷川悦夫 メソアメリカ東南辺境の後古典期—ニカラグア太平洋岸での発掘調査成果を中心に. 2017 年度ラテンアメリカ学会東日本部会, 専修大学神田キャンパス(東京), 2018.1.6.
- Montoya, María Matilde, Etsuo Hasegawa Arqueología de Mateare y el sitio La Paz. Primer Coloquio de Arqueología en Nicaragua, Instituto Nicaragüense de Cultura, Managua, 2017.7.7.
- 市川彰 メソアメリカ考古学における日本人研究者の軌跡. 第 43 回金沢大学考古学大会, 石川四校記念文化交流館(金沢市), 2017.11.25.
- 市川彰 放射性炭素年代測定データからみたメソアメリカ南東部の社会過程—チャルチュアパを中心に—. 第 2 回金沢大学マヤシンポジウム, 京都文化博物館(金沢市), 2017.11.15.
- Guerra, Juan Manuel, Akira Ichikawa Desarrollo Arquitectónico de la Estructura-5 (La Campana), San Andrés, El Salvador. 6^o Congreso Arqueología de Centro América, El Salvador, Museo Nacional de Antropología, El

Salvador, 2017.11.7.

市川彰 メソアメリカ イロパング火山噴火からの復興過程. 日本考古学協会 2017 年度宮崎大会, 宮崎公立大学(宮崎市), 2017.7.11.

市川彰 考古学と国際協力. 多治見北高研究者大学院生懇談会, 多治見北高校(多治見市), 2017.7.11.

Ichikawa, Akira Último Trabajos de Conservación del Sitio Arqueológico San Andrés, El Salvador. Jornada de Arqueología de El Salvador, Museo Nacional de Antropología, El Salvador, 2017.6.22.

Ichikawa, Akira, Juan Manuel Guerra Eventos Volcánicos y Pobladores Prehispánicos del Valle de Zapotitán, El Salvador: Nuevo Aporte a través de Investigación Arqueológica del San Andrés. XIII Congreso Geológico de América Central en El Salvador, Universidad Centroamericana José Simeón Cañas, 2017.6.6.

市川彰 メソアメリカ文明と火山噴火—イロパング火山の巨大噴火を中心に—. 考古学研究会第 63 回総会研究集会, 岡山大学(岡山市), 2017.4.16.

嘉幡茂, 小林貴徳, フリエタ・M.=ロペス・J. トラランカレカにおけるパブリック考古学の実践: 地域住人のアイデンティティと持続可能な考古学調査を求めて. 古代アメリカ学会第 7 回東日本部会研究懇談会, 専修大学神田キャンパス(東京), 2017.12.17.

村上達也, 嘉幡茂, フリエタ・M.=ロペス・J., 福原弘識, 荒木昂大 トラランカレカ考古学プロジェクトの調査目的と成果(2012-2017). 古代アメリカ学会第 7 回東日本部会研究懇談会, 専修大学神田キャンパス(東京), 2017.12.17.

Kabata, Shigeru, Tastuya Murakami, Julieta López Juárez, Melina García Hernández, Manuel Ulises Morales Ramírez Hacia una perspectiva macro-regional sobre la transición entre el Formativo y el Clásico: visto desde Tlalancaleca, Puebla. 6.a Mesa Redonda de Teotihuacan: Orígenes, Auge, Colapso y Herencia San Juan Teotihuacan, México, 2017.11.16.

Kabata, Shigeru, Julieta Margarita López Juárez ¿Por qué los arqueólogos japoneses excavan en México?: Manga e identidad. Museo de Córdoba, Córdoba, México, 2017.11.10.

Kabata, Shigeru, Tastuya Murakami, Julieta López Juárez Desarrollo urbano en el Altiplano Central durante el Formativo: visto desde Tlalancaleca, Puebla. XIX Coloquio Internacional sobre Otopames en homenaje a Yoko Sugiura, メキシコ国立自治大学(メキシコ市), 2017.10.17.

Murakami, Tatsuya, Shigeru Kabata, Julieta López Juárez Architecture and Urban Transformation in Formative Central Mexico: New Findings from the Tlalancaleca Archaeological Project, Puebla. 82nd Society for American Archaeology Annual Meeting, バンクーバー・コンベンションセンター(バンクーバー市), 2017.4.1.

Tsukamoto, Kenichiro Negociación de la jerarquía política en la dinastía maya de El Palmar durante el Clásico Tardío y Terminal (600-950 d.C.). Simposio internacional ¿Ruptura o transformación de la realeza Maya? Del Clásico al Posclásico, 京都外国語大学(京都市), 2017.11.12.

Tsukamoto, Kenichiro, Luz Evelia Campaña Valenzuela, Xanti Sirani Ceballos Pesina, Renato José Zamudio Gutiérrez, Melina García Hernández, Hirokazu Kotegawa, Javier López Camacho Proyecto Arqueológico El Palmar en Campeche, México: Resultados de la temporada de campo 2016. XXXI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, グアテマラ国立考古学民族学博物館(グアテマラ市), 2017.7.19.

青山和夫 グアテマラ、セイバル遺跡と周辺部の航空レーザー測量とマヤ文明の考古学調査. 古代アメリカ学会第 21 回研究大会, 国立民族学博物館(吹田市), 2016.12.4.

Aoyama, Kazuo Mesoamérica: su significado para la sociedad moderna. Primer Congreso Internacional de Mesoamericanistas en Japón, キャンパス・イノベーションセンター東京(東京), 2016.10.29.

Aoyama, Kazuo Political Economy of Craft Production in Classic Maya States: Lithic Production and Exchange in and around Copan, Aguateca and Ceibal, Guatemala. The Eighth World Archaeological Congress, 同志社大学(京都市), 2016.9.1.

Aoyama, Kazuo El Intercambio de obsidiana y la producción de artefactos líticos durante los períodos Preclásico y Clásico en y alrededor de Ceibal, Guatemala. XXX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, グアテマラ国立考古学民族学博物館(グアテマラ市), 2016.7.21.

Inomata, Takeshi, Tsuyoshi Haraguchi, Flory Pinzón, José Luis Ranchos, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu, Hitoshi Yonenobu, Juan Manuel Perdomo Investigación Arqueológica a través de LIDAR en el Area de Ceibal. XXX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, グアテマラ国立考古学民族学博物館(グアテマラ市), 2016.7.18.

青山和夫 コメント: 千葉祐太「黒曜石を用いた世界観の物質化: テオティワカンの埋葬墓における型式分

類と空間分析より」古代アメリカ学会第 5 回西日本研究懇談会, 京都文化博物館(京都市), 2016.7.9.

Graham, Elizabeth, Simon Martin, Kazuo Aoyama No sólo comercio, sino también poder. 10 Congreso Internacional de Mayistas, Centro Estatal de Capacitación, Investigación y Difusión Humanística (Izamal, Yucatán, México), 2016.6.30.

青山和夫 コメント:分科会「過去に学ぶ／過去を活かす」日本文化人類学会第 50 回研究大会, 南山大学(名古屋市), 2016.5.28.

福原弘識 トランカレカ遺跡 2016 年調査概報. 古代アメリカ学会第 21 回研究大会, 国立民族学博物館(吹田市), 2016.12.4.

Fukuhara, Hironori Diversos objetivos de la multiethnicidad que formó el Estado teotihuacano: a través de los datos obtenidos de los conjuntos departamentales. Primer Congreso Internacional de Mesoamericanistas en Japón, キャンパス・イノベーションセンター東京(東京), 2016.10.29.

福原弘識 周縁から国家像を描く:一般住居址の空間利用からの考察. 近江貝塚研究会第 270 回例会, 滋賀県埋蔵文化財センター(大津市), 2016.4.29.

長谷川悦夫 ニカラグア共和国ラ・パス遺跡の発掘調査. 古代アメリカ学会第 21 回研究大会, 国立民族学博物館(吹田市), 2016.12.4.

Hasegawa, Etsuo Investigaciones arqueológicas alrededor del Lago Xolotlán: Secuencia cronológica y características de los sitios. Primer Congreso Internacional de Mesoamericanistas en Japón, キャンパス・イノベーションセンター東京(東京), 2016.10.30.

Ichikawa, Akira A revised chronology of the southeastern Maya area: An evaluation of new and existing radiocarbon dates from the Preclassic to Postclassic period. 82nd Society for American Archaeology Annual Meeting, バンクーバー・コンベンションセンター(バンクーバー市), 2017.3.31.

市川彰 先スペイン時代の土製建造物を現代にいかに残すか—持続可能な修復保存活動に向けて—. マヤ文明研究の現在<いま>分野融合研究を通じた新しいマヤ文明史の再構, 金沢大学(金沢市), 2016.12.10.

市川彰 サン・アンドレス遺跡における新たな石造大基壇の発見とその意義. 古代アメリカ学会第 21 回研究大会, 国立民族学博物館(吹田市), 2016.12.4.

Ichikawa, Akira, Juan Manuel Guerra, Oscar Camacho, Hiroaki Yagi Una milenaria historia entre las erupciones volcánicas: sitio arqueológico San Andrés, Valle de Zapotitán, El Salvador. Primer Congreso Internacional de Mesoamericanistas en Japón, キャンパス・イノベーションセンター東京(東京), 2016.10.29.

Ichikawa, Akira Prehispanic pottery saltmaking in Mesoamerica: an archaeological perspective. History and Tradition of Exploiting Salt Resources, たばこと塩の博物館(東京), 2016.9.3.

Ichikawa, Akira Ancient pottery salt production in the Pacific Coast of Southeastern Mesoamerica. The Eighth World Archaeological Congress, 同志社大学(京都市), 2016.8.30.

Ichikawa, Akira Archaeology for strengthening social relationships: Community archaeology practice in Nueva Esperanza, El Salvador, Central America. The Eighth World Archaeological Congress, 同志社大学(京都市), 2016.8.29.

Camacho, Oscar, Akira Ichikawa, Shione Shibata Earthen Architecture on Archaeological sites of El Salvador: Problems and Challenges concerning the Conservation and Restoration of Pre-Hispanic Architectures. XIIth World Congress on Earthen Architectures, Lyon Convention Center(フランス), 2016.7.11.

Kabata, Shigeru, Tatsuya Murakami, Julieta M. López J. Herencia del Formativo al Clásico en el Altiplano Central de México: Proyecto Arqueológico Tlalancaleca, Puebla (PATP). Primer Congreso Internacional de Mesoamericanistas en Japón, キャンパス・イノベーションセンター東京(東京), 2016.10.29.

Murakami, Tatsuya, Shigeru Kabata, Julieta M. López J. Early Urbanism in Central Mexico: Preliminary Results of the Tlalancaleca Archaeological Project, Puebla. The Eighth World Archaeological Congress, 同志社大学(京都市), 2016.9.1.

村上達也, 嘉幡茂 なるほど! マンガが生み出す古代遺産. 第 8 回世界考古学会議京都開催記念講演会「神々も踊る古代都市 ~中南米のアート、考古学、地域コミュニティ~」, 京都文化博物館(京都市), 2016.8.28.

小林貴徳, 嘉幡茂 メキシコにおける歴史教育の現状と課題—郷土史と文化遺産を伝える学習マンガ創出の試み—. 日本マンガ学会 第 16 回大会, 東京工芸大学(東京), 2016.6.25.

嘉幡茂 マンガが伝えるメキシコの歴史と文化. 日本ラテンアメリカ学会第 37 回大会, 京都外国語大学(京都市), 2016.6.4.

Tsukamoto, Kenichiro A Discrepancy between Lakam Officials' Economic Status and their Political Positions in the El Palmar Dynasty, Mexico. 81th Annual Meeting of Society for American Archaeology, ウォルトディズニーワールド・ドルフィン(オーランド市), 2016.4.7.

青山和夫 先古典期マヤ文明の宗教儀礼と石器製作:グアテマラのセイバル遺跡で先古典期中期に埋納された緑色石製石斧と黒曜石製石器の供物を中心に. 古代アメリカ学会第 20 回研究大会, 東京大学(東京), 2015.12.5.

Aoyama, Kazuo La Manufactura de los Objetos de Concha y Lapidaria entre los Antiguos Mayas: Los Resultados del Análisis de Microhuellas de Uso sobre Artefactos Líticos con el Microscopio de Gran Alcance. XXIX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, グアテマラ国立考古学民族学博物館(グアテマラ市), 2015.7.22.

青山和夫 メソアメリカにおける農耕の起源と文明の形成. 第 8 回アジア考古学四学会合同講演会「アジアにおける農耕の起源と拡散」明治大学駿河台キャンパス(東京), 2015.1.10.

福原弘識 トランカレカ遺跡:2014-2015 年調査概報. 古代アメリカ学会第 20 回研究大会, 東京大学(東京), 2015.12.6.

福原弘識 考古学者は古代遺跡をどのように資源化するか:国家的モニュメントとしてのテオティワカン. 日本ラテンアメリカ学会, 専修大学(東京), 2015.5.30.

長谷川悦夫 ニカラグア共和国マナグア湖畔の考古学調査. 古代アメリカ学会第 20 回研究大会, 東京大学(東京), 2015.12.6.

市川彰 エルサルバドルにおけるコミュニティ考古学の実践と課題—住民による遺跡発見、調査、価値の抽出、そして活用まで—. 第 65 回イベロ・ラテンアメリカ研究会, 慶応大学(東京), 2015.12.20.

市川彰 二度の大噴火とサン・アンドレス遺跡:2015 年の調査から. 古代アメリカ学会第 20 回研究大会, 東京大学(東京), 2015.12.5

Ichikawa, Akira Análisis de materiales arqueológicos desde el Preclásico Tardío hasta el Clásico Tardío, Valle de Zapotitán, El Salvador. VI Congreso Centroamericano de Arqueología en El Salvador, エルサルバドル国立人類学博物館(サンサルバドル市), 2015.11.4.

Kitamura, Shigeru, Akira Ichikawa, Shione Shibata, Nobuyuki Ito Indirect impact of gigantic eruption from Ilopango Caldera to ecology and human activities in the downstream of Lempa River, southern coastal lowland of El Salvador, Central America. XIX International Union for Quaternary Research, 名古屋国際会議センター(名古屋市), 2015.7.27.

Ichikawa, Akira, Oscar Camacho Investigaciones recientes en el sitio arqueológico San Andrés, El Salvador. XXIX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, グアテマラ国立考古学民族学博物館(グアテマラ市), 2015.7.23.

Ichikawa, Akira Revision of Ceramic Chronology, Chalchuapa, El Salvador. 1st Kaminaljuyu Roundtable, カサ・エレラ(グアテマラ、アンティグア市), 2015.7.19.

Ichikawa, Akira Reconsideración del Impacto de la Erupción del Volcán Ilopango mediante el análisis de cerámica encontrada en Chalchuapa, El Salvador. 55 Congreso Internacional de Americanistas, フランシスコ・ガヴィディア大学(サンサルバドル市), 2015.7.14.

市川彰 遺跡を語り、活用し始めた人々—エルサルバドルにおけるコミュニティ考古学の実践例からみる古代遺跡の資源化プロセス. 日本ラテンアメリカ学会, 専修大学(東京), 2015.5.30.

市川彰, 八木宏明 火山噴火前後の人間活動の変化を読み解く—中米エルサルバドルを中心に—. 日本考古学協会, 帝京大学(東京), 2015.5.24.

市川彰, 八木宏明, ウーゴ・ディアス, オスカル・カマチョ 大噴火前後の人間活動—中米イロパango火山噴火の年代とインパクト—. 考古学研究会第 61 回総会・研究集会, 岡山大学(岡山市), 2015.4.18.

嘉幡茂 考古学調査における 3 次元記録方法の利用と問題点:Drone と PhotoScan を基に. 世界考古学会議(WAC8)関連事業・メソアメリカ考古学における学際的調査方法の連携利用:「トランカレカ考古学プロジェクト」の事例より, 京都文化博物館(京都市), 2015.12.19.

Murakami, Tatsuya, Shigeru Kabata, Julieta M. López J., José Juan Chávez V., Hironori Fukuhara, Willem

VanEssendelft, Natalia Mauricio, Mark Dennison Urban Development in Formative Central Mexico: Preliminary Results of the Tlalancaleca Archaeological Project, Puebla. 6th Annual South-Central Conference on Mesoamerica, テキサス大学(サン・アントニオ市), 2015.11.6-8.

Julieta M. López Juárez, Shigeru Kabata, Ariel Taxis Muñoz, Hironori Fukuhara Mapeo y registro de artefactos en 3D utilizando Drone y Agisoft PhotoScan en el Proyecto Arqueológico Tlalancaleca, Puebla. Segundo Congreso Internacional: El Patrimonio Cultural y las Nuevas Tecnologías, メキシコ国立人類学博物館(メキシコ市), 2015.10.15.

Murakami, Tatsuya, Shigeru Kabata, Julieta M. López J., José Juan Chávez V., Hironori Fukuhara Early Urbanism in Central Mexico: Preliminary Results of the Tlalancaleca Archaeological Project, サンフランシスコ・コンベンションセンター(サンフランシスコ市), 2015.4.18.

塚本憲一郎 古典期マヤの都市間ネットワーク:エル・パルマール遺跡の調査成果から. 古代アメリカ学会第20回研究大会, 東京大学(東京), 2015.12.6.

塚本憲一郎 広場の政治性:古代マヤ都市エル・パルマールを事例として. 古代アメリカ学会第5回東日本部会研究懇談会, 東京大学(東京), 2015.6.13.

Tsukamoto, Kenichiro The Preliminary Results of Topographic Mapping at El Palmar. 80th Annual Meeting of Society for American Archaeology, サンフランシスコ・コンベンションセンター(サンフランシスコ市), 2015.4.16.

青山和夫 コメント:村上達也「権力の多次元性:テオティワカンにおける都市建設から考える」古代アメリカ学会第4回東日本部会研究懇談会, 東京大学(東京), 2014.12.23.

Aoyama, Kazuo La complejidad socioeconómica maya del período Preclásico Medio: un análisis diacrónico de artefactos líticos en y alrededor de Ceibal, Guatemala. XXVIII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, グアテマラ国立考古学民族学博物館(グアテマラ市), 2014.7.18.

福原弘識 テオティワカン国家形成の考古学研究. 第62回イベロ・ラテンアメリカ研究会, 専修大学(東京), 2014.12.20.

福原弘識 アパートメント・コンパウンドの測量調査概報. 古代アメリカ学会第19回研究大会, 名古屋大学(名古屋市), 2014.12.6.

長谷川悦夫 ニカラグア太平洋岸の考古学調査. 古代アメリカ学会第19回研究大会, 名古屋大学(名古屋市), 2014.12.6.

市川彰 マヤ南東地域における広域編年確立のための年代学的研究. 古代アメリカ学会第19回研究大会, 名古屋大学(名古屋市), 2014.12.6.

市川彰 メソアメリカ考古学における日本人研究者—エルサルバドルを中心に—. 京都外国語大学ラテンアメリカ研究所国際シンポジウム「メソアメリカ考古学研究とその展望—次世代を担う日本人研究者たち」京都外国語大学(京都市), 2014.11.24.

公募研究

Ito, Nobuyuki Los materiales constructivos para las estructuras hechas de barro en Kaminaljuyu, Chalchuapa y Los Naranjos. 56 Congreso Internacional de Americanistas, Salamanca, 2018.7.

Ito, Nobuyuki, Misaki Fukaya, Shigeru Kitamura Entre las áreas residencial y sagrada en la ciudad de Chalchuapa, El Salvador. XXXII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, Guatemala, 2018.7.

伊藤伸幸 チャルユアパ遺跡エル・トラピエ地区出土7バクトゥンの日付のある石碑. 古代アメリカ学会第23回総会・研究発表会, 専修大学(川崎市), 2018.12.

Fukaya, Misaki, Nobuyuki Ito Estudio cronológico de Chalchuapa, El Salvador a través del análisis cerámica del período Preclásico. The Society for American Archaeology 82nd Annual Meeting, Vancouver, 2017.

Kitamura, Shigeru, A. Ichikawa, S. Shibata, N. Ito Impacto indirecto de la erupción gigante de Caldera de Ilopango a la ecología y la actividad humana en el Bajo Lempa, El Salvador, C.A. XIII Congreso Geológico de América Central, San Salvador, 2017.

Ito, Nobuyuki, Shigeru Kitamura, Misaki Fukaya Antes y Después de la erupción volcánica del Ilopango en El Trapiche, Chalchuapa, El Salvador. XXXI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, Guatemala, 2017.7.

北村繁, 市川彰, 柴田潮音, 伊藤伸幸 中米・エルサルバドル共和国、イロパングカルデラ 4～6 世紀巨大

噴火によるレンパ川下流低地域への影響. 東北地理学会 2017 年度春季学術大会, 仙台市戦災復興記念館(仙台市), 2017.5.

伊藤伸幸, 北村繁 イロパング火山噴火前後のチャルチュアパ遺跡群. 古代アメリカ学会第 22 回総会・研究発表会, 茨城大学(水戸市), 2017.12.

深谷岬, 伊藤伸幸 チャルチュアパ遺跡エル・トラピチェ地区の放射性炭素年代測定—マヤ南部地域先古典期～古典期土器編年の再構築にむけて—. 古代アメリカ学会第 21 回総会・研究発表会, 国立民族学博物館(吹田市), 2016.12.

Fukaya, Misaki, Nobuyuki Ito Estudio cronológico de Chalchuapa, El Salvador a través del análisis cerámico del período Preclásico. XXX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, 2016, Guatemala.

Ito, Nobuyuki, Kitamura, S. La erupción volcánica gigante en la frontera mesoamericana. Primer Congreso Internacional de Mesoamericanitas en Tokyo, Tokio, 2016.10.

北村繁, 伊藤伸幸 中米・エルサルバドル, イロパングカルデラ 4～6 世紀噴火がヒキリスコ潟内のマングローブ林に与えた影響. 日本第四紀学会 2016 年大会, 千葉大学(千葉市), 2016.9.

北村繁, 小田寛貴, 伊藤伸幸 イロパングカルデラ 4～6 世紀噴火の高精度放射性炭素年代測定の試み. 東北地理学会 2016 年度春季学術大会, 宮城教育大学(仙台市), 2016.5.

Ito, Nobuyuki Identidad en el Occidente de El Salvador, a través de la cabeza de jaguar estilizado. 55 Congreso Internacional de Americanistas, フランシスコ・ガウディニア大学(サンサルバドル市), 2015.7.17

Ito, Nobuyuki Chalchuapa como capital regional del Occidente de El Salvador durante el Preclásico Tardío. XXIX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, グアテマラ国立考古学民族学博物館(グアテマラ市), 2014.7.21

Misaki Fukaya, Nobuyuki Ito, Shione Shibata La secuencia cronológica de Chalchuapa, El Salvador, a través del análisis cerámico. XXIX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, グアテマラ国立考古学民族学博物館(グアテマラ市), 2014.7.24

深谷岬, 伊藤伸幸, 柴田潮音 チャルチュアパ遺跡先古典期土器編年の再検討—エル・トラピチェ地区出土土器の分析から—. 古代アメリカ学会第 20 回研究大会, 東京大学(東京), 2015.12.6

研究項目 A03

研究計画

(招待講演) Sakai, Masato, Jorge Olano Investigaciones en las Pampas de Nasca y avances en la protección de los geoglifos de Aja. Ministerio de Cultura(ナスカ市), 2017.12.15.

(招待講演) Sakai, Masato, Jorge Olano Avances en la Investigación Arqueológica de las Líneas y Geoglifos de Nasca. I Encuentro de Investigadores de los Sitios del Patrimonio Mundial. Sala Nasca, Museo de la Nación del Perú(リマ市), 2017.8.3.

(招待講演) Sakai, Masato Los geoglifos: Rituales, líneas vs. figuras biomórficas, cronología. シンポジウム “Nasca. Vida, muerte y transformación en el desierto”, Museo de Arte de Lima(リマ市), 2016.5.26.

(招待講演) Matsumoto, Yuichi, Jason Nesbitt New Insights on Ritual Practices from Campanayuq Rumi, Peru. Middle American Research Institute's Brown Bag Series, Tulane University(ニュー・オーリンズ市), 2016.2.13.

(招待講演) Sakai, Masato Geoglyphs and Landscape at the Nasca Pampa, South Coast of Peru. Middle American Research Institute's Brown Bag Series, Tulane University(ニュー・オーリンズ市), 2015.3.9.

坂井正人 ナスカの地上絵の研究と保護. みんなく公開講演会「アンデス文明の起源を求めて: 日本人研究 60 年の軌跡と展望(日本アンデス調査 60 周年記念シンポジウム)」, 毎日新聞オーバルホール(大阪市), 2019.3.22.

Sakai, Masato Nasca como una sociedad del Formativo Final. Simposio Internacional "Nuevas Perspectivas a la Formación de Civilización Temprana en Los Andes: Cronología, Interacción, y Organización Social", Museo Nacional de Etnología(吹田市), 2019.3.21.

坂井正人 山形大学のナスカ研究: 学際的アプローチによる最新成果. 国際学術講演会マチュピチュとナスカの地上絵: 最新調査からみた世界遺産, 山形大学(山形市), 2019.3.16.

坂井正人 マチュピチュとナスカの地上絵. 国際学術講演会マチュピチュとナスカの地上絵: 最新調査から

みた世界遺産, 山形大学(山形市), 2019.3.16.

大貫良夫, 関雄二, 坂井正人, 井口欣也, 鶴見英成, 芝田幸一郎, 松本雄一「研究の到達点と展望—何がわかったのか、何をを目指すのか」日本アンデス調査 60 周年記念シンポジウム「アンデス文明の成り立ちを追って—日本調査団の継承と発展」, 東京大学(東京), 2018.12.22.

坂井正人 世界遺産ナスカの地上絵に関する保護活動と学術研究. 文化遺産国際協力コンソーシアム・シンポジウム『文化遺産国際協力のかたち—世界遺産を未来に伝える日本の貢献—』, 日経ホール(東京), 2018.10.8.

Sakai, Masato Geoglifos en la sociedad Nasca y avances en la protección de los geoglifos de Aja. III Simposio de Arqueología: Avances de las Investigaciones de las Misiones Italiana y Japonesa, Museo Didáctico Antonini (ナスカ市), 2018.8.25.

坂井正人 ナスカの地上絵はどこまで解明されたのか. 日本アンデス調査 60 周年記念シンポジウム「日本アンデス調査団と山形大学ナスカ・プロジェクト」, 山形大学(山形市), 2018.6.23.

坂井正人, 山本睦, 松本剛 日本調査団の歴史と山形大学ナスカ・プロジェクト. 日本アンデス調査 60 周年記念シンポジウム「日本アンデス調査団と山形大学ナスカ・プロジェクト」山形大学(山形市), 2018.6.23.

本多薫, 門間政亮 ナスカ台地における丘の可視領域解析—感性・空間・可視の視点からの考察—. 第 14 回日本感性工学会春季大会, 信州大学(上田市), 2019.3.7.

Matsumoto, Yuichi Resultados preliminares de las excavaciones en el Sitio Arqueológico Estudiantes. III Simposio de Arqueología: Avances de las Investigaciones de las Misiones Italiana y Japonesa, Museo Didactico Antonini(ナスカ市), 2018.8.25.

松本雄一 ナスカ地域におけるミドルホライズンの展開. 日本アンデス調査 60 周年記念シンポジウム「日本アンデス調査団と山形大学ナスカ・プロジェクト」, 山形大学(山形市), 2018.6.23.

瀧上舞 ナスカ地域における古食性調査. 日本アンデス調査 60 周年記念シンポジウム「日本アンデス調査団と山形大学ナスカ・プロジェクト」, 山形大学(山形市), 2018.6.23.

Matsumoto, Yuichi, Atsushi Yamamoto Las fronteras del fenómeno Chavín. Nuevas Perspectivas a la Formación de Civilización Temprana en Los Andes: Cronología, Interacción, y Organización Social, Museo Nacional de Etnología(吹田市), 2019.3.21.

鶴見英成, 松本雄一 コトシュ遺跡の時代と人びと:ワヌコ盆地の編年と社会像の再検討. 日本アンデス調査 60 周年記念シンポジウム「アンデス文明の成り立ちを追って:日本調査団の継承と発展」, 東京大学伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホール(東京), 2018.12.22.

Yamamoto, Atsushi La Ventilla: Cronología y función. III Simposio de Arqueología: Avances de las Investigaciones de las Misiones Italiana y Japonesa, Museo Didactico Antonini(ナスカ市), 2018.8.25.

瀧上舞, 坂井正人, ホルヘ・オラーノ, 米田穰 ナスカ地域ベンティヤー遺跡におけるヒトと動物の出身地推定(ポスター発表). 第 8 回同位体環境学シンポジウム, 総合地球環境研究所(京都市), 2018.12.23.

伊藤晶文 ペルー, ナスカ台地における現在の地形変化と岩層の移動(第 2 報). 2018 年度東北地理学会秋季学術大会, 青森市文化観光交流施設「ねぶたの家 ワ・ラッセ」(青森市), 2018.10.27.

Sakai, Masato Rutas e interacciones humanas en los Andes. Simposio Internacional: Rutas e interacciones humanas en los Andes. Campus Innovation Center(東京), 2018.3.6.

Sakai, Masato Rutas e interacciones humanas en las Pampas de Nasca. Simposio Internacional: Rutas e interacciones humanas en los Andes. Campus Innovation Center(東京), 2018.3.6.

坂井正人 インカ帝国と石造建築物:チョケキラオ遺跡とエスピリトゥ・パンパ遺跡. 国際学術講演会:インカ帝国と石造建築物, 山形大学(山形市), 2018.3.3.

坂井正人 インカ王都と地上絵. 国際学術講演会:インカ帝国と石造建築物, 山形大学(山形市), 2018.3.3.

Sakai, Masato Geoglifos de Nasca y Poderes en la Sociedad Nasca: Monumentalidad y la red entre los monumentos. Monumentalidad y Poder en los Andes (Foro Internacional), Museo Nacional de Etnología(吹田市), 2018.2.19.

坂井正人 ナスカとモチェ. 山形大学・国立民族学博物館学術協定締結記念国際学術講演会:ナスカとモチェ, 山形大学(山形市), 2018.2.17.

坂井正人 ナスカの地上絵と最先端技術:人工衛星・踏査・3D スキャナー航空レーザー測量・ドローン, 山形大学・国立民族学博物館学術協定締結記念国際学術講演会:ナスカとモチェ, 山形大学(山形市),

2018.2.17.

坂井正人 世界遺産<ナスカの地上絵>の保護活動:山形大学とペルー文化省の共同プロジェクトをめぐって. 文化遺産国際協力コンソーシアム中南米分科会(東京国立博物館黒田記念館セミナー室), 2017.7.10.

坂井正人 コメント:「現代」アンデス文明を構想する:アンデス地域における資源としての過去の活用. 日本ラテンアメリカ学会第 38 回研究大会分科会, 東京大学(東京), 2017.6.4.

Sakai, Masato Andean way of writing in the landscape. Round Table Conference on Nasca, 2017, Yamagata University (山形市), 2017.5.16.

松本雄一, ホルヘ・オラーノ, 坂井正人 ペルー南海岸におけるミドルホライズンの様相. 第 22 回古代アメリカ学会研究大会, 茨城大学(水戸市), 2017.12.2.

山本睦, 坂井正人, ホルヘ・オラーノ, 松本雄一, 門叶冬樹 ペルー、ベンティーヤ遺跡とナスカの編年. 第 22 回古代アメリカ学会研究大会, 茨城大学(水戸市), 2017.12.2.

瀧上舞, 坂井正人, ホルヘ・オラーノ, 米田穰 ナスカ地域における先スペイン期の食資源利用調査. 第 22 回古代アメリカ学会研究大会, 茨城大学(水戸市), 2017.12.2.

千葉清史 アーサー・ダントの「歴史の物語論」と反実在論. 東北哲学会第 67 回大会, 山形大学(山形市), 2017.10.29.

伊藤晶文 ペルー, ナスカ台地における現在の地形変化と岩層の移動. 東北地理学会春季学術大会, 仙台市戦災復興記念館(仙台市), 2017.5.21.

Sakai, Masato Landscape and Writing in the Ancient Andes. International Symposium: Violence, Writing and Frontier in Pre-Columbian America, Campus Innovation Center Tokyo(東京), 2017.3.31.

坂井正人 新発見の地上絵と保存活動:山形大学人文学部附属ナスカ研究所の研究成果より. 国際学術講演会「アンデスとメソアメリカ:地上絵/絵文書、人身供犠、神殿/都市」, 山形大学(山形市), 2017.3.28.

Sakai, Masato, Jorge Olano Avances del Programa de Investigación Arqueológica Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca/Campaña 2015. III Congreso Nacional de Arqueología, Ministerio de Cultura del Perú(リマ市), 2016.9.13.

Sakai, Masato, Jorge Olano Avances del Proyecto de Investigación Arqueológica Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca. XXIV Congreso Nacional de Estudiantes de Arqueología, Auditorio del Colegio de Ingenieros(イカ市), 2016.9.7.

Yamamoto, Atsushi El desarrollo social y las fronteras culturales del Formativo en el extremo norte y la vertiente occidental de los Andes. International Symposium: Violence, Writing and Frontier in Pre-Columbian America, Campus Innovation Center Tokyo(東京), 2017.3.31.

山本睦, 坂井正人, ホルヘ・オラーノ, 松本雄一 ペルー南海岸ベンティーヤ遺跡の発掘調査. 古代アメリカ学会第 21 回研究大会, 国立民族学博物館(吹田市), 2016.12.3.

Yamamoto, Atsushi, Masato Sakai, Jorge Olano Nuevos descubrimientos en el sitio arqueológico La Ventilla. XXIV Congreso Nacional de Estudiantes de Arqueología, Auditorio del Colegio de Ingenieros(イカ市), 2016.9.7.

Matsumoto, Yuichi Comment on Frontier in Pre-Columbian America. International Symposium: Violence, Writing and Frontier in Pre-Columbian America, Campus Innovation Center Tokyo(東京), 2017.3.31.

本多薫, 門間政亮 ナスカ台地のラインセンターの配置—感性の視点方—. 第 12 回日本感性工学会春季大会, 上田安子服飾専門学校(大阪市), 2017.3.30.

千葉清史 遺跡保護を擁護する理由:非現在主義的アプローチ. 古代アメリカの比較文明論第 3 回研究者全体集会, キャンパス・イノベーションセンター東京(東京), 2016.6.19.

瀧上舞 同位体分析を用いたナスカ地域の古食性推定. 古代アメリカの比較文明論プロジェクト公開講演会「マヤ文明とアンデス文明の最新調査:過去から現代まで」, キャンパス・イノベーションセンター東京(東京), 2016.6.18.

Sakai, Masato When the geoglyphs were made at the Nazca Pampa?. Round Table Conference on Nasca, 2016, Yamagata University (山形市), 2016.3.7.

坂井正人 古代アンデスの人びとは、天空に何を見たのか, 南山大学人類学研究所・国立天文台共催 公開講演会, 南山大学(名古屋市), 2016.2.28.

Sakai, Masato Proyecto de Investigación Arqueológica Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca 2006-2015. II Simposio de Arqueología "Avances de las Investigaciones Arqueológicas de las Misiones Italiana y Japonesa",

Museo Arqueológico Antonini (ナスカ市), 2015.9.5.

坂井正人 ナスカ台地の地上絵と景観構造. 日本ラテンアメリカ学会 (第 36 回定期大会), 専修大学(川崎市), 2015.5.30.

Sakai, Masato, Yoshimitsu Ccoyllo, Jorge Olano, Yuichi Matsumoto, Atsushi Yamamoto Proyecto de Investigación Arqueológica Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca. II Congreso Nacional de Arqueología, Perú, Biblioteca Nacional (リマ市), 2015.8.6.

Sakai, Masato, Jorge Olano, Tadasuke Monma Rito Regional y Panregional en las Pampas de Nasca: Actividad Humana y Organización Social Prehispánica en los valles del Río Grande de Nasca. 55 Congreso Internacional de Americanistas, Universidad Francisco Gavidia (サンサルバドル市), 2015.7.13.

Sakai, Masato, Jorge Olano, Yoichi Watanabe, Kaoru Honda Nasca Lines, Ceramic Sherds, and Social Changes: Recent Investigation at the Nasca Pampas, Southern Coast of Peru, Society for American Archaeology (80th Annual Meeting), The Hilton conference center (サンフランシスコ市), 2015.4.16.

Matsumoto, Yuichi The Emergence of Paracas Culture in the Highland and the Tajo Problem. Round Table Conference on Nasca, 2016, Yamagata University (山形市), 2016.3.7.

松本雄一 ペルー南高地の神殿:「周縁」から見た形成期社会. 公開シンポジウム「アンデス文明初期の神殿と権力生成」, キャンパス・イノベーションセンター東京(東京), 2016.1.31.

Matsumoto, Yuichi Emergencia de la Cultura Paracas: Una Perspectiva desde Sierra Centro-sur del Perú. II Simposio de Arqueología "Avances de las Investigaciones Arqueológicas de las Misiones Italiana y Japonesa", Museo Arqueológico Antonini (ナスカ市), 2015.9.5.

Matsumoto, Yuichi Reconsiderando los datos arqueológicos de la cuenca del Alto Huallaga: Un nuevo enfoque desde el patrón de asentamiento. II Congreso Nacional de Arqueología, Perú, Biblioteca Nacional (リマ市), 2015.8.4.

Matsumoto, Yuichi Chavín en la Costa y Paracas en la Sierra: Interacción Interregional durante el Horizonte Temprano. 55 Congreso Internacional de Americanistas, Universidad Francisco Gavidia (サンサルバドル市), 2015.7.14.

Monma, Tadasuke, Kaoru Honda, Yoichi Watanabe Use of the lines and the line centers while moving in the Nasca Pampa. Round Table Conference on Nasca, 2016, Yamagata University (山形市), 2016.3.7.

Yamamoto, Atsushi Investigación arqueológica en el extremo norte de los Andes. II Simposio de Arqueología "Avances de las Investigaciones Arqueológicas de las Misiones Italiana y Japonesa", Museo Arqueológico Antonini (ナスカ市), 2015.9.5.

山本睦, 松本雄一, 坂井正人, ホルヘ・オラーノ, ヨシミツ・ホイヨ ペルー南海岸・インヘニオ谷における考古学調査. 第 20 回古代アメリカ学会, 東京大学(東京), 2015.12.5.

瀧上 舞, 鶴澤 和宏, 関 雄二, ダニエル・モラーレス, 米田 穰 先スペイン期のアンデス地域におけるラクダ科動物の飼育の検証. 第 5 回同位体環境学シンポジウム, 総合地球環境学研究所(京都市), 2015.12.25.

Omori, Takayuki, M. Larry Lopez C., Minoru Yoneđa, Fuyuki Tokanai, Kazuhiro Kato, Mai Takigami, Masato Sakai Radiocarbon and Stable Isotope Analysis of Prosopis Pallida in Nazca. 55 Congreso Internacional de Americanistas, Universidad Francisco Gavidia (サンサルバドル市), 2015.7.13.

Matsui, Toshiya, Yosuke Atomi, Youhei Kawamura Environmental vibration in world heritage <Lines and Geoglyphs of Nazca>. The 42nd International Conference of the Korean Society of Conservation Science for Cultural Heritage, 韓国伝統文化大学校(扶余郡), 2015.10.30.

Watanabe, Yoichi, Kaoru Honda, Tadasuke Monma Usefulness of the lines and the line centers on Nasca pampa. 55 Congreso Internacional de Americanistas, Universidad Francisco Gavidia (サンサルバドル市), 2015.7.13.

Eda, Masaki, Masato Sakai, Giuseppe Orefici Drawn birds and dedicated birds in the Nasca culture: comparing birds in the Nasca Geoglyph with birds from the temples of Cahuachi, Nasca. 55 Congreso Internacional de Americanistas, Universidad Francisco Gavidia (サンサルバドル市), 2015.7.13.

Sakai, Masato Landscape and Social relation at Prehispanic Nasca, South Coast of Peru. Nasca Roundtable Conference 2015, Yamagata University (山形市), 2015.3.24.

Sakai, Masato Las Investigaciones Académicas y Actividades de Protección de los Geoglifos de Nasca. Simposio Internacional "Projective Activities and Investigation on World Heritage Site The Lines and Geoglyphs of Nasca", Campus Innovation Center (東京), 2015.3.15.

Sakai, Masato Paisaje, geoglifos y cerámica en las Pampas de Nasca, costa sur del Perú. Simposio Internacional "La producción de los espacios rituales en las regiones de la zona sur de los Andes", Campus innovation Center (東京), 2015.2.11.

坂井正人 世界遺産ナスカの地上絵に関する学術研究と保護活動. 文化遺産国際協力コンソーシアム, 東京文化財研究所(東京), 2015.1.19.

Sakai, Masato, Jorge Olano Proyecto de Investigación Arqueológica Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca. Congreso Arqueología Peruana, Ministerio de Cultura del Perú(リマ市), 2014.8.22.

Matsumoto, Yuichi Nested Interactions between the South Coast and South-central Highlands during the Initial Period and Early Horizon. Nasca Roundtable Conference 2015, Yamagata University(山形市), 2015.3.24.

Monma, Tadasuke, Kaoru Honda, Yoichi Watanabe Use of the lines and the line centers in locomotion on Nasca Pampa : An analysis of human visual information processing using wearable camera. Nasca Roundtable Conference 2015, Yamagata University(山形市), 2015.3.24.

Chiba, Kiyoshi An Idea of Philosophy of Archaeology. Nasca Roundtable Conference 2015, Yamagata University(山形市), 2015.3.24.

Chiba, Kiyoshi Kants Ablehnung des apagogischen Beweises in der <Transzendentalen Methodenlehre>". XXIII. Kongress der Deutschen Gesellschaft fuer Philosophie, Universität Münster(ミュンスター市), 2014.9.30.

瀧上舞, 米田穰 アンデス文明形成期におけるトウモロコシ利用の変化. 第 68 回日本人類学会大会, アクトシティ浜松(浜松市), 2014.11.2.

Eda, Masaki, Masato Sakai, Giuseppe Oreffici Translocation and ceremonial practices of the Nasca culture based on "standard" analysis of bird remains from the temples of Cahuachi, Nasca (4th–5th century AD). International Council for Archaeozoology 12th Conference, Centro de Congresos y Convenciones(メンドーサ市), 2014.9.23.

Eda, Masaki, Takeshi Yamasaki, Masato Sakai Let's identify birds in the Nasca lines!. 26th International Ornithological Congress, Rikkyo University(東京), 2014.8.23.

公募研究

(招待講演)大森貴之 放射性炭素微量分析が開く年代研究の新展開. 第 79 回応用物理学学会秋季講演会, 名古屋国際会議場(名古屋市), 2018.9.18-21.

鶴見英成 神殿は成長する—ペルー、コトシュとハンカオのマウンド形成史. 公開講演会「古代アメリカ文明:過去から現代まで」, キャンパス・イノベーションセンター(東京), 2019.2.16.

鶴見英成 日本のアンデス考古学, 60 年目の展望. 第 21 回 AMS シンポジウム, 日本大学(東京), 2018.12.18.

鶴見英成, セサル・サラ コトシュ遺跡第 5 次発掘調査—ミトの神殿とチャビンの神殿—. 古代アメリカ学会第 23 回研究大会, 専修大学(川崎市), 2018.12.1.

鶴見英成 アンデス文明の最初期の神殿について:その成立過程と性格に関する試論. 古代アメリカ学会研究懇談会東日本部会, 東京大学(東京), 2018.11.25.

Acuña, Lisette, Tsurumi, Eisei, César Sara El Proyecto de Investigación Arqueológica Jancao, Distrito de Amarilis, Provincia de Huánuco, Departamento de Huánuco, Temporada 2017. Excavación. V Congreso Nacional de Arqueología, Ministerio de Cultura(リマ市), 2018.8.14.

Tsurumi, Eisei, César Sara and Yuichi Matsumoto Settlement Pattern Study on the Early Occupations in the Upper Huallaga Basin, Northern Peru. Society for American Archaeology 83rd Annual Meeting, Washington Marriott Wardman Park(ワシントン市), 2018.4.13.

Sara, César, Eisei Tsurumi Renovation of Temples during the Kotosh Mito Phase: 2016 Excavations at Kotosh, Huánuco. Society for American Archaeology 83rd Annual Meeting, Washington Marriott Wardman Park(ワシントン市), 2018.4.12.

Matsumoto, Go, Gabriela De Los Ríos Exploring the multiplicity of the Lambayeqe society during the Middle Sicán period (A.D. 950-1100). 58th Institute of Andean Studies Annual Meeting, University of California Berkeley(バークレー市), 2018.1.5.

Matsumoto, Go, Gabriela De Los Ríos Paisaje y territorio en el núcleo ceremonial de Huacas de Sicán. Simposio Internacional: Paisaje y Territorio. Prácticas Sociales e Interacciones Regionales en los Andes Centrales,

- Universidad Nacional Mayor de San Marcos (リマ市), 2017.11.10.
- 鶴見英成, リセ・アクーニャ ハンカオ遺跡第 4 次発掘調査—アンデス文明形成期編年の精緻化に向けて—。古代アメリカ学会第 22 回研究大会, 茨城大学(水戸市), 2017.12.2.
- Sara, César, Eisei Tsurumi Investigaciones Arqueológicas en Kotosh. II Congreso de Arqueología 2017 “Lambayeque y la arqueología del norte peruano” Museo Tumbas Reales Sipán (ランバイエケ市), 2017.11.7.
- Sara, César, Eisei Tsurumi El Proyecto de Investigación Arqueológica Kotosh 2016. Excavación. IV Congreso Nacional de Arqueología, Ministerio de Cultura (リマ市), 2017.9.13.
- Matsumoto, Go Exploring the Multiplicity of Sicán/Lambayeque Society: A Preliminary Study of the Northern Periphery of the Middle Sicán Capital. Violence, Writing, and Frontier in the Pre-Columbian America, キャンパス・イノベーションセンター東京(東京), 2017.3.31.
- Sara, César, Eisei Tsurumi Kotosh y los nuevos aportes de la expedición japonesa. Cultura, identidad y nuevos aportes a la historia regional de Huánuco, Museo Regional Leonio Prado (ワヌコ市), 2017.2.23.
- 鶴見英成, セサル・サラ コトシュ遺跡第 4 次発掘調査—コトシュ・ミト期の新知見を中心に—。古代アメリカ学会第 21 回研究大会, 国立民族学博物館(吹田市), 2016.12.4.
- Tsurumi, Eisei, Carlos Morales Monumentos arquitectónicos precerámicos en la Pampa de Mosquito, Tembladera, valle medio de Jequetepeque - Temporada 2015. III Congreso Nacional de Arqueología, Ministerio de Cultura (リマ市), 2016.9.14.
- Sara, César, Eisei Tsurumi El Proyecto de Investigación Arqueológica Kotosh 2015. Levantamiento Topográfico. III Congreso Nacional de Arqueología, Ministerio de Cultura (リマ市), 2016.9.13.
- Sara, César, Eisei Tsurumi Conferencia “Historia de las Manos Cruzadas de Kotosh”. La experiencia en Huánuco del Museo Móvil del Museo Universitario de la Universidad de Tokio. II Encuentro Macroregional de Museos, Museo Regional Leonio Prado (ワヌコ市), 2016.5.26.
- 鶴見英成 アンデス文明の先土器期神殿研究の現在—コトシュ遺跡とモスキート遺跡の調査を中心に—。日本考古学協会第 82 回総会研究発表(ポスターセッション), 東京学芸大学(東京), 2016.5.29.
- 鶴見英成, カルロス・モラレス ヘケテペケ川中流域第 7 次調査:モスキート平原の形成期早期遺構の分布とその多様性。古代アメリカ学会第 20 回研究大会, 東京大学(東京), 2015.12.7.
- Tsurumi, Eisei, Carlos Morales Nuevas evidencias de arquitectura precerámica en el norte: resultados de las investigaciones en Tembladera, valle medio de Jequetepeque-Temporada 2014. II Congreso Nacional de Arqueología, Biblioteca Nacional (リマ市), 2015.8.5.
- Tsurumi, Eisei, Carlos Morales Un estudio comparativo de monumentos arquitectónicos precerámicos a nivel interregional. II Congreso Nacional de Arqueología, Biblioteca Nacional (リマ市), 2015.8.4.
- Tsurumi, Eisei, Carlos Morales La aparición de monumentos arquitectónicos en el valle de Jequetepeque, norte del Perú. 55th International Congress of Americanists, Universidad Francisco Gavidia (サンサルバドル市), 2015.7.14.

研究項目 A04

研究計画

- (招待講演) Inoue, Yukitaka Imagen histórica de los reyes indígenas en las obras de don Fernando de Alva Ixtlilxochitl. Lectura invitada, Universidad de Guanajuato (Guanajuato, México), 2019.2.18.
- (招待講演) Inoue, Yukitaka La construcción novohispana de la imagen prehispánica: el caso de las crónicas de Alva Ixtlilxochitl. Lectura invitada, Universidad Iberoamericana (México), 2019.2.5.
- (招待講演) Fujikake, Yoko Mejoramiento de la calidad de vida de las mujeres rurales del Paraguay desde mirada de la universidad. Simposio Internacional de la Universidad Nacional de Asunción (Asunción), 2018.9.17.
- (招待講演) Kobayashi, Takanori Comunicación y difusión cultural en la comunidad. Perspectivas de la *Community Based Archaeology* (Arqueología basada en la comunidad). Taller: Estrategias de la difusión cultural, Universidad de Las Américas (Puebla, México), 2018.8.17
- (招待講演) Inoue, Yukitaka Los japoneses en tierras mexicanas: a través de una crónica indígena del siglo XVII. Lectura invitada, Universidad La Salle (Santa Cruz Xoxocotlán, México), 2017.8.23.
- (招待講演) Inoue, Yukitaka Textos históricos y su contexto histórico a partir de la lectura de la *Historia*

cronológica de la noble ciudad de Tlaxcala. Seminario permanente de crónicas novohispanas y andinas, Dirección de Estudios Históricos de Instituto Nacional de Antropología e Historia (México), 2017.8.11.

(招待講演) Zenno, Miho El sitio arqueológico y la creación de identidad: Una mirada a la Ciudad de México y Osaka, Japón. Seminario Permanente Etnografía de la Cuenca de México, Instituto de Investigaciones Antropológicas de Universidad Nacional Autónoma de México (México), 2017.3.2.

(招待講演) Zenno, Miho El sitio arqueológico como recurso económico y simbólico de un pueblo originario de la Ciudad de México. Homenaje a Andrés Medina, Instituto de Investigaciones Antropológicas de Universidad Nacional Autónoma de México (México), 2016.10.18.

(招待講演) Inoue, Yukitaka Reflexión histórica acerca de los títulos primordiales de los pueblos originarios del valle de México. Seminario Permanente Etnografía de la Cuenca de México, Instituto de Investigaciones Antropológicas de Universidad Nacional Autónoma de México (México), 2016.9.1.

(招待講演) Inoue, Yukitaka Los tlatoque en la *Decimatercia relación* de Fernando de Alva Ixtlilxochitl. Coloquio Internacional "La Nueva España: Diversos enfoques sobre sus fuentes", Dirección de Estudios Históricos de Instituto Nacional de Antropología e Historia (México), 2016.8.24.

(招待講演) Inoue, Yukitaka Hacia una historiografía novohispana: las fuentes españoles e indígenas. Seminario permanente de crónicas novohispanas y andinas, Dirección de Estudios Históricos de Instituto Nacional de Antropología e Historia (México), 2015.3.3.

(招待講演) Inoue, Yukitaka "Japón y Asia en el *Diario* de Chimalpain", Retos y Esperanzas de Japón en el siglo XXI: a 400 años de la Misión Hasekura, Universidad Iberoamericana (México), 2014.10.29.

鈴木紀 古代アメリカ文明の継承者は誰か: 博物館展示から考える. 古代アメリカ学会第23回研究大会, 専修大学生田キャンパス(川崎市), 2018.12.2.

Suzuki, Motoi ¿Cómo se representan patrimonios prehispánicos?: un estudio comparativo de museos de antropología y arte popular en México y Perú. Coloquio Internacional de México-Japón: Las sociedades mesoamericanas y los cambios culturales en su proceso histórico, Instituto de Investigaciones Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México (México), 2018.8.22.

Suzuki, Motoi La diversidad en la representación de las civilizaciones prehispánicas: un estudio comparativo de la museografía. 56o Congreso Internacional de Americanistas, Universidad de Salamanca (España, Salamanca), 2018.7.16.

鈴木紀 文化遺産としての古代アメリカ文明—博物館展示の比較研究. 日本文化人類学会第52回研究大会, 弘前大学(弘前市), 2018.6.3.

Suzuki, Motoi El pasado como recurso estratégico. Simposio Internacional "La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones prehispánicas y culturas indígenas como recurso estratégico", 国立民族学博物館(吹田市), 2018.3.17.

Suzuki, Motoi Representando el tiempo y el espacio de las Américas: la estrategia de exhibición como un museo universal en el Museo Nacional de Etnología, Japón. Simposio Internacional "La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones prehispánicas y culturas indígenas como recurso estratégico", 国立民族学博物館(吹田市), 2018.3.17.

Ikezuki, Wataru Revalorización de la 'interculturalidad' en la relación entre el pasado y la diversidad cultural contemporánea de los indígenas en Ecuador. 56o Congreso Internacional de Americanistas, Universidad de Salamanca (España, Salamanca), 2018.7.16.

生月 亘 エクアドルの先住民による「現代アンデス文化」の生成と活用の考察: 先住民教育による「Interculturalidad」の実践と「先住民文化」の標準化の課題. 日本ラテンアメリカ学会第39回定期大会, 愛知県立大学(長久手市), 2018.6.2.

Ikezuki, Wataru La revaloración de la educación bilingüe intercultural y la cultura indígena en Ecuador. Simposio Internacional "La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones prehispánicas y culturas indígenas como recurso estratégico", 国立民族学博物館(吹田市), 2018.3.18.

Inoue, Yukitaka El concepto de "autor" en la tradición historiográfica indígena novohispana. International Conference: Indigenous Knowledge as a Resource? Transmission, Reception, and Interaction of Global and Local Knowledge between Europe and the Americas 1492-1800, Eberhard Karls Universität Tübingen (Tübingen, Germany), 2018.9.11.

Inoue, Yukitaka Nezahualcoyotl Acolmiztli: su imagen en el proceso historiográfico colonial. Coloquio Internacional de México-Japón: Las sociedades mesoamericanas y los cambios culturales en su proceso histórico, Instituto de Investigaciones Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México (México), 2018.8.22.

Inoue, Yukitaka Los santos en las crónicas indígenas y mestizas. 56o Congreso Internacional de Americanistas, Universidad de Salamanca (España, Salamanca), 2018.7.16.

Inoue, Yukitaka Pasado y presente en la *Historia cronológica de la Noble Ciudad de Tlaxcala*. 56o Congreso Internacional de Americanistas, Universidad de Salamanca (España, Salamanca), 2018.7.16.

Inoue, Yukitaka La visión mesoamericana del mundo y de la historia y su transformación en las crónicas indígenas. 日本ラテンアメリカ学会第39回定期大会, 愛知県立大学(長久手市), 2018.6.2.

Kudo, Yumi Adaptación ideológica y práctica de la medicina mapuche en región metropolitana de Chile. 56o Congreso Internacional de Americanistas, Universidad de Salamanca (España, Salamanca), 2018.7.16.

Kudo, Yumi ¿Qué es natural de la medicina mapuche?: la diferencia entre las visiones mapuche y chilena de la naturaleza y su sinergia. Simposio Internacional "La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones prehispánicas y culturas indígenas como recurso estratégico", 国立民族学博物館(吹田市), 2018.3.18.

Kobayashi, Takanori Un desafío encallado del movimiento social por el patrimonio vivo: en torno al paisaje cultural urbano en Cholula, México. Coloquio Internacional de México-Japón: Las sociedades mesoamericanas y los cambios culturales en su proceso histórico, Instituto de Investigaciones Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México (México), 2018.8.23.

小林貴徳 他者として地元位置づけられる研究者—メキシコにおける考古学調査の公共性と地域住民のまなざしをめぐる—. 日本ラテンアメリカ学会第39回定期大会, 愛知県立大学(長久手市), 2018.6.2.

Kobayashi, Takanori De la ciudad sagrada al pueblo mágico: el movimiento social por la tierra, la historia y la identidad frente al desarrollo del turismo en Cholula, México. Simposio Internacional "La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones prehispánicas y culturas indígenas como recurso estratégico", 国立民族学博物館(吹田市), 2018.3.18.

Shakuya, Shigeki La invasión ilegal de los vendedores locales que queda sin solución entre las tensas relaciones de los actores en la Zona Arqueológica de Chichen Itzá. Coloquio Internacional de México-Japón: Las sociedades mesoamericanas y los cambios culturales en su proceso histórico, Instituto de Investigaciones Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México (México), 2018.8.23.

Shakuya, Shigeki La diversidad de intereses en la zona arqueológica de Chichen Itzá: un análisis sobre la invasión ilegal de los vendedores locales. Simposio Internacional "La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones prehispánicas y culturas indígenas como recurso estratégico", 国立民族学博物館(吹田市), 2018.3.18.

Zenno, Miho El proceso de democratización y sus recursos culturales en los pueblos originarios de la Ciudad de México. Coloquio Internacional de México-Japón: Las sociedades mesoamericanas y los cambios culturales en su proceso histórico, Instituto de Investigaciones Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México (México), 2018.8.23.

Zenno, Miho Los movimientos sociales y sus recursos culturales en un pueblo originario de la Ciudad de México. Simposio Internacional "La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones prehispánicas y culturas indígenas como recurso estratégico", 国立民族学博物館(吹田市), 2018.3.18.

藤掛洋子 パラグアイ伝統工芸品ニャンドティの著作権に関する一考察: イタグアの作り手たちの語りから「著作権」について考える. 日本ラテンアメリカ学会第39回定期大会, 愛知県立大学(長久手市), 2018.6.2.

Fujikake, Yoko Artesanía tradicional de Paraguay: nanduti y su interpretación como recurso cultural. Simposio Internacional "La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones prehispánicas y culturas indígenas como recurso estratégico", 国立民族学博物館(吹田市), 2018.3.18.

Honya, Yuko Crear la comunidad y el vínculo a través de los tejidos a mano: el caso de las mujeres indígenas de Guatemala. 3er Encuentro de textiles mesoamericanos, Museo Textiles de Oaxaca (Oaxaca, México), 2018.10.20.

Honya, Yuko ¿Plagio o no?: el problema de la creatividad y la propiedad intelectual en el caso de la cultura indumentaria de las mujeres indígenas en Guatemala. Coloquio Internacional de México-Japón: Las sociedades mesoamericanas y los cambios culturales en su proceso histórico, Instituto de Investigaciones Antropológicas,

Universidad Nacional Autónoma de México (México), 2018.8.23.

Honya, Yuko ¿Plagio o no?: el problema acerca de la creatividad y la propiedad intelectual en el caso de la cultura de indumentaria de las mujeres indígenas en Guatemala. 56o Congreso Internacional de Americanistas, Universidad de Salamanca (スペイン、サラマンカ市), 2018.7.16.

本谷裕子 伝統織物の知的所有権と著作権に関する一考察—グアテマラ高地先住民女性の事例より. 日本ラテンアメリカ学会第 39 回定期大会, 愛知県立大学(長久手市), 2018.6.2.

本谷裕子 織りと装いのいとなみが描く「文化的自画像」—グアテマラ高地先住民女性の事例より. 第 34 回民族芸術学会大会, 林原美術館(岡山市), 2018.4.22.

Honya, Yuko Un análisis de la creatividad y el vínculo a través de los tejidos a mano: el caso de las mujeres indígenas de Guatemala. Simposio Internacional "La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones prehispánicas y culturas indígenas como recurso estratégico", 国立民族学博物館(吹田市), 2018.3.18.

Suzuki, Motoi Para el "renacimiento" de las civilizaciones prehispánicas: un estudio comparativo de representación museográfica. XVIII CONGRESO DE LA FIEALC, Megatrend University (Belgrade, Serbia), 2017.7.27.

鈴木紀 アンデス文明は過去のものか?. 日本ラテンアメリカ学会第 38 回定期大会, 東京大学教養学部(東京), 2017.6.4.

生月 亘 エクアドルの先住民教育と先住民文化:「Interculturalidad」の実践と「アンデス文化. 21 世紀ラテンアメリカ研究会秋期定例研究会, たかつガーデン(大阪市), 2017.12.3.

Ikezuki, Wataru Rethinking the significance of "Interculturalidad" for continuing and maintaining ancient Andean Civilization in a contemporary cultural context by indigenous people and their bilingual intercultural education in Ecuador. XVIII CONGRESO DE LA FIEALC, Megatrend University (Belgrade, Serbia), 2017.7.27.

生月 亘 エクアドルの先住民教育における先住民文化の「資源化」:「Interculturalidad」の中で の「古代アンデス文明」とその課題. 日本ラテンアメリカ学会第 38 回定期大会, 東京大学教養学部(東京), 2017.6.4.

井上幸孝 植民地時代メキシコの先住民記録における「著者」の概念. 日本ラテンアメリカ学会第 38 回定期大会, 東京大学教養学部(東京), 2017.6.4.

工藤由美 民族医療と代替医療のあいだ:チリの先住民マプーチェ医療を例に. グローバルヘルス合同大会, セッション「病いと健やかさの多様性」, 東京大学医学部(東京), 2017.11.25.

Kudo, Yumi La medicina mapuche en el ambiente urbano: un caso en Santiago de Chile. XVIII CONGRESO DE LA FIEALC, Megatrend University (Belgrade, Serbia), 2017.7.27.

工藤由美 先住民保健政策下のマプーチェ医療:チリのサンティアゴを事例に. 日本ラテンアメリカ学会第 38 回定期大会, 東京大学教養学部(東京), 2017.6.4.

工藤由美 マプーチェ医療を「信じている(Tengo fe)」ということ:中心から周縁へ移動する人々の語りから. 日本文化人類学会第 51 回研究大会, 神戸大学国際文化学部(神戸市), 2017.5.27.

Kobayashi, Takanori El manga como recurso didáctico innovador para aprender el patrimonio cultural y la historia local: un ensayo de la antropología pública en San Matias Tlalancálea, México. XVIII CONGRESO DE LA FIEALC, Megatrend University (Belgrade, Serbia), 2017.7.27.

Shakuya, Shigeki Patrimonio cultural y la naturaleza en la situación del turismo masivo: el caso de los parques arqueológicos en la parte norte del Caribe Mexicano. XVIII CONGRESO DE LA FIEALC, Megatrend University (Belgrade, Serbia), 2017.7.27.

Honya, Yuko La creatividad del vínculo a través de los tejidos a manos: el caso de las mujeres indígenas de Guatemala. XVIII CONGRESO DE LA FIEALC, Megatrend University (Belgrade, Serbia), 2017.7.27.

Fujikake, Yoko Estudio sobre nanduti (hilo de araña): artesanías tradicionales del Paraguay y su explotación cultural. XVIII CONGRESO DE LA FIEALC, Megatrend University (Belgrade, Serbia), 2017.7.27.

Suzuki, Motoi Entre Arqueología y Etnografía: Un Estudio Museográfico de la Representación de Mesoamérica en el Museo Nacional de Antropología, México. Primer Congreso Internacional de Mesoamericanistas en Tokyo, キャンパス・イノベーションセンター東京(東京), 2016.10.30.

鈴木紀 美術館の中のメソアメリカ文明:展示の詩学と政治学. 日本文化人類学会第 50 回研究大会, 南山大学(名古屋市), 2016.5.28.

Inoue, Yukitaka Los reyes indígenas en la conquista de México: una lectura de la Decimotercia relación de Alva

- Ixtlilxochitl. Consejo de Estudios Latinoamericanos de Asia y Oceanía 2016, Victoria University (Wellington, New Zealand), 2016.12.8.
- Inoue, Yukitaka Historia prehispánica y colonial en la Historia cronológica de la noble ciudad de Tlaxcala de Juan Buenaventura Zapata y Mendoza. Primer Congreso Internacional de Mesoamericanistas en Tokyo, キャンパス・イノベーションセンター東京(東京), 2016.10.30.
- 井上幸孝 スペイン植民地の拡大と地名. 日本イスパニヤ学会第 62 回大会, 南山大学(名古屋市), 2016.10.2.
- 井上幸孝 サパタ・イ・メンドサ『高貴なるトラスカラ市の年代史』に見る先スペイン期の歴史. 日本ラテンアメリカ学会第 37 回定期大会, 京都外国語大学(京都市), 2016.6.4.
- 工藤由美 先住民保健政策下のマプーチェ医療について: 代替補完医療・非マプーチェ患者, 国立民族学博物館共同研究「家族と社会の境界面に関する人類学的研究」, 国立民族学博物館(吹田市), 2016.12.11.
- Kudo, Yumi Medicina Mapuche y la política de salud indígena: Un caso en Santiago de Chile. Consejo de Estudios Latinoamericanos de Asia y Oceanía 2016, Victoria University (Wellington, New Zealand), 2016.12.8.
- 工藤由美 先住民医療の資源化: チリの首都におけるマプーチェ医療をめぐる, 第 5 回アンデス・アマゾン学会研究大会, 名桜大学(名護市), 2016.8.12.
- Kobayashi, Takanori El dilema entre la conservación de patrimonio cultural y el aprovechamiento de recursos: El movimiento civil por la tierra, la historia y la identidad en Cholula, México. Primer Congreso Internacional de Mesoamericanistas en Tokyo, キャンパス・イノベーションセンター東京(東京), 2016.10.30.
- 小林貴徳 メキシコにおける歴史教育の現状と課題—郷土史と文化遺産を伝える学習マンガ創出の試み—. 日本マンガ学会第 16 回大会, 東京工芸大学(東京), 2016.6.25.
- 小林貴徳 地域遺産を子供たちの手に—メキシコ、トラランカレカにおける学習マンガ導入の試み—. 日本ラテンアメリカ学会第 37 回定期大会, 京都外国語大学(京都市), 2016.6.4.
- 小林貴徳 市民連帯による文化の資源化: メキシコ、 Cholulera の大ピラミッド遺跡を含む都市景観をめぐる. 日本文化人類学会第 50 回研究大会, 南山大学(名古屋市), 2016.5.28.
- Shakuya, Shigeki La imagen turística de Chichen Itzá como Patrimonio Mundial: de la situación pendiente de la invasión de los vendedores locales y el control adecuado de la imagen del sitio. Primer Congreso Internacional de Mesoamericanistas en Tokyo, キャンパス・イノベーションセンター東京(東京), 2016.10.30.
- 杓谷茂樹 自文化の「資源化」から距離を置く地元住民: チチェン・イツァ遺跡公園における露店商の選択. 日本文化人類学会第 50 回研究大会, 南山大学(名古屋市), 2016.5.28.
- 禪野美帆 メキシコ市内旧先住民村落の「地元民」および隣接するエヒードの成員による先スペイン期遺跡の資源化. 日本文化人類学会第 50 回研究大会, 南山大学(名古屋市), 2016.5.28.
- Honya, Yuko El traje e identidad en el caso de las mujeres indígenas en Guatemala. Consejo de Estudios Latinoamericanos de Asia y Oceanía 2016, Victoria University (Wellington, New Zealand), 2016.12.8.
- 本谷裕子 先スペイン期起源の織機か織り成すグアテマラ高地先住民女性の衣文化とその変容. 日本文化人類学会第 50 回研究大会, 南山大学(名古屋市), 2016.5.28.
- 本谷裕子 グアテマラ高地先住民女性の織りと装いに見る異文化受容. 民族芸術学会第 32 回研究大会, お茶の水女子大学(東京), 2016.4.24.
- 藤掛洋子 パラグアイにおけるグアラニー文化の『資源化』: グアラニー語と伝統工芸ニャンドティから考える. 「知の共演」木村秀雄退職記念シンポジウム, 東京大学(東京), 2016.3.27.
- 鈴木紀 博物館展示にみる中米古代文明. 文化遺産国際協力コンソーシアム第 6 回中南米分科会, 東京文化財研究所(東京), 2016.1.28.
- 藤掛洋子 パラグアイにおけるジェンダーに配慮したリスク共生と開発. 第 2 回中南米シンポジウム: パラグアイにおけるリスク共生と開発, 横浜国立大学(横浜市), 2016.1.27.
- 工藤由美 先住民組織の二つの顔と民族医療: チリの首都圏州南東地区における事例から. 国立民族学博物館共同研究会「家族と社会の境界面に関する人類学的研究」, 国立民族学博物館(吹田市), 2016.1.10.
- 禪野美帆 メキシコ市内旧先住民村落およびエヒード居住者による考古遺跡の利用. 北米エスニシティ研究会, 関西学院大学大阪梅田キャンパス(大阪市), 2015.12.20.
- 藤掛洋子 パラグアイの伝統工芸品: ニャンドウティ(蜘蛛の糸)の資源化について. SECILA(イベリア・ラテン

- アメリカ文化研究会)第65回例会(関東地域),慶應義塾大学(東京),2015.12.20.
- 井上幸孝 ネサワルコヨトル像の形成に関する一考察. 古代アメリカ学会第20回研究大会, 東京大学(東京), 2015.12.5.
- 本谷裕子 グアテマラ高地先住民女性の織りと装いに見る異文化受容. 服飾文化学会平成27年度博士論文発表会, 共立女子大学(東京), 2015.11.28.
- Suzuki, Motoi Representing pre-Columbian Heritage: a Comparative Study of Museum Exhibitions on Maya Civilization. The 114th Annual Meeting of the American Anthropological Association, Denver, USA. 2015.11.20.
- 小林貴徳 遺跡の地域資源化と文化景観の生成:メキシコの観光開プログラム「プエブロス・マヒコス」における地域社会の取り組み. 日本ラテンアメリカ学会第36回定期大会, 専修大学(川崎市), 2015.5.31.
- 杓谷茂樹 観光業界、行政、そして地元住民:ステーキホルダーのそれぞれの思惑が交叉する世界遺産チチェン・イツァの現実. 日本ラテンアメリカ学会第36回定期大会, 専修大学(川崎市), 2015.5.31.
- 藤掛洋子 パラグアイにおけるグアラニー文化と表象. 日本ラテンアメリカ学会第36回定期大会, 専修大学(川崎市), 2015.5.30.
- 本谷裕子 近代化に伴う民族衣装の意味変容:グアテマラ高地マヤ先住民の事例より. 服飾文化学会第16回研究大会, 大妻女子大学(東京), 2015.5.17.
- 鈴木紀 展示の中のマヤ文明とマヤ民族:メキシコ、グアテマラの博物館比較. 日本ラテンアメリカ学会西日本部会研究会, 京都大学(京都市), 2015.4.18.
- 本谷裕子 手仕事に紡ぐ女性のインフォーマルなネットワークとその変容:グアテマラ高地マヤ先住民女性の織りと装いのいとなみを視座に. 日本ラテンアメリカ学会西日本部会研究会, 京都大学(京都市), 2015.4.18.
- 杓谷茂樹 メキシコ、ユカタン半島北部のマスツーリズム的状况を生きる先住民、あるいは地域住民:3つのケースから. 第22回観光創造コロキウム, 北海道大学観光学高等研究センター(札幌市), 2015.4.10.
- 杓谷茂樹 切り拓かれるべき自然、包み込む「自然」:カンクン・ホテルゾーンの遺跡公園の見せ方から考える. SECILA(イベリア・ラテンアメリカ文化研究会)「第62回例会(関東地域)」, 専修大学(東京), 2014.12.20.
- 杓谷茂樹 マスツーリズム状況下の世界遺産の現実:メキシコ、チチェン・イツァ遺跡公園における地元露店商不法侵入問題をめぐって. 北海道大学観光学高等研究センター 第2回観光創造研究会, TKP 札幌駅カンファレンスセンター(札幌市), 2014.9.23.
- Inoue, Yukitaka Origen, lindero y tierras en el Códice Techialoyan de Cuajimalpa. 6a Conferencia del Consejo de Estudios Latinoamericanos de Asia y Oceanía, Kyoto University (Kyoto), 2014.9.16.
- Kobayashi, Takanori La resistencia colectiva por los recursos minerales en las comunidades indígenas de la montaña de Guerrero, México. 6a Conferencia del Consejo de Estudios Latinoamericanos de Asia y Oceanía, Kyoto University (Kyoto), 2014.9.16.
- Zenno, Miho Discursos de legitimación en la página web de un pueblo originario de la Ciudad de México. 6a Conferencia del Consejo de Estudios Latinoamericanos de Asia y Oceanía, Kyoto University (Kyoto), 2014.9.16.
- Fujikake, Yoko Empoderamiento de las mujeres en Paraguay: Evaluación (1993-2003) y Aplicación (2004-2014). アスンシオン国立大学学術交流ワークショップ, Universidad Nacional de Asunción (Paraguay), 2014.9.5.
- 国際活動支援班**
- SAUCEDO-SEGAMI, Daniel Dante La problemática del patrimonio arqueológico urbano en Lima, Perú. 56o Congreso Internacional de Americanistas, Universidad de Salamanca(スペイン、サラマンカ市), 2018.7.16.
- Yagi, Yuriko Entre lo religioso y lo histórico andino: cambio de una festividad y participación de nuevos actores. 56o Congreso Internacional de Americanistas, Universidad de Salamanca(スペイン、サラマンカ市), 2018.7.16.
- 八木百合子 現代アンデスにおける宗教刺繍の展開と作者性—ペルー・クスコの事例から. 日本ラテンアメリカ学会第39回定期大会, 愛知県立大学(長久手市), 2018.6.2.
- SAUCEDO-SEGAMI, Daniel Dante La relevancia de las humanidades en la sociedad actual: retos y propuestas desde la Arqueología Pública. XXX Congreso CANELA, 静岡県立大学(静岡市), 2018.5.19.
- SAUCEDO-SEGAMI, Daniel Dante El valor y uso del patrimonio arqueológico: un ejemplo desde la ciudad de Lima, Perú. Simposio Internacional "La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones

- prehispánicas y culturas indígenas como recurso estratégico", 国立民族学博物館(吹田市), 2018.3.18.
- Yagi, Yuriko Estampando el pasado andino: cambio y creatividad en los diseños de las capas de la Virgen Natividad del Cusco, Perú. Simposio Internacional "La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones prehispanicas y culturas indígenas como recurso estratégico", 国立民族学博物館(吹田市), 2018.3.18.
- サウセド・セガミ・ダニエル・ダンテ 都市部のパブリック考古学—ペルー中央海岸ワカ・メルガレホ遺跡のパブリック考古学調査速報. 古代アメリカ学会第 22 回研究大会, 茨城大学(水戸市), 2017.12.3.
- SAUCEDO-SEGAMI, Daniel Dante Memoria social e identidad en los sitios arqueológicos urbanos de Lima, Perú. XVIII CONGRESO DE LA FIEALC, Megatrend University (Belgrade, Serbia), 2017.7.27.
- SAUCEDO-SEGAMI, Daniel Dante Sitios arqueológicos urbanos: El uso actual de los sitios arqueológicos en Lima, Perú. 日本ラテンアメリカ学会第 38 回定期大会, 東京大学教養学部(東京), 2017.6.4.
- 八木百合子 現代のキリスト教文化にみる歴史表象:クスコの教会堂の奉納品の事例から. 日本ラテンアメリカ学会第 38 回定期大会, 東京大学教養学部(東京), 2017.6.4.
- SAUCEDO-SEGAMI, Daniel Dante The Challenges of Public Archaeology in Developing Countries: Some thoughts from Peru. World Archaeology Congress 8, 同志社大学今出川キャンパス(京都市), 2016.8.29.
- SAUCEDO-SEGAMI, Daniel Dante The problems of archaeological outreach and education in the north coast of Peru. World Archaeology Congress 8, 同志社大学今出川キャンパス(京都市), 2016.8.29.
- サウセド・セガミ・ダニエル・ダンテ ペルー北海岸におけるパブリック考古学の研究. 古代アメリカ学会第 20 回研究大会, 東京大学総合研究博物館(東京), 2015.12.6.
- 公募研究**
- 大平秀一 ペルー・ワロチリの降誕祭:その変化と継承性. 第 7 回アンデス・アマゾン学会研究大会, 東海大学高輪キャンパス(東京), 2018.6.30.
- 岡本 年正 Yawar Fiesta にみる文化／慣習の布置—アプリアック県コタバンバス郡におけるコンドル・ラチの現在. 第 7 回アンデス・アマゾン学会研究大会, 東海大学高輪キャンパス(東京), 2018.7.1.
- 星川真樹 政府による小規模農家への輸出向け作物の導入:ペルーにおけるアボカド生産の事例. 第 7 回アンデス・アマゾン学会研究大会, 東海大学高輪キャンパス(東京), 2018.7.1.
- 大平秀一 アンデス先住民の語りにおける「太陽」:ワロチリ文書を中心に. 日本ラテンアメリカ学会第 39 回定期大会, 愛知県立大学(長久手市), 2018.6.3.
- 岡本 年正 Susto からみる現代アンデス世界の信仰—クスコ都市部の susto における魂の認識のありかたより. 日本ラテンアメリカ学会第 39 回定期大会, 愛知県立大学(長久手市), 2018.6.3.
- Odaira, Shuichi Danzas folklóricas andinas en la festividad de Pascua de Navidad y el uso de las ruinas: el caso de la provincia de Huarochirí, Perú. Simposio Internacional "La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones prehispanicas y culturas indígenas como recurso estratégico", 国立民族学博物館(吹田市), 2018.3.18.
- 大平秀一 ペルー・ワロチリにおける「遺跡」利用の継承性. 古代アメリカ学会第 22 回研究大会, 茨城大学(水戸市), 2017.12.3.
- Sato, Masaki La historia regional como un prisma de la historia virreinal: López en los años de la falsificación (ca. 1650) . IX Congreso de la Asociación de Estudios Bolivianos, Archivo y Biblioteca Nacionales de Bolivia (Sucre, Bolivia), 2017.7.24-28.
- Okamoto, Toshimasa Los sentimientos expresados en Pago a la tierra y sus alrededores. Simposio Internacional de los Andes y Amazonía, 青山学院大学(東京), 2017.7.9.
- Odaira, Shuichi El concepto de colores en el manuscrito de Huarochiri y el arco iris. Simposio Internacional de los Andes y Amazonía, 青山学院大学(東京), 2017.7.7.
- 大平秀一 錬金術・ヘルメス思想とインカ表象における「太陽神」. 日本ラテンアメリカ学会第 38 回定期大会, 東京大学教養学部(東京), 2017.6.3.

3. 主な図書等(令和2年6月現在)

〔図書〕計16冊

研究項目A01・A02・A03・A04共同

青山和夫, 米延仁志, 坂井正人, 鈴木紀(編著)『古代アメリカの比較文明論:メソアメリカとアンデスの過去から現代まで』京都大学学術出版会, 444頁, 2019.

研究項目A01・A02・A04共同

井上幸孝, 佐藤暢編『人間と自然環境の世界誌—知の融合への試み』専修大学出版局, 277頁, 2017.

研究項目A02・A03・A04共同

青山和夫, 坂井正人(編著)『メソアメリカ文明とアンデス文明:文字、図像と公共建築の通時的比較』講談社現代新書, 印刷中, 2020年刊行予定.

研究項目A02・A04共同

Aoyama, Kazuo, Rodrigo Liendo Stuardo (eds.) *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración*. Universidad Nacional Autónoma de México, 印刷中, 2020年刊行予定, 査読有.

研究項目A02

嘉幡茂『図説マヤ文明』, 136頁, 河出書房新社, 2020.

Stanton, Travis, Kenichiro Tsukamoto *Past in the Present: Introduction to Archaeology*, 274頁, Kendall Hunt Publishing Company, Dubuque, 2019.

嘉幡茂『テオティワカン—「神々の都」の誕生と衰退—』, 202頁, 雄山閣, 2019.

大城道則, 青山和夫, 関雄二『世界のピラミッド大事典』, 639頁, 柊風社, 2018.

市川彰『古代メソアメリカ周縁史—大都市の盛衰と大噴火のはざままで—』, 233頁, 溪水社, 2017.

青山和夫『マヤ文明を知る事典』, 336頁, 東京堂出版, 2015.

研究項目A03

Sakai, Masato, Yuichi Matsumoto (eds.) *Peruvian Archaeology 4*. The Yamagata University Institute of Nasca, 81頁, 2020.

Juan Pablo Villanueva, Johanna Broda, Masato Sakai (eds.) *Deidades, paisajes y astronomía en la cosmovisión andina y mesoamericana*, 478頁, Universidad Ricardo Palma, Lima, 2019, 査読有.

Sakai, Masato, Yuichi Matsumoto (eds.) *Peruvian Archaeology 3*. The Yamagata University Institute of Nasca, 128頁, 2019.

Sakai, Masato, Jorge Olano, Hiraku Takahashi *Centros de Líneas y Cerámica en las Pampas de Nasca, Perú, hasta el año 2018*, Yamagata University Press, 112頁, 2019.

研究項目A04

アントニオ・アイミ(著), 井上幸孝(日本語版監修), モドリユー克枝(訳)『ビジュアル図解 マヤ・アステカ文化事典』, 397頁, 柊風舎, 2020.

大平秀一他『古代エジプトとアンデスの色彩』東海大学文明研究所, 63頁, 2019.

4. アウトリーチ活動(令和元年6月現在)

① 領域ホームページ

本領域では、H26年7月から鳴門教育大・米延研究室のウェブサーバでホームページを開設した(<http://dendro.naruto-u.ac.jp/csaac/>)。迅速にコンテンツを更新し、コンテンツ管理システムを用いて運用した。サイトはトップページ、プロジェクトの紹介、研究班の紹介、成果発信、研究成果、リンク、ニュースで構成した。工夫点としては、総括班メンバーが領域の研究・アウトリーチ活動をニュースで速やかに公開した。研究成果や講演会の開催をリアルタイムに広報するためにフェイスブックページ「古代アメリカの比較文明論」を開設し、情報を発信した。

② 新聞報道

領域研究の活動やメンバーに関連する新聞報道は計172本(うち海外29本)を数えた。

③ テレビ・ラジオ番組

本領域研究のメンバーが出演・監修・協力したテレビ番組は計41本(うち海外2本)、ラジオ番組は計12本(うち海外3本)である。

④ 雑誌報道

雑誌報道は、計30本(うち海外2本)である。

⑤ Web ニュース:

本領域の研究活動は、国内外の計139のWebニュースでも紹介された。

⑥ 領域主催シンポジウム・公開講演会

本領域のメンバーは、北海道、山形、宮城、石川、福井、東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、愛知、大阪、京都、兵庫、鳥取、福岡、大分など日本の各地で計156回の公開シンポジウムや公開講演会を実施した。本領域主催の公開シンポジウムは計4回であり、H27年6月とH29年7月に国立民族学博物館、H28年6月とH31年2月にキャンパス・イノベーションセンター東京で開催した。研究成果を速やかに公開・普及し、国民との双方向のコミュニケーションを図るために領域主催の公開シンポジウム及び各研究項目の代表者が参画する公開講演会では聴衆からの質問コーナーを設け、アンケート調査を実施した。いずれの公開シンポジウム・公開講演会においても活発な対話が行われ、参加者の95-98%程度から「とてもよかった」及び「よかった」という肯定的な回答を得た。

⑦ イベント参加・出展:

イベント参加・出展は計28件あり、坂井らは企画展「ナスカの地上絵」山形県郷土館(H28年2月14日-3月13日、来場者6,919人)や山形大学人文学部附属ナスカ研究所パネル展「世界遺産ナスカの地上絵」山形県立中央病院「あおやぎギャラリー」(H27年6月14日-7月25日)に、青山は高知県立牧野植物園の企画展示「天然ゴムのできるまで」(H26年10月11日-H27年2月8日)や茨城大学附属図書館の企画展示「古代アメリカの比較文明論」(H26年11月12日-H27年3月31日)に協力した。米延は、年縞博物館(福井県)とふじのくに地球環境史ミュージアムに、本領域に関連した樹木年輪・年縞堆積物試料、解説等を常設展示品として提供した。北場(研究項目A01分担者)は、年縞博物館(福井県)に展示資料を提供し、2018年12月より同博物館のツアーガイドを務めている。

⑧ 小・中・高向け授業・実験・実習

小・中・高向け授業・実験・実習は計16件あり、青山はいばらきこども大学の開校式(H27年6月20日)で487名の小学生に「神秘・不思議ではないマヤ文明」という基調講演を行った。本領域のメンバーは、所属大学における高校生向けの模擬授業、中高校で出前授業、寺子屋子ども大学の講演や実習、学習、小学校の環境体験学習などを実施した。米延は、毎年定期的に行われる鳴門教育大学オープンキャンパスにおいて「森と文明」という演題で模擬授業を行った(H27、28年)。またH27-29年度には、小中学生を対象

に夏休み体験学習会「自然の縞々に家族と日本の歴史を刻もう」を開催し、H29 年度に受講者 1 名(小 5)の自由研究が所属学校で表彰された。

(4) 研究成果による産業財産権の出願・取得状況
なし。

(5) 研究成果

1. 研究領域の目的及び概要

■領域研究の対象と目的

本新学術領域研究は、従来の世界史研究で軽視されてきたメソアメリカとアンデスという古代アメリカの二大文明に地域を絞り、考古学、歴史学、文化人類学等の異なる分野の人文科学と自然科学の研究者が連携して、新たな視点や手法による古代アメリカの比較文明論の新展開を目指した。私たちは、科学研究費補助金新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」(平成21～25年度、領域代表者:青山和夫)の成果を踏まえ更なる発展を目指した。私たちの研究プロジェクトは、年代軸を格段に精密化して環境と文明の関係を一層詳細に検討し、文明の変動を実証的かつ多面的に検証した。計画研究A04「植民地時代から現代の中南米の先住民文化」を加え、古代文明の資源化をキーワードにより長い時間軸で文明の動態を探求した。「古代アメリカの比較文明論」プロジェクトの目的は、①精密な自然科学的年代測定法や古環境復元によって、メソアメリカとアンデスの高精度の編年を確立し環境史を解明する、②精密な編年を基にメソアメリカ文明とアンデス文明の詳細な社会変動に関する通時的比較研究を行う、③植民地時代から現代まで、メソアメリカ文明とアンデス文明が中南米の先住民文化に及ぼした影響を検証することであった。さらにこれらの成果を基に導かれる古代文明研究の今日的意義を探求した。

■研究の学術的背景

メソアメリカとアンデスという、古代アメリカの二大文明を築いたのは、我々日本人と同じモンゴロイドである。古代アメリカの二大文明は、人類が1万数千年前にアメリカ大陸に渡ってから16世紀になるまで旧大陸の諸文明と交流することなく、アメリカ大陸の内部で独自に興隆した一次文明であった。旧大陸の諸文明が相互に影響しながら展開してきたことを考えると、人類史における古代アメリカの諸文明の特異性は明らかである。一方、アメリカ大陸原産の栽培植物は世界の栽培種の6割を占めるが、コロンブス以降の西洋では新しい食料源を得て人口が大幅に増加し繁栄を極めた。栽培植物という生活基盤から世界の歴史を変えたのは、古代アメリカ文明である。しかし西洋人の侵略・植民地化によって「敗者」となった古代アメリカの二大文明は、歴史の表舞台から消され、後世に及ぼす影響が過小評価されている。今なお学術研究と一般社会のもつ知識の隔たりは大きい。その一因は、古代アメリカの文化や歴史に関する世界史教科書の記述が、ユーラシア大陸と比べて質量共に極めて貧弱なことである。

「歴史は勝者によって書かれる」としばしば言われるが、本領域研究は、主に「勝者」の西洋人によって理解され、語られてきたメソアメリカ文明とアンデス文明について文系と理系の多様な研究者による新たな視点や手法による共同研究を推進し、古代アメリカの比較文明論の新たな展開を目指す。新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」(H21-25年度、領域代表者:青山和夫)では、計画研究A02代表者の青山とA03代表者の坂井は、A01代表者の米延と文理融合の共同研究を展開した。環太平洋という広範な地域の通時的な考古学データと高精度の環境史復元を照らし合わせて、メソアメリカ文明とアンデス文明の盛衰と環境変動の因果関係を明らかにした。この共同研究によって環境変化と古代文明の盛衰に関する実証的なデータを収集した結果、環境が文明の変動を左右するという単純な環境決定論の問題点が浮き彫りになった。A04代表者の鈴木は、1986年からメソアメリカのマヤ先住民に関する文化人類学調査に従事し、人々が過去を参照しながら自己のアイデンティティを確認する現象を研究してきた。

■研究期間に何をどこまで明らかにしようとするのか

本領域研究は、高精度の編年を基にメソアメリカ文明とアンデス文明という一次文明の詳細な社会変動に関する実証的かつ基礎的な通時的データを収集して比較研究し、実証的かつ多面的に検証する。グアテマラとペルーで航空レーザー測量を実施して、マヤ文明のセイバル遺跡の都市全体と周辺地域及びナスカ台地と周辺地域の考古遺構の空間分布を広範に調査する。遺跡の航空レーザー測量は、グアテマラでは初めてである。さらに両文明のデータから、いつ、なぜ、どのように社会が変動したのかを比較する。実証的な比較文明論の研究の基盤となるのが、高精度の編年と環境史復元である。「環太平洋の環境文明史」の自然科学研究において世界標準の年代目盛を作成する上で明らかとなったのは、湖沼の年縞堆積物は

蓄積性の誤差をもつという点である。また北半球で作成した年代目盛もアンデス地域のような南半球の低緯度では未だにデータの蓄積が少なく 10 数年のズレを伴う。本領域研究ではこのズレを修正するために、統計的な誤差がない年輪年代法を開発する。

本領域研究は、古代文明の詳細な社会変動を解明するだけでなく、植民地時代や現代を研究する歴史学者や文化人類学者からなる計画研究 A04「植民地時代から現代の中南米の先住民文化」を加え、より長い時間軸で文明の動態を探求する。計画研究 A04 では、古代文明に関する情報が植民地時代から現在までの中南米の先住民文化の表象に及ぼす影響を「古代文明の資源化」をキーワードに考察する。先住民と非先住民の双方が、過去や文明をどのように評価しながら先住民文化を描いてきたかを探る。こうして後世の人間が資源として活用する古代アメリカ文明という視点を提示し、「文明の終焉」という概念に再考を促す。

■本領域の発展がどのように学術水準の向上・強化につながるか

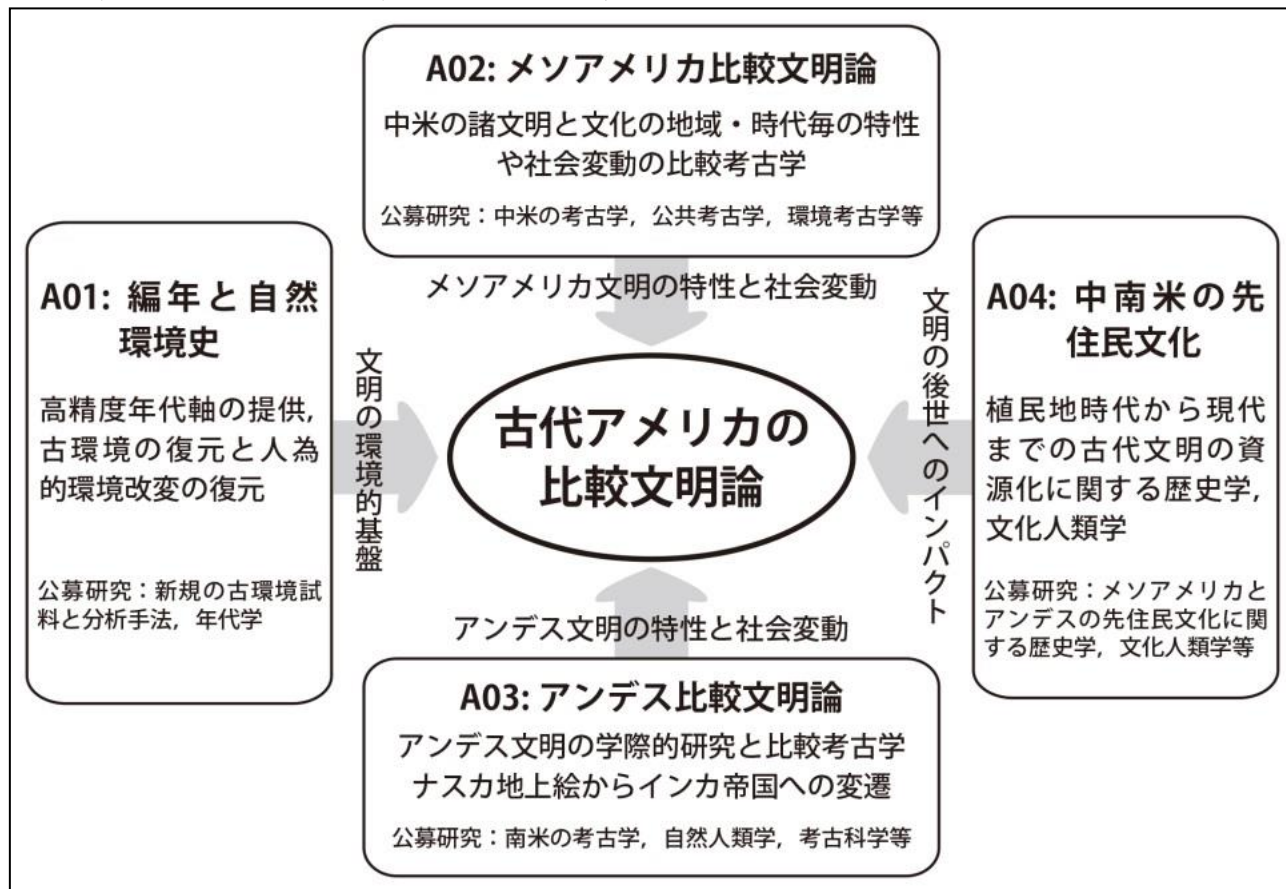
本領域研究は、従来の世界史研究で軽視されてきた中米メソアメリカと南米アンデスという、古代アメリカの二大文明について、人文科学と自然科学の多様な研究者が連携して新たな視点や手法による共同研究を推進する。研究組織は、メソアメリカとアンデスの考古学、歴史学、多様な研究対象の文化人類学、動物考古学、考古植物学、考古科学、環境地理学、認知心理学、哲学、年代学、古気候学、地質学、地質工学、保存科学、情報科学等、多様な分野の代表的な専門家から構成されている。こうした文理融合の学際的な比較文明論の試みは、世界的にみても珍しい。本研究は古代アメリカ各地の地域・時代毎の特性や詳細な社会変動を通時的に比較研究して、古代アメリカの比較文明論の新たな展開を目指す我が国初の実証的な文理融合の通史研究であり、世界的にも斬新な研究となることが期待される。メソアメリカとアンデスに関するテーマ毎の比較考古学研究はあっても、アメリカ大陸の考古学研究は地域毎に細分化され、個別に研究される場合がほとんどである。さらに諸外国においても、考古学、歴史学、文化人類学の研究は専門化・細分化されて各研究分野の研究者間の交流がほとんどないために、スペイン人の侵略以前の先スペイン期から現代までの先住民の研究が通時的に論じられることは少ない。

本研究の学術的な特色・独創的な点は、以下の3点である。(1)北半球で確立した世界標準の年代目盛と南半球の低緯度の誤差を年輪年代法で修正することによって、古代アメリカ文明の盛衰に及ぼした環境変動や他の要因をより精緻に検討することが可能になる。(2)従来はテーマ毎の比較考古学研究はあっても、メソアメリカ文明とアンデス文明が個別に研究される傾向が強かったのに対して、本研究は旧大陸の文明の影響を受けずに発達した一次文明としての両文明それぞれの特性や社会変動を多面的に比較し、人類の文明の多様なあり方を明らかにする。(3)研究対象とする時代を先スペイン期に限定するのではなく、植民地時代や現代の中南米の人々が古代文明を資源化して再解釈するのを示し、古代アメリカの「文明の終焉」の概念を批判的に検討する。

アメリカ大陸のメソアメリカ文明とアンデス文明を正しく理解することにより、旧大陸のいわゆる「四大文明」に基づき形成されてきた一般的な文明観を大幅に修正できる。文系と理系の多様な研究者による本領域研究は、世界史における諸文明の共通性と多様性を再認識し、従来の西洋中心的な文明史観では得られない新しい歴史的知とバランスの取れた「真の世界史」・「真の文明史」の構築に大きく寄与する。中堅・若手研究者を中心とする本研究の推進は、古代アメリカの比較文明論に関する我が国の学術水準を国際的に向上・強化し、革新的な人材育成につながると期待される。

2. 各研究項目の連携状況

総括班は、各研究項目の連携や計画研究と公募研究の調和を図るために以下の項目を実施した。



①領域全体の研究方針の策定と企画・調整：研究組織のデータベースとメーリングリスト(ML：総括班、各研究項目別)を採択直後に作成し、適宜更新して密接に連絡を取り合った。

②領域における公募研究の役割と位置付けの明確化：計画研究に関連して文明史、文化史、環境史を研究することによって、メソアメリカとアンデスの通時的な比較文明研究に資する2年間の研究を2回にわたって公募した。公募研究を、若手研究者による挑戦的な提案、各研究項目を連結することを可能にする研究、共通性が認められる研究と明確に位置付けて、より開かれた研究領域を目指した。その結果、計9つの公募研究を採択しメソアメリカとアンデスの両地域に目配りし、過去から現在までより広い視野をもって領域研究を進めていく体制が整った。

表1 領域会議：研究者全体集会一覧

- 第1 回領域会議：H26年10月19日、キャンパス・イノベーションセンター東京(東京)
- 第2 回領域会議：H27年6月7日、国立民族学博物館(吹田市)
- 第3 回領域会議：H28年6月19日、キャンパス・イノベーションセンター東京(東京)
- 第4 回領域会議：H29年7月2日、国立民族学博物館(吹田市)
- 第5 回領域会議：H31年2月17日、キャンパス・イノベーションセンター東京(東京)

③研究活動の監督と連携の強化：個々の研究項目の成果のとりまとめで終わらせず、研究領域としての研究を発展させていくために総括班は領域会議(研究者全体集会)を毎年度に1回主催した(表1)。研究代表者を中心に研究分担者、連携研究者、研究協力者、公募研究の研究代表者が研究成果を発表して議論を深め、各研究項目の連携を深めた。各研究項目間の連携をより密接かつ円滑にするために、総括班は、研

究項目間の公開合同研究会を計5回主催した(表2)。領域全メンバーが参加する領域会議と比べて、より少人数のメンバーが詳細なデータを含む長めの研究発表を行い、より綿密な議論を重ねて共同研究を推進できた。

表2 研究項目間の公開合同研究会一覧

1. 研究項目 A02・A04 公開合同研究会、H26年12月20日、専修大学(東京)
「テオティワカン国家形成の考古学的研究」(福原)
「切り拓かれるべき自然、包み込む「自然」:カンクン・ホテルゾーンの遺跡公園の見せ方から考える」(杓谷)
2. 研究項目 A02・A04 公開合同研究会、H27年12月20日、慶応義塾大学(東京)
「エルサルバドルにおけるコミュニティ考古学の実践と課題:住民による遺跡発見、調査、価値の創出、そして活用まで」(市川)、
「パラグアイにおける伝統工芸:ニャンドティ(蜘蛛の糸)の資源化について」(藤掛)
3. 研究項目 A02・A03 公開合同研究会、H28年1月23日、キャンパス・イノベーションセンター東京(東京)
「古代アメリカの比較文明論の新展開に向けて:メソアメリカ比較文明論試論」(青山)
「古代アメリカの比較文明論の新展開に向けて:アンデス比較文明論試論」(坂井)
4. 研究項目 A02・A03・A04 公開合同研究会、H30年3月29日、キャンパス・イノベーションセンター東京(東京)
「メソアメリカ文明の文字、図像と公共建築」(青山)
「アンデス文明の文字、図像と公共建築」(坂井)
5. 研究項目 A01・A02・A03・A04 公開合同研究会、H30年7月7日、専修大学神田キャンパス(東京)
「17世紀ペルー北部海岸地域における先住民首長と先住民文明:土地整理 *composición de tierras* をてがかりに」(佐藤)
「ペルー・ワロチリの民族誌・歴史文書・遺跡」(大平)
「歴史的記述における相対主義/実在論:特にアーサー・ダントの「物語論」に則して」(千葉)
「先史アンデス社会における視線の物質化と生産」(坂井)

④研究成果の総括と評価:総括班は、計16回(H26年7月、12月、1月、H27年6月、1月、2月、H28年6月に2回、9月に2回、1月、H29年6月、7月、H30年4月、2月に2回)の総括班会議を開催し、領域の企画調整、各研究項目の研究の成果や進展状況を報告し、意見交換と評価を行った。総括班は、必要性に即応してウェブ会議やML持ち回り会議を開催した。個々の研究項目の活動(調査・分析・発表など)を迅速に把握し研究項目間の連携を強めた。

青山はペルーのナスカ台地の北のラ・ベンティーヤ遺跡の発掘調査で坂井と意見を交換した。坂井と鈴木は青山が実施するセイバル遺跡の発掘調査に立ち会い、比較研究を推進した。青山と坂井は、A01のメンバーによるセイバル遺跡近郊の湖沼調査に立ち会い、議論を重ねた。中南米での研究項目A01調査と研究項目A02、A03の共同研究、研究項目A02、A03の共同研究、研究項目A02、A04の共同研究など、各研究項目の連携を強化して共同研究を実施した結果、効率的な領域運営を実現できた。特に日本と比べると治安が悪くスペイン語が公用語であるグアテマラとペルーにおける研究項目A01の現地調査では、長年の調査経験から現地の状況を熟知している研究項目A02とA03の研究代表者の青山と坂井が、調査地の選定や現地での調査活動、さらに試料の輸出などで全面的に協力し、いずれの地域でも良好な試料を得ることができた。

3. 研究領域の設定目的の達成度

■領域全体

本領域研究は、従来の世界史研究で軽視されてきた古代アメリカの二大文明について、考古学、歴史学、文化人類学等の異なる分野の人文科学と自然科学の多様な研究者が集い、新たな視点や手法による共同研究を推進して、古代アメリカの比較文明論の新展開を当初計画通りに達成することができた。研究成果を国内だけでなく、米国科学アカデミーの学術誌 PNAS に発表した諸論文を含め国外で英語やスペイン語で積極的に発表し、当該領域の学術水準を国際的に向上・強化できた。

高精度の編年に基づいてメソアメリカ文明とアンデス文明の社会変動の過程を明確にして、社会を動かす仕組みとしての公共祭祀建築や文字の役割という視点から比較した。アンデスとメソアメリカの類似点が多いが、たとえば農耕社会や階層化社会が成立したこと及び公共祭祀建築に強い関心がもたれたことが挙げられる。一方で「はじめに神殿ありき」のアンデスでは先土器時代に公共祭祀建築が建造され、公共祭祀建築→農耕定住→土器→王都という社会変動の過程があった。インカ帝国のような巨大な社会が最終的に成立したにもかかわらず、文字はなかった。対照的にメソアメリカでは「はじめに土器ありき、神殿は土器の後」であり、土器→公共祭祀建築→農耕定住→文字→王都(都市)という社会変動の過程があった。アンデス文明と同様に、アジア大陸からアメリカ大陸に進出した新人の末裔が築いたメソアメリカ文明の場合、マヤ文明などで文字が高度に発達した。

アンデス文明は神殿を中心に社会統合を試み、一般的に大規模に集住することを選択しない社会であり、ナスカはその一例といえる。アンデスの祭祀の中心地では、文字ではなく公共祭祀建築が資源化され、社会を突き動かす重要な役割を果たし続けた。アンデスの支配層は、形成期のある時期から公共祭祀建築を祭祀の中心地で積極的に資源化し独占した。そのために祭祀の中心地の近くに住む被支配層は、祭祀活動を支える人々に限定された。先史アンデス社会には、メソアメリカや旧大陸の都市文明に見られるような都市は誕生しなかった。換言すると、アンデス社会に文字がなかったことと、メソアメリカや旧大陸のような都市が誕生しなかったことには密接な関係があったのである。

アンデス文明のあり方は、文字や都市中心的な旧大陸の文明観を覆す。アンデス文明の多くの祭祀の中心地とは異なり、古典期マヤ文明の大遺跡は都市と呼べる機能と形態をもっていた。古典期マヤ文明の大都市には、国家的な宗教儀礼の他に、政治活動や経済活動もかなり集中し、多彩色土器や石器などの生産活動が都市内で行われた。一方、メキシコ中央高原のテオティワカンも、都市を中心とした大規模な集住を選択し、多言語・多民族集団の社会統合を試みた社会といえる。

古代アメリカ文明を客体化し資源として活用するという行為は、植民地時代以降の中南米で行われているだけでなく、メソアメリカとアンデスにおいて先スペイン期から行われた。たとえば、公共祭祀建築の増改築、「語り」や「見せる」行為を物質化した文字や図像など数世代から数世紀前の過去の事物に着目し、資源として利用するという行為が行われ続けた。このことは、文化の日常的な再生産ばかりでなく、世代を隔てた再生産という視点から、文明の発展(継承と変化)を理論化していく必要性を示唆している。本領域研究は温故知新の言葉通り、現代の中南米諸国における歴史認識の刷新、古代アメリカ文明を資源とする芸術的創造・産業化、観光振興、国民の文化的アイデンティティの形成や中南米の地域的アイデンティティの形成に寄与する。

■研究項目 A01—古代アメリカ文明の高精度編年体系の確立と環境史復元

本研究では、樹木年輪と湖沼堆積物を用いて中米メソアメリカと南米アンデスの古代文明の高精度編年体系と自然環境システムの変動を復元し、当時の人類社会・文明との関係を明らかにすることを目的とした。主要なワークパッケージ(WP)は以下の通りである。(1)中米・グアテマラ・マヤ低地南部-(a)湖沼堆積物調査・試料分析、(b)航空レーザー測量データ解析と考古遺構の探索、(2)南米・ペルー・ナスカ台地-(a)樹木年輪調査・試料分析、(b)高精度 3D マッピングによるナスカ台地の立地環境の解析。

WP(1)-(a) ペテシュバトウン湖(GPB)調査では、7.8m に渡る極めて良好な堆積物試料(GPB-pst)と表層堆積物(GPB-lim)の採取に成功した。GPB-pst について μ XRF コアスキャナーを用いた高時間分解の元素分析を利用して年縞計数を実施した。公募研究(大森)の協力を得て、年縞中の葉試料の ^{14}C 年代を測定し、堆積物の深度-年代モデルを作成した。100 点を超える放射性炭素年代に対して、年縞の精密な計数に

基づく制約を加えることで、誤差のほとんどない年代軸を構築することができた。年代-深度モデルによる年代の推定誤差は約 4 年であり、世界最高水準の精度を有するものである。元素分析の結果から、降水量変動の情報と過去の洪水記録を示唆する結果が得られた。一方でこの堆積物試料がカバーする年代は約 600 年間と短く、マヤ文明史(約 3000 年前-16 世紀)を完全にカバーできない。そのため近隣のラス・ポサス湖(GLP)の堆積試料を用いて過去 3000 年間について花粉分析と植物遺体の分析を進め、セイバル遺跡周辺の植生変化と人間活動との関わりを明らかにした。

WP(1)-(b) 計画研究 A02 が実施したセイバル遺跡周辺 400km² の航空レーザー測量のデータから赤色立体地図を作成した。赤色立体図では人工的な構造物が多数発見され、現地の地上踏査によって赤色立体図が広域の遺構探査に非常に有効な手法であることが確認された。考古遺構の候補をピックアップした詳細なカタログを作成して、計画研究 A02 に提供した。

WP(2)-(a) ペルー南部・ナスカ台地の諸遺跡から出土する主要な木材試料(ワランゴとエスピーノ)について、現生木の植生・立地環境の現地調査を行った。これらの樹種は極めて複雑で不斉な組織構造を持つ樹種であり、年輪の認定方法の確立に苦慮した。高解像度の画像計測システムを新規に開発し、ターミナル柔細胞とよばれる矮小な細胞要素で年輪の境界が判定に有効であることが明らかとなった。また現地での植生・立地調査の結果、これらの樹種は伏流水の地下水面の上昇によって形成されていることが明らかとなった。こうした成果に基づき、計画研究 A03 から提供されたナスカ地域の古材の高精度 ¹⁴C 年代測定を実施し、パラカス期後期からインカ期にわたる ¹⁴C 編年が完成した。

研究項目 A02 の研究分担者(福原と嘉幡)に協力して、メキシコ中央高原の Cholula 遺跡のドローン空撮と近隣湖沼の堆積物採取を実施した。その結果、同遺跡の植生被覆を除去した高精度の 3D マッピングが完成し、航空レーザー測量と比べてはるかに安価でかつ同程度の調査が可能となった。本研究では、**WP(1)-(a)**における GPB 調査で当初計画通りの成果が得られなかったものの、GLP でその欠点をカバーした。その他の研究についても当初計画で期待した成果が得られた。

■研究項目 A02—メソアメリカ比較文明論

本研究は、中米メソアメリカを代表するマヤ文明とテオティワカン文明、メソアメリカ南東部、中央アメリカ南部という中米の諸文明と社会の考古学調査の成果を比較研究し、メソアメリカ文明の盛衰に関する通時的データを提供・分析する。グアテマラのセイバル遺跡の都市中心部だけでなく、周辺部に住んだ支配層や農民の住居跡を発掘して、出土遺物の詳細な分析を通して 2000 年にわたるマヤ文明の全社会階層の研究を実施した。

グアテマラ考古学に航空レーザー測量を初めて導入して、熱帯雨林に覆われたセイバルの都市全体と周辺地域の地形や考古遺構を 400km² にわたって探査することに成功した。その結果、セイバル遺跡では前 1000 年頃から居住の定住性の度合いが異なる多様な集団が、共同体の公共祭祀及び公共祭祀建築や公共広場を建設・増改築する共同作業によって社会的な結束やアイデンティティを固めたことが明らかになり、成果を米国科学アカデミーの学術誌 *PNAS* に刊行した。先古典期マヤ支配層は、地域間交換ネットワークに参加して、重要な物資だけでなく、観念体系や美術・建築様式等の知識を取捨選択しながら資源化して権力を強化した。公共広場で繰り返し行われた公共祭祀という反復的な実践は、集団の記憶を生成して資源化され、中心的な役割を果たす支配層の権力が時代と共に強化された。

本研究は、先スペイン期メソアメリカ社会を動かす仕組みとしての公共祭祀建築、公共広場や文字の役割を検討して比較した。先古典期マヤ文明、メキシコ中央高原やメソアメリカ南東部では、文字よりもむしろ公共祭祀建築が「見る」人々を突き動かし、より巨大な公共祭祀建築を建造して社会を動かす仕組みとして重要な役割を担った。マヤ低地やメソアメリカ南東部では、先古典期には主に社会の紐帯を促したイデオロギー操作が、古典期にはより独占的・排他的なイデオロギーに変遷した。古典期マヤ文明では、「見る」人々を突き動かした公共祭祀建築に加えて、王や王朝といった特定の個人・集団の利益を優先させる目的で「語り」を物質化した文字が社会を動かす仕組みを提供して王権を強化した。石碑や神殿ピラミッドには文字だけでなく、王など特定個人の図像が刻まれ、他の支配層や民衆に誇示して「見せる」効果が発揮された。中央アメリカ南部の首長制社会では、文字は使われず、首長自らの権威と権力の正統性を「見せる」大規模な公共祭祀建築は建造されなかった。

メキシコ中央高原では、ピラミッドは特定の個人のためではなく公共性が強く、古典期マヤ文明のような王朝史を詳細に記録した文字が発達しなかった。支配層は「語り」よりも「見せる」行為、つまり神々と交信する儀礼空間の視認性と大衆性により重点を置いた。このことは、トラランカレカやテオティワカンの社会が、人々の意思決定と共に、一連の火山噴火の文脈の中から誕生し発展したと無関係ではない。その自然環境は、火山がないマヤ低地とは大きく異なる。

メキシコ中央高原やメソアメリカ南東部では、神殿ピラミッド(世界観の中心、共同体の象徴)の建設、再建や増改築という共同作業が社会的な結束を促進し、噴火災害の復興において重要な役割を果たした。自然災害を乗り越えることが、社会の発展や社会革新の契機になった。ポポカテペトル火山噴火(70年頃)がメキシコ中央高原で大規模な移住を促進し、被災民を受容したテオティワカンで都市化が進行した。多言語・多民族集団のテオティワカンの人々は、複雑な文字体系の恩恵なしに古典期の南北アメリカ大陸で最大の都市や巨大な神殿ピラミッドを建造した。

公募研究では、エルサルバドルのチャルチュアパ遺跡の発掘調査によって先古典期中期から終末期に相当する層から良好な土器資料を得て、AMS法による ^{14}C 年代測定を行った。火山灰の編年学的研究では、採取した試料の ^{14}C 年代及び火山灰試料の化学組成分析を通じて対象地域の環境変化を検討した。本研究は、メソアメリカ比較文明論に関する共同研究を当初計画通りに実施することができた。

■研究項目 A03—アンデス比較文明論

本研究の目的は、南米アンデス文明を代表するナスカ、ワリ、イカ、インカ等の社会に関する学際的な調査を実施して、精密な編年を基にアンデス文明の社会変動に関する通時的データを提供・分析することである。そのためにこれらの社会が成立したペルー南海岸のナスカ台地周辺を中心に現地調査を実施した。ナスカ台地の北側に隣接するインヘニオ谷の遺跡の分布調査と発掘によって、地上絵を支えていた人々の社会を明らかにすることを試みた。またナスカ台地を踏査して、地上絵及びそれに伴う土器を分析した。その結果、地上絵の制作はナスカ早期(前100-後100年)に開始されたことが明らかになった。

ベンディーヤ遺跡はナスカ早期のインヘニオ谷の神殿であり、ナスカ谷にある同時期のカワチ神殿との間に「直線の地上絵」が確認できた。この地上絵は両谷の間を移動する道であり、そこで装飾土器を破壊する行為が繰り返行われたので谷間儀礼道とみなすことができる。ナスカ早期には「面タイプの動物の地上絵」が制作されたが、新たに90点を確認した。全長10m以下の小さなものが大部分を占める。このタイプの地上絵は、台地を南北に縦断する10本程度の小道沿いに描かれたものと、山の斜面に描かれたものに分かれる。前者は約1.2km間隔で分布している。後者はナスカ谷とインヘニオ谷の村落を結ぶ移動ルート上に9.2km間隔で分布している。両者は台地を移動する人たちの道標として用いられたと考えられる。

ナスカ前期(100-400年)にも、インヘニオ谷とナスカ谷の神殿の間に設定された谷間儀礼道において土器破壊儀礼が行われた。この時期に「線タイプの動物の地上絵」が制作された。全長50-300mと巨大であり、ナスカ台地に20点以上確認されている。線タイプの動物の地上絵は、谷間儀礼道のインヘニオ谷側の出発地点付近及びナスカ谷側の出発地点付近に集中的に描かれている。つまり、谷間儀礼道の入り口に設定された儀礼用の広場と解釈できる。

ナスカ中・後期(400-750年)になると、谷間儀礼道は機能を停止し、カワチ神殿も衰退期に入る。ワリ期(750-1000年)になると、谷間儀礼道が再利用された。また高地のワリ様式の行政センターが、インヘニオ谷の上流・中流・下流にそれぞれ一つずつ設立された。イカ期(1000-1450年)に谷間儀礼道の数は増え、複線化した。谷内に複数の独立政体があり、それらが並存していた可能性がある。インカ期(1450-1533年)では、従来の谷間儀礼道は使われなくなったが、代わりにナスカ台地を縦断するインカ道が設立された。ここでは、イカ期までの谷間儀礼道と同様に、土器破壊儀礼が頻繁に行われた。

認知心理学の研究では、動物の地上絵が地上でどのように認識されたのかについて考察した。環境地理学の調査によれば、多くの地上絵は砂に埋まらない場所を選んで設定された。情報科学との学際研究によると、「直線の地上絵」とその集束点である「ラインセンター」はネットワーク構造を呈すると共に、歩行路である可能性が極めて高いことが判明した。さらにナスカ台地には、安定性・効率性・信頼性が担保できるラインセンターが7つ存在することがわかった。ナスカ台地上を移動する際に、これらのラインセンターのうち少なくとも一つは台地上のほとんどどこからでも眺望できることが可視領域解析によって明らかになった。つまり、これらのラインセンターは、ナスカ台地を移動する際のランドマークとして機能していた。

動物の地上絵の大部分を占める鳥の地上絵を、鳥類学的に分析したところ、同定できた鳥は全てナスカ地方のものではなく、海岸部及び森林地帯に由来することが判明した。一方、ナスカ台地周辺の神殿から出土した鳥の骨を分析した結果、地上絵に描かれた鳥は含まれないことがわかった。

世界遺産ナスカの地上絵の学術研究と保護に関する特別協定を、ペルー文化省と山形大学の間で2015年に締結した。この特別協定に基づいて、本研究の調査で発見したアハ地区の地上絵群(ラクダ科動物等42点)を保護するためのプロジェクトを実施した。なおペルー文化省は山形大学の研究プロジェクトの貢献度を高く評価して、特別協定を2023年まで延長した。公募研究では、計画研究で扱うことができなかったペルー北部の形成期社会及びシカン社会を調査した。また樹木年輪の同位体分析のために、発掘で出土した木材サンプルを分析したので研究上の相乗効果が得られた。アンデス文明の学際研究を当初の計画通りに実施することができた。

■研究項目 A04—植民地時代から現代の中南米の先住民文化

本研究は、植民地時代から現代まで、中南米の人々が古代アメリカ文明を、どのように描いてきたかを明らかにするものである。この問いに答えるため「古代文明の資源化」という概念を設定した。これは、古代文明に関する情報が、何らかの課題解決のための資源として利用され、古代文明のイメージが再構築されることを示す概念である。このため文化人類学者13人(研究代表者1人、研究分担者7人、公募研究1組4人、国際活動支援班の連携研究者1人)、歴史学者3人(研究分担者1人、公募研究2人)及び考古学者1人(国際活動支援班の研究協力者1人)で研究組織を編成し、各自が個別テーマを研究した。一方で研究会やシンポジウムでは、「古代文明の資源化」の総括を試みた。この結果、当初の計画通り、本研究の目的を達成することができた。

古代文明の資源化は植民地時代初期の16世紀後半から認められる。メソアメリカでは、先住民支配層に属する者がスペイン語を用いて、アステカ王国の時代の歴史を書き残している。アンデス地方のペルー北海岸でも、17世紀に地元の首長たちが自分たちの権利をスペイン人に主張するため、先スペイン期に遡る出自を文書で強調した。これらの記録が重要なのは、こうした植民地時代に資源化された情報が、後の時代の歴史家によって再資源化され、現在の古代文明観の一端を形成している可能性があることである。

現代における古代文明の資源化が最も顕著に認められるのは、先スペイン期の遺跡の保全と活用の場面である。 Cholulera やチチェン・イツァは、メキシコを代表する大遺跡であり、メキシコ政府は保全と共に観光資源としての開発を推進している。しかし地元住民は必ずしも政府の方針に賛同するわけではなく、Choluleraでは環境保全運動が、チチェン・イツァでは地元商人による不法占拠が生じた。こうした事態は、遺跡の活用方法を巡る利害対立だけでなく、古代アメリカ文明観を巡る争いでもある点が重要である。同様の論争はペルーの首都リマ市のワカ・メルガレホ遺跡でも生じている。

現代の都市住民が自分たちのアイデンティティを表現する時にも、古代文明が資源化されることがある。メキシコ市内の旧先住民集落に暮らす住民は、集落の政治運動を展開する際に、アステカ王国の時代に遡る集落の先住民性を主張する。またペルーのクスコ市に農村部から移住した住民は、アンデス文明風の意匠を施した衣類を好んで教会に奉納する。いずれも匿名的な都市環境の中で「古いもの」を用いて自己表現する点が共通する。

古代文明の資源化は、古代文明に由来すると想定される先住民文化の資源化という形で生じることもある。グアテマラのマヤ系先住民族の織布は、先スペイン期の技術を引き継ぐものとして注目を集め、国際的な取引の対象になっている。これに対しマヤ民族自身は、その意匠を集団的な知的財産として保護する必要に迫られている。一方チリ政府は、チリの先住民族マプーチェの治療行為を代替医療として一般市民に奨励した。マプーチェ自身は、この行為を非マプーチェに提供することの是非を自問し始めている。いずれも、第三者による資源化が先住民自身による資源化や自文化の見直しを促している点が共通する。

古代文明の資源化は、抽象的な概念や不確定な過去に対して生じることもある。エクアドルの先住民教員たちは、自文化のルーツに関する教材開発に際して、アンデス文明の特徴を探索せざるを得ない。パラグアイの民芸品ニャンドゥティは、技術的には旧大陸起源が想定されるが、独自の美意識を強調するためにパラグアイの先住民文化起源が謳われる。両事例は、資源化に際して過去が想像される場合もあることを示唆する。

古代文明を展示する博物館は、古代文明の資源化を集中的に行う機関といえる。中南米諸国の国立博

博物館は古代アメリカ文明や先スペイン期の文化を、国民の文化的ルーツとして紹介することが多い。メソアメリカやアンデス地域では、古代文明が現代の先住民族に継承されているという解釈が優勢である。しかし他の地域では、現代の多様な国民文化の一起源、もしくは現在から切り離された過去の伝統として位置付ける傾向が見られる。

以上の事例から、植民地時代以降も、古代アメリカ文明に関する知識は繰り返し利用され、そのつど新しい意味を帯びて再生されていることが明らかになった。本研究は、「古代アメリカ文明はスペイン人の征服によって消滅した」という一般的な見解に再考を促す。むしろ古代アメリカ文明は、スペイン人がもたらした西洋文明と共存しているとみなすことも可能である。その終焉については、更なる事例研究によって議論する必要がある。また「古代文明の資源化」は植民地時代以降だけでなく、先スペイン期にも生じていたという視点に立つと新たな文明観が開けてくる。

文明が継続するとは、文化が世代間で連続的に継承されるだけでなく、数十年、数世代、場合によっては数百年以上の隔たりを経て「資源化」され、再生することである。本研究は、現代の中南米の人々が、古代アメリカ文明を資源として、歴史認識の刷新、芸術的創造、観光振興、国民の文化的アイデンティティ形成を進めていることを示した。メソアメリカ文明とアンデス文明の比較を通じて本領域研究全体が生み出す新たな知識は、更なる資源化を促進し、各国の文化、産業の活性化や総体としての中南米の地域的アイデンティティの形成に寄与するのである。

4. 研究計画に参画した若手研究者の成長の状況

各研究項目の研究代表者、研究分担者、連携研究者や研究協力者の大部分は、中堅・若手の研究者である。本領域研究は、国内外の共同研究者と密接に協力しながら、世界的な学術水準の国際共同研究として実施した。本領域のメンバーは、メソアメリカとアンデスの広範な地域において現地調査を実施し、国内だけでなく国外で英語やスペイン語の論文を意欲的に刊行すると共に、国内外の学会で積極的に最新の成果を発表した。本領域研究の研究項目間の公開合同研究会では、若手研究者に研究発表の機会を積極的に与えて質疑応答や意見交換を活発に行った。また本領域主催の公開シンポジウムでは、若手研究者を積極的に登用して一般市民にわかりやすく研究成果を伝えるように努めさせた。その結果、10名の若手研究者が常勤のポスト、5名の若手研究者が任期付のポストを得た。本領域研究は、当該領域の学術水準を国際的に向上・強化して、革新的な人材育成につながった。

若手研究者の育成(令和元年6月1日現在)

常勤研究者

- (1) 吉田 明弘(研究員):鹿児島大学・法文学部・准教授
- (2) 武田 和久(任期付助教):明治大学・政治経済学部・専任講師
- (3) 小林 貴徳(客員研究員):関西外国語大学・短期大学部・助教
- (4) 門間 政亮(特別研究員):宇部フロンティア大学・短期大学部・助教
- (5) 那須 浩郎(助教):岡山理科大学・生物地球学部・准教授
- (6) 山本 睦(助教):山形大学・人文社会科学部・准教授
- (7) 松本 剛(特別研究員):山形大学・人文社会科学部・准教授
- (8) 北場 育子(助教):立命館大学・古気候研究センター・准教授
- (9) 八木 百合子(機関研究員):国立民族学博物館・助教
- (10)佐藤 正樹(非常勤講師):慶応大学・経済学部・専任講師

任期付研究者

- (1) 市川 彰(ポスドク):名古屋大学・高等研究院・特任助教
- (2) 鄭 俊介(研究員):北海道大学・北極域研究センター・研究員
- (3) 塚本 憲一郎(研究員):カリフォルニア大学リバーサイド校・Assistant Professor
- (4) ダニエル・ダンテ・サウセド・セガミ(研究員):立命館大学・嘱託講師
- (5) 瀧上 舞(研究員):国立歴史民俗博物館・プロジェクト研究員、山形大学・プロジェクト教員・講師

若手研究者の受賞

- (1) 北場育子、日本第四紀学会若手学術賞、2018年8月
- (2) 市川彰、名古屋大学第6回石田賞、名古屋大学(名古屋市)2017年11月13日
計画研究 A01 研究代表者の米延は、日本学術振興会が主催する日米先端科学シンポジウム(JAFoS)のコンビーナーから Environmental Archaeology/Paleoclimate(環境考古学・古気候)セッションの提案とコンテンツに関する相談を受けた。セッションが採択され、日米の代表的な若手研究者推薦の依頼を受け、計画研究 A01 分担者の那須浩郎と北場育子が参加した(H28年12月2-4日開催)。JAFoSは次世代を担うリーダーの育成と世界をリードする人材を結ぶネットワーク形成を目的として毎年開催されている。

5. 主な研究成果

研究項目 A01・A02・A03・A04 共同研究

- (1) 青山和夫, 米延仁志, 坂井正人, 鈴木紀 (編著)『古代アメリカの比較文明論:メソアメリカとアンデスの過去から現代まで』京都大学学術出版会, 444 頁, 2019.

新学術領域研究(終了領域)「古代アメリカの比較文明論」(2019年度、領域代表者:青山和夫)の助成を受けて、主要な研究成果を国民・社会にわかりやすく還元・紹介するために、4つの研究項目の研究代表者4名(青山、米延、坂井、鈴木)を編著者として京都大学学術出版会から学術書を公刊した。執筆者は計56名であり、編者の研究代表者4名、主に中堅・若手の研究分担者、連携研究者、研究協力者から構成された。本書は先スペイン期のメソアメリカ文明とアンデス文明の比較研究だけでなく、植民地時代や現代の中南米の人々が古代文明を資源化して再解釈する営みにも詳しく論述する日本初の書籍である。

- (2) 青山和夫, 米延仁志, 坂井正人, 鈴木紀「『古代アメリカの比較文明論』プロジェクトの目標と展望」『古代アメリカ』17: 119-127, 2014, 査読有.

4つの研究項目の研究代表者が、新学術領域研究「古代アメリカの比較文明論」プロジェクトの学術的背景と問題の所在、目的と概要、学術的な特色と文理融合の共同研究で期待される成果について、古代アメリカ学会の学術誌『古代アメリカ』に共著で投稿した査読論文である。

研究項目 A02・A03・A04 共同研究

- (1) 青山和夫, 坂井正人 (編著)『メソアメリカ文明とアンデス文明:文字、図像と公共建築の通時的比較』講談社現代新書、印刷中、2020年刊行予定.

研究項目 A02、A03、A04 の研究者4名(青山、坂井、井上、大平)が、マヤ、アステカ、ナスカ、インカの文字、図像と公共建築に注目して、最新の成果をわかりやすく解説する新書を講談社から公刊する。

- (2) 2017「特輯:古代アメリカの比較文明論の新展開(上)(下)」『古代文化』68(4)・69(1)

研究項目 A02、A03 と A04 の研究成果をより明確に結びつけるために、青山が編者を務めてメソアメリカ考古学(青山 2017; 福原 2017; 長谷川 2017; 市川 2017; 嘉幡 2017; 塚本 2017)、アンデス考古学(坂井 2017; 瀧上 2017)、メソアメリカ植民地時代の歴史学(井上 2017)、メソアメリカの文化人類学(鈴木 2017)の論文を出版した。

研究項目 A01・A02・A03 共同

Takeshi Inomata, Daniela Triadan, Verónica A. Vázquez López, Juan Carlos Fernandez-Diaz, Takayuki Omori, María Belén Méndez Bauer, Melina García Hernández, Timothy Beach, Clarissa Cagnato, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu Monumental architecture at Aguada Fénix and the rise of Maya civilization. *Nature* 582(7810): <https://doi.org/10.1038/s41586>, 2020, 査読有.

航空レーザー測量、地上探査と発掘調査により、メキシコのタバスコ州においてこれまで遺跡として知られていなかったアグアダ・フェニックス遺跡及びマヤ文明最古かつ最大の公共建築を発見した。最大の公共建築は、南北の長さ1413メートル、東西の長さ399メートル、高さ15メートルの大基壇である。この大公共建築を中心に幅50-100メートル、最長6.3キロメートルに及ぶ計9本の舗装堤道が建造され、人工貯水池が配置された。遺跡を調査するにあたって、本領域研究のA02班の経費を有効に活用した。従来の学説では、マヤ文明は先古典期中期(前1000-前350年)に小さな村々から徐々に発展したと信じられていた。猪俣や青山らは、グアテマラのセイバル遺跡の発掘調査で出土した前950年頃の公共祭祀建築に関する成果を *Science* などに出版し(Inomata *et al.* 2013, 2019)、従来の学説の見直しを迫っていた。今回の発見は、その新説をさらに発展させるものである。

研究項目 A01・A02 共同研究

- (1) Takeshi Inomata, Daniela Triadan, Flory Pinzón, Melissa Burham, José Luis Ranchos, Kazuo Aoyama, Tsuyoshi Haraguchi Archaeological application of airborne LiDAR to examine social changes in the Ceibal region of the Maya lowlands. *PLOS ONE* 13(2): e0191619, 2018, 査読有.
- (2) Takeshi Inomata, Flory Pinzón, José Luis Ranchos, Tsuyoshi Haraguchi, Hiroo Nasu, Juan Carlos Fernandez-Diaz, Kazuo Aoyama, Hitoshi Yonenobu Archaeological Application of Airborne LiDAR with

Object-Based Vegetation, Classification and Visualization Techniques at the Lowland Maya Site of Ceibal, Guatemala. *Remote Sensing* 9(6):1-27, 2017, 査読有.

2015年にグアテマラ考古学に航空レーザー測量(ライダー)を初めて導入し、グアテマラの熱帯雨林に立地するセイバル遺跡と周辺部の400 km²において航空レーザー測量を実施した。考古遺構や地形を遠隔探査した後地上で踏査と発掘調査を行い、これまで全容がわかっていなかったセイバルというマヤ文明の大都市の構造に関する重要な成果を得た。セイバル遺跡の舗装堤道サクベが新たに見つかり、先古典期(前1000-後200年)の複数の祭祀の中心地の分布が明らかになった。

- (3) Takeshi Inomata, Daniela Triadan, Jessica MacLellan, Melissa Burham, Kazuo Aoyama, Juan Manuel Palomo, Hitoshi Yonenobu, Flory Pinzón, Hiroo Nasu High-precision radiocarbon dating of political collapse and dynastic origins at the Maya site of Ceibal, Guatemala. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 114(6): 1293-1298, 2017, 査読有.

グアテマラにあるセイバル遺跡で採取した154点(マヤ文明の1遺跡当たり最多の測定数)の試料の放射性炭素年代による高精度編年を確立し、精度の粗い従来のマヤ文明の編年では復元できない先古典期の衰退(150-300年頃)と古典期の衰退(800-950年頃)のプロセスを詳細に解明した。セイバルの都市は、300年頃と900年頃に衰退した。この2つの衰退期では、1回目の衰退期に神聖王を頂点とするセイバル王朝が発展したが、2回目の衰退期にセイバルの都市が放棄された。この2つの衰退のプロセスに関する研究成果は、マヤ文明の政治組織の脆弱性とレジリエンス(回復力)を検証する上で根本となるデータを提供する。

- (4) Inomata, Takeshi, Jessica MacLellan, Daniela Triadan, Jessica Munson, Melissa Burham, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu, Flory Pinzón, Hitoshi Yonenobu Development of Sedentary Communities in the Maya Lowlands: Coexisting Mobile Groups and Public Ceremonies at Ceibal, Guatemala. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 112(14):4268-4273, 2015, 査読有.

グアテマラのセイバル遺跡の中心部と周辺部における大規模で精密な層位的な発掘調査、詳細な考古・自然遺物の分析及びマヤ考古学では例外的に豊富な試料の¹⁴C年代測定による精密な編年の結果、先土器時代(前1000年以前)に居住地の移動を繰り返していた狩猟採集民の集団が定住共同体を確立するというプロセスにおいて、①定住という新たな生活様式は、全ての社会集団の間で必ずしも同時に起こらなかった、②大規模な公共祭祀建築は、定住共同体が確立された後ではなく、それ以前に建設されることもあった、という実証的なデータを世界の考古学に加えた。居住の定住性の度合いが異なる多様な集団が携わった、公共祭祀や公共祭祀建築を建設する共同作業は、社会的な結束やアイデンティティを固めてマヤ文明の形成に重要な役割を果たしたという、マヤ文明の初期の姿が明らかになった。

研究項目 A02・A03 共同研究

青山和夫「メソアメリカ比較文明論試論—古代アメリカの比較文明論の新展開に向けて—」『古代アメリカ』19:47-61, 2016, 査読有.

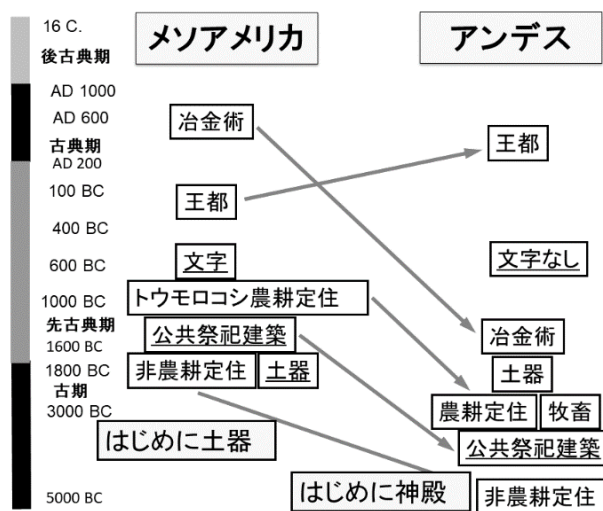


図1メソアメリカとアンデスの社会変化の比較

土器、非農耕定住、公共祭祀建築、農耕定住、牧畜、文字、都市、王国、冶金術などの指標に基づいて、メソアメリカ文明とアンデス文明を比べると、極めて異なる社会変動の過程があったことがわかる(図1)。メソアメリカでは、土器の起源はアンデスとほぼ同時期であるが、公共祭祀建築(神殿)はアンデスより2000年ほど遅れた。「はじめて神殿ありき」のアンデスでは先土器時代に公共祭祀建築が建造されたのに対して、メソアメリカでは「はじめて土器ありき、神殿は土器の後」であった。対照的にメソアメリカではマヤ文明をはじめ文字が発達したが、アンデスでは文字がなかった。アンデス形成期の神殿を中心にした社会展開は、その後の王都を中心とする社会発展に直線的につながらず、数千年にわたって神殿を中心にした

会が統合され、大規模に集住しない社会伝統が続いた。対照的にメソアメリカでは最初の公共祭祀建築の建設から比較的短期間の数百年で王都(都市)が発展した。

研究項目 A02・A04 共同研究

(1) Aoyama, Kazuo, Rodrigo Liendo Stuardo (eds.) *Mesoamérica: El Estudio de Sus Procesos de Transformación Social desde Una Perspectiva de Larga Duración*. Universidad Nacional Autónoma de México, 印刷中、2020年刊行予定。

メキシコ、グアテマラ、アルゼンチン、アメリカの世界的に著名な研究者と研究項目 A02 と A04 の考古学者、歴史学者、文化人類学者が執筆したメソアメリカの長期的な社会変動の過程に関するメキシコ国立自治大学の論文集である。

(2) 2015「特集 資源化される古代文明—遺跡の調査と活用に関わるアクター分析—」『古代アメリカ』18

研究項目 A02 と A04 の研究成果をより明確に結びつけるために、鈴木や研究項目 A02 と A04 の若手研究者が中心となって『古代アメリカ』で初めて文化人類学者と考古学者が共同研究の成果(4本の査読論文)を特集として出版した(福原 2015; 小林 2015; 杓谷 2015; 鈴木 2015)。

研究項目 A01

研究項目 A01 では年輪・年縞という高い時間分解能をもつ試料を対象とするために、分析点数が膨大なものとなる。そのため、より高度なデータ解析を伴った包括的な成果をまとめた出版は今後となる。現在までに広域的な定量的気候復元(Tei *et al.* 2015, 2017 等)、考古植物分析による定住化や農耕に関するマヤ文明を含む比較研究(Nasu 2017)等の成果が公表された。 ^{14}C 年代測定や赤色立体図作成で得られた結果を研究項目 A02 に提供し、上述(研究項目 A01・A02 共同研究)の成果が得られた。本研究の進展に資する技術開発では、米延がイオン液体を用いた生物試料の処理法を開発し、迅速で簡便に試料観察を可能とする成果を公表した(山下他 2015; Yamashita *et al.* 2018)。成果の社会還元として、米延は博物館に試料を提供し、北場は年縞博物館でツアーガイドを務めた。また両者とも小中高校生向けの出前授業や体験学習会を積極的にに行い、研究成果の学校教育への普及に努めた。

研究項目 A02

研究項目 A02 では、国内だけでなく、国外で英語やスペイン語の論文を意欲的に刊行し、当該領域の学術水準を国際的に向上・強化した。ケンブリッジ大学出版局の *Ancient Mesoamerica* (Aoyama 2017a) と *Antiquity* (Aoyama *et al.* 2017a; Murakami, Kabata *et al.* 2017; Tsukamoto 2017)、アメリカ考古学会の *Latin American Antiquity* (Aoyama 2017b; Tsukamoto *et al.* 2015a)、*Proceedings of the National Academy of Sciences National Academy* (McKillop and Aoyama 2018)、アメリカの *Journal of Field Archaeology* (Aoyama *et al.* 2017b; Murakami, Kabata *et al.* 2018) といった国際誌の査読論文をはじめ、アメリカ (Aoyama 2016a, 2015a, 2014; Tsukamoto *et al.* 2015b)、イギリス (Aoyama and Graham 2015)、メキシコ (Sugiura *et al.* 2018)、グアテマラ (Aoyama 2017c, 2016b, 2015b, Aoyama *et al.* 2017c, 2014; Ichikawa 2015a; Ito *et al.* 2015; Tsukamoto *et al.* 2018)、エルサルバドル (Ichikawa 2015b, 2015c; Ichikawa and Guerra 2018) やニカラグア (Hasegawa 2019, 2018) などで論文を出版した。

学会発表を積極的にに行い、国際学会でも活発に発表した。たとえば、メキシコ国立自治大学の招待講演 (Aoyama 2018, 2015)、アメリカ考古学会 (Fukuhara and Murakami 2017; Ichikawa 2018, 2017; Murakami, Kabata *et al.* 2015; Tsukamoto 2016, 2015)、アメリカのメソアメリカ会議 (Murakami, Kabata, López, Chávez, Fukuhara 2015)、メキシコの国際学会 (Kabata 2018; Kabata *et al.* 2017; López, Kabata *et al.* 2015)、グアテマラの国際考古学会 (Aoyama 2016, 2015, 2014; Ichikawa 2015; Ito 2014)、国際アメリカニスト会議 (Aoyama 2018; Ichikawa 2018, 2015; Ito 2015) やエルサルバドルの国際考古学会 (Ichikawa 2017, 2015) などで活発に発表した。青山は、世界で初めてのマヤ文明に特化した事典『マヤ文明を知る事典』(青山 2015) を刊行して研究成果の社会還元を努めた。

研究項目 A03

研究項目 A03 では、論文・図書を積極的に発表した。このうちペルー文化省に提出し公表されたスペイン語の報告書 2 冊 (Sakai *et al.* 2015; Sakai and Olano 2017) はそれぞれ 933 頁と 782 頁の大部となっており、

これまでの研究成果が網羅的に掲載されている。また研究成果をまとめたスペイン語学術図書(Sakai *et al.* 2019)を公刊した。国際的な学術雑誌では、アメリカの *Journal of Archaeological Science* (Eda *et al.* 2019)や *Latin American Antiquity* (Takigami *et al.* 2014)、*Peruvian Archaeology* (Matsumoto 2019)、ドイツ (Chiba 2014)、ペルー (Tsurumi 2017, 2016; Tsurumi and Morales 2016)において英語、ドイツ語、スペイン語で論文を発表した。ペルーの研究機関 (Matsumoto *et al.* in press; Sakai and Olano 2018, 2017, 2016; Sakai *et al.* 2017)からもスペイン語の論文を発表した。

学会発表を活発に行い、アメリカ、ペルー、アルゼンチン、エルサルバドル、韓国、ドイツ、日本で開催された国際学会において発表を行った。そのうち招待講演としてはアメリカのデュレーン大学 (Matsumoto 2016; Sakai 2015)、ペルー国立博物館 (Sakai and Olano 2017)、ペルー文化省 (Sakai and Olano 2017)、リマ美術館 (Sakai 2016)で発表した。

国際学会に意欲的に参加し、第3回ペルー考古学会議 (Sakai and Olano 2016; Tsurumi and Morales 2016)、第2回ペルー考古学会議 (Sakai *et al.* 2015; Matsumoto 2015; Tsurumi and Morales 2015)、第1回ペルー考古学会議 (Sakai and Olano 2014)、第55回国際アメリカニスト会議 (Eda *et al.* 2015; Matsumoto 2015; Omori *et al.* 2015; Sakai *et al.* 2015; Tsurumi and Morales 2015; Watanabe *et al.* 2015)、第42回韓国文化遺産保護科学学会国際会議 (Matsui *et al.* 2015)、第23回ドイツ哲学学会 (Chiba 2014)、第12回動物考古学国際会議 (Eda *et al.* 2014)、第83回アメリカ考古学会 (Tsurumi 2018)、第58回アンデス研究所年次集会 (Matsumoto *et al.* 2018)、サンマルコス大学国際シンポジウム (Matsumoto *et al.* 2018)等で発表した。

国内外において計21件の国際シンポジウム及び国際学術会議を精力的に主催し、積極的に海外の研究者を招いて活発な研究発表と学術交流を推進した。研究成果を国際的にアピールすると共に、アンデス考古学研究の発展に国際的に寄与した。国外では、たとえばナスカ市アントニーニ博物館において第3回考古学シンポジウム (Matsumoto 2018; Matsumoto and Yamamoto 2018; Yamamoto 2018)及び第2回考古学シンポジウム (Matsumoto 2015; Sakai 2015; Yamamoto 2015)を主催した。またサンマルコス大学国際シンポジウム (2017年11月)「景観と領土:中央アンデスにおける社会実践と地域間作用」と第55回国際アメリカニスト会議 (2015年7月)の分科会「ナスカ・グランデ川流域における環境と文化遺産及びその影響」を企画・組織した。

研究項目 A04

研究項目 A04 では、国内だけでなくスペイン (Suzuki 2018)、イギリス (Saucedo-Segami 2018)、イタリア (Inoue 2014)、セルビア (Kudo 2018; Shakuya 2018; Suzuki 2018)、メキシコ (Honya 2018)、ペルー (Saucedo-Segami 2016)などの海外の学術誌に英語及びスペイン語の論文を発表し、世界のラテンアメリカ植民地時代史及び現代ラテンアメリカの文化人類学研究の発展・強化に貢献した。

分野、地域別では、メキシコ植民地時代史 (井上 2017)、メキシコの遺跡活用 (小林 2018; 杓谷 2015)、メキシコの都市コミュニティ (Zenno 2015)、グアテマラの民族衣装 (本谷 2017)、エクアドルの先住民教育 (Ikezuki 2018)、チリ先住民医療 (工藤 2019)、パラグアイ先住民文化表象 (藤掛 2017)など、中南米の諸地域で「古代文明の資源化」の事例研究を行った。また古代文明の資源化プロセスを研究するための方法論的検討 (鈴木 2015)、中南米各地における古代文明の資源化状況を俯瞰するための考古学・人類学博物館の比較研究 (鈴木 2017)も行った。公募研究では、ペルーの植民地時代 (大平 2017; 佐藤 2017)、ボリビアの植民地時代 (武田 2019)など、南米の植民地時代の研究を中心に発表した。

アメリカ、メキシコ、スペイン、セルビア、ドイツ、ニュージーランド、日本で開催された国際学会で研究成果を積極的に発表した。A04班が企画して、国立民族学博物館 (吹田市)で「ラテンアメリカにおける過去の価値と利用—先スペイン期文明と先住民族文化の資源化を巡って—」(2018年3月)、メキシコ国立自治大学人類学研究所 (メキシコ市)で「日墨 (メキシコ) 国際会議:メソアメリカ社会とその歴史過程における文化変容」の2つの国際シンポジウムを主催した。

CELAO (アジア太平洋地域ラテンアメリカ研究学会) 2014 (京都、2014年9月)で分科会「植民地時代及び現代メキシコにおける先住民族の起源と正統性をめぐる過去の構築」、CELAO 2016 (ニュージーランド、ウェリントン市、2016年12月)で分科会「未来の資源としての過去:ラテンアメリカの文化再生のために先スペイン期文明をいかに評価できるか」、FIEALC (ラテンアメリカ・カリブ海研究国際会議) 2017 (セルビア、ベ

オグラード市、2017年7月)で分科会「文化遺産と記憶:ラテンアメリカにおける新傾向」、ICA(国際アメリカニスト会議)2018(スペイン、サラマンカ市、2018年7月)で分科会「過去評価の課題:ラテンアメリカの文化遺産に関する多様な視点を議論する」を組織し、積極的な研究成果の公開と国際的な研究交流を推進した。

6. 今後の研究計画の展開

今後の研究の重要課題としては、たとえばメソアメリカとアンデスの文明形成プロセスの差違(土器の製作と神殿の建造のタイミングの相違など)は、両地域の植民地時代以降の過去の資源化に、どのような影響をもたらしているだろうか、という点がある。また、人類にとって都市とは何かを追及していかなければならない。旧大陸の先産業社会の諸都市と類似点をもちながらも異なった特徴をもった「メソアメリカ的な都市」及び「アンデス的な都市(あるいは王都)」とは何なのかを追及していくことは、人類史の中で「都市とは何か」を明らかにする上で極めて重要である。

16世紀のスペイン人の侵略は、メソアメリカとアンデスの先住民社会に大きな変化をもたらした。一つの文明が他の文明と接触した時にしばしば生じるのは、軍事的征服、政治的支配、経済的搾取や社会的差別などである。こうした文明の衝突はたびたび多数の人命の犠牲を伴い悲劇的な様相を呈する。しかしながら、文明の衝突によって一つの文明が他の文明に代替されたり、犠牲が大きかった文明の記憶が根絶したりするわけではない。むしろ古代文明は、私たちが未来を切り開いていくための貴重な資源「未来への遺産」である。比較文明論の学術研究によって絶えず過去に関する正確な情報が提供され続ける必要がある。

自然科学班の調査では、グアテマラのペテシュバトゥン湖で全長7.8メートルの完全に連続した年縞堆積物試料の採取に成功した。さらに、100点を超える放射性炭素年代に対して、年縞の精密な計数にもとづく制約を加えることで、誤差のほとんどない年代軸を構築することができた。ただし年縞がカバーした年代は過去600年であった。セイバル遺跡でマヤ文明が盛衰した先古典期中期・後期・終末期(前1000-後200年)や古典期(200-1000年)については、さらに深く年縞堆積物試料を採取してマヤ文明の盛衰と環境変動の因果関係を検証しなければならない。また植民地時代以降の年縞データの社会的な意味を考察するためには、気象に関する歴史文書の照合が不可欠である。

マヤ文明の起源と形成に関する研究も今後の重要課題の一つである。猪俣健(調査団長、アリゾナ大学教授)、大森貴之(東京大学特任研究員)、青山和夫(茨城大学教授)や那須浩郎(岡山理科大学准教授)が参加したアメリカ、メキシコ、フランス、日本の国際調査団は、メキシコのタバスコ州にあるアグアダ・フェニックス遺跡においてマヤ文明最古かつ最大の公共建築を発見し、成果を2020年6月にNature誌に発表した(Inomata et al. 2020)。遺跡を調査するにあたって、本領域研究のA02班の経費を有効に活用した。

従来の学説では、マヤ文明は先古典期中期(前1000-前350年)に小さな村々から徐々に発展したと信じられていた。猪俣や青山らは、グアテマラのセイバル遺跡の発掘調査で出土した前950年頃の公共祭祀建築に関する成果をScienceなどに出版し(Inomata et al. 2013, 2019)、従来の学説の見直しを迫っていた。今回の発見は、その新説をさらに発展させるものである。

国際調査団は、航空レーザー測量(ライダー)と地上探査により、これまで遺跡として知られていなかったアグアダ・フェニックス遺跡を発見した。最大の公共建築は、南北の長さ1413メートル、東西の長さ399メートル、高さ15メートルの大基壇である。この大公共建築を中心に幅50-100メートル、最長6.3キロメートルに及ぶ計9本の舗装堤道が建造され、人工貯水池が配置された。

発掘調査と69点の試料の放射性炭素年代測定により、大公共建築が前1000から前800年にかけて建造・増改築されたことがわかった。これは定住生活と土器使用が始まって間もない時期にあたる。従来の学説では、マヤ諸王朝が確立した古典期(後250~950年)がマヤ文明の最盛期であると考えられてきた。アグアダ・フェニックス遺跡の大公共建築は、建造物体積(320万-430万立方メートル)において古典期の神殿ピラミッドなどを遥かに凌駕する。このマヤ地域最古の大公共建築が、スペイン人が侵入した16世紀以前の全マヤ文明史を通して最大の建造物であることが確認されたのである。

大公共建築は、人々が参加する共同体の祭祀の場であり、集団の統合を象徴したと考えられる。これは、マヤ低地に人工的に建造された神聖な山であり、山信仰と関連した可能性が高い。また大公共建築の中央にある建築群はEグループと呼ばれ、太陽の運行に関連して配置された公共祭祀建築であった。Eグループは、後のマヤ文明の他の遺跡からも見つかっている。Eグループの公共広場には、翡翠製磨製石斧などが供物として埋納された。

マヤ文明最大の公共建築がこれまで認識されていなかったことを不思議に思われる方がいるかもしれない。しかし、アグアダ・フェニックス遺跡の大公共建築は平面的にあまりにも巨大すぎるので自然の丘なのか人工の建造物なのかをライダー技術なしに地上で確認するのは困難なのである。航空レーザー測量を実施することで、木や草をはがした地表面の状態を確認することができた。その結果、自然の丘ではなく、平面が

長方形の基壇であることが初めてわかった。

垂直的な古典期マヤ文明の神殿ピラミッドは、諸王の権力を誇示した。アグアダ・フェニックス遺跡では、王など個人の権力者をかたどった石造彫刻はまだ出土していない。建設作業を計画・指揮する指導者は存在したが、中央集権的な王はまだいなかったと考えられる。諸王が擁立される前の先古典期中期の平面的な大基壇は、人々が参加する共同体の祭祀の場であり、集団の統合を象徴した。大規模建築という自発的に共同作業が、定住生活の始まりという大きな転換点において、集団のアイデンティティを創生する上で重要な役割を果たした。まさにマヤ文明の起源に迫る新知見である。

今後は航空レーザー測量、地上探査と発掘調査をさらに実施して、アグアダ・フェニックス遺跡遺跡の全容を明らかにするとともに、舗装堤道がどこにつながっていくのかを調査しなければならない。また住居跡の発掘調査をさらに実施して、人々の日常生活について研究する必要がある。またEグループの公共広場で出土した翡翠製磨製石斧が実用目的なのか儀礼用なのか、黒曜石製石器やチャート製石器は何のために使われたのかを金属顕微鏡で分析して、祭祀活動、手工業生産や日常生活を復元することが重要である。さらにハンドヘルド蛍光X線分析計で黒曜石の産地を同定してマヤ文明黎明期の遠距離交換を研究しなければならない。

古代アメリカの比較文明論の道は、果てしなく続く。

7. 学会誌等に発表した最も代表的な研究成果

Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Verónica A. Vázquez López, Juan Carlos Fernandez-Diaz, Takayuki Omori, María Belén Méndez Bauer, Melina García Hernández, Timothy Beach, Clarissa Cagnato, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu Monumental architecture at Aguada Fénix and the rise of Maya civilization. *Nature* 582(7810): <https://doi.org/10.1038/s41586>, 2020, 査読有.

Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Flory Pinzón, Kazuo Aoyama Artificial plateau construction during the Preclassic period at the Maya site of Ceibal, Guatemala. *PLOS ONE* 14(8):e0221943, <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0221943>, 2019, 査読有.

Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Flory Pinzón, Melissa Burham, José Luis Ranchos, Kazuo Aoyama, Tsuyoshi Haraguchi Archaeological application of airborne LiDAR to examine social changes in the Ceibal region of the Maya lowlands. *PLOS ONE* 13(2): e0191619, <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0191619>, 2018, 査読有.

Lohse, Jon C., W. Derek Hamilton, Mark Brenner, Jason Curtis, Takeshi Inomata, Molly Morgan, Karla Cardona, Kazuo Aoyama, Hitoshi Yonenobu Late Holocene volcanic activity and environmental change in Highland Guatemala. *Quaternary Science Reviews* 191:378-392, <https://doi.org/10.1016/j.quascirev.2018.05.014>, 2018, 査読有.

Matsu'ura, Shuji, Megumi Kondo, Tohru Danhara, Shuhei Sakata, Hideki Iwano, Takafumi Hirata, Iwan Kurniawan, Erick Setiyabudi, Yoshihiro Takeshita, Masayuki Hyodo, Ikuko Kitaba, Masafumi Sudo, Yugo Danhara, Fachroel Aziz. Age control of the first appearance datum for Javanese Homo erectus in the Sangiran area. *Science* 367:210-214, doi: 10.1126/science.aau8556, 2020, 査読有.

McKillop, Heather, Kazuo Aoyama Salt and Marine Products in the Classic Maya Economy from Use-wear Study of Stone Tools. *Proceedings of the National Academy of Sciences National Academy of Sciences* 115(43):10948-10952, <https://doi.org/10.1073/pnas.1803639115>, 2018, 査読有.

McLean, Danielle, Paul G. Albert, Takeshi Nakagawa, Takehiko Suzuki, Richard A. Staff, Keitaro Yamada, Ikuko Kitaba, Tsuyoshi Haraguchi, Junko Kitagawa, SG14 Project Members, Victoria C. Smith Integrating the Holocene tephrostratigraphy for East Asia using a high-resolution cryptotephra study from Lake Suigetsu (SG14 core), central Japan. *Quaternary Science Reviews* 183:36-58, doi:10.1016/j.quascirev.2017.12.013, 2018, 査読有.

Murakami, Tatsuya, Shigeru Kabata, Julieta M. López, Paige Phillips A Multi-Method Approach to Reconstructing Occupational History and Activity Areas: A Case Study at the Formative Site of Tlalancaleca, Central Mexico. *Journal of Field Archaeology* 43:634-654, doi: 10.1080/00934690.2018.1537688, 2018, 査読有.

Aoyama, Kazuo Preclassic and Classic Maya Interregional and Long-Distance Exchange: A Diachronic Analysis of Obsidian Artifacts from Ceibal, Guatemala. *Latin American Antiquity* 28(2):213-231, <https://doi.org/10.1017/laq.2017.2>, 2017, 査読有.

Aoyama, Kazuo Ancient Maya Economy: Lithic Production and Exchange around Ceibal, Guatemala. *Ancient Mesoamerica* 27:279-303, <https://doi.org/10.1017/S0956536116000183>, 2017, 査読有.

Aoyama, Kazuo, Takeshi Inomata, Flory Pinzón, Juan Manuel Palomo The Development of Maya Civilization and Public Rituals of the Preclassic Maya: Polished Greenstone Celt Caches from Ceibal, Guatemala. *Antiquity* 91(357):701-717, <https://doi.org/10.15184/aqy.2017.44>, 2017, 査読有.

Aoyama, Kazuo, Takeshi Inomata, Daniela Triadan, Flory Pinzón, Juan Manuel Palomo, Jessica MacLellan, Ashley Sharpe Early Maya Ritual Practices and Craft Production: Late Middle Preclassic Ritual Deposits Containing Obsidian Artifacts at Ceibal, Guatemala. *Journal of Field Archaeology* 42(5):408-422, <https://doi.org/10.1080/00934690.2017.1355769>, 2017, 査読有.

Hyodo, Masayuki, Balázs Bradák, Makoto Okada, Shigehiro Katoh, Ikuko Kitaba, David L. Dettman, Hiroki Hayashi, Koyo Kumazawa, Kotaro Hirose, Osamu Kazaoka, Kizuku Shikoku, Akihisa Kitamura Millennial-scale northern Hemisphere Atlantic-Pacific climate teleconnections in the earliest Middle Pleistocene. *Scientific Reports* 7:10036, <https://doi.org/10.1038/s41598-017-10552-2>, 2017, 査読有.

Kitaba, Ikuko, Takeshi Nakagawa Black ceramic spheres as marker grains for microfossil analyses, with improved chemical, physical, and optical properties. *Quaternary International* 455:166-169, <https://doi.org/10.1016/j.quaint.2017.08.052>, 2017, 査読有.

Kitaba, Ikuko, Masayuki Hyodo, Takeshi Nakagawa, Shigehiro Katoh, David L. Dettman, Hiroshi Sato Geological support for the Umbrella Effect as a link between geomagnetic field and climate. *Scientific Reports* 7:40682, <https://doi.org/10.1038/srep40682>. **Nature Asia.com** おすすめのコンテンツに掲載, 2017, 査読有.

Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Kazuo Aoyama After 40 Years: Revisiting Ceibal to Investigate the Origins of Lowland Maya Civilization. *Ancient Mesoamerica* 27:187-201, <https://doi.org/10.1017/S0956536117000037>, 2017, 査読有.

Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Jessica MacLellan, Melissa Burham, Kazuo Aoyama, Juan Manuel Palomo, Hitoshi Yonenobu, Flory Pinzón, Hiroo Nasu High-precision radiocarbon dating of political collapse and dynastic origins at the Maya site of Ceibal, Guatemala. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 114(6):1293-1298, <https://doi.org/10.1073/pnas.1618022114>, 2017, 査読有.

Murakami, Tatsuya, Shigeru Kabata, Julieta M. López, José Juan Chávez V. Development of an early city in Central Mexico: the Tlalancaleca Archaeological Project. *Antiquity* 91(356):455-473, doi: <https://doi.org/10.15184/aqy.2016.268>, 22017, 査読有.

Tanaka, Ikuko, Masayuki Hyodo, Yuusuke Ueno, Ikuko Kitaba, Hiroshi Sato High-resolution diatom record of paleoceanographic variations across the Early-Middle Pleistocene boundary in the Chiba Section, central Japan. *Quaternary International* 455:141-148, doi:10.1016/j.quaint.2017.08.017, 2017, 査読有.

Tsukamoto, Kenichiro Reverential Abandonment: A Terminal Ritual at the Ancient Maya Polity of El Palmar. *Antiquity* 91(360):1630-1646, doi: 10.15184/aqy.2017.143, 2017, 査読有.

Hyodo, Masayuki, Shigehiro Katoh, Akihisa Kitamura, Kenta Takasaki, Hayato Matsushita, Ikuko Kitaba, Ikuko Tanaka, Masakazu Nara, Takuya Matsuzaki, David L. Dettman, Makoto Okada High resolution stratigraphy across the early–middle Pleistocene boundary from a core of the Kokumoto Formation at Tabuchi, Chiba Prefecture, Japan. *Quaternary International* 397:16-26, doi:10.1016/j.quaint.2015.03.031, 2016, 査読有.

Hyodo, Masayuki, Ikuko Kitaba Timing of the Matuyama-Brunhes geomagnetic reversal: Decoupled thermal maximum and sea-level highstand during Marine Isotope Stage 19. *Quaternary International* 383:136-144, <https://doi.org/10.1016/j.quaint.2015.01.052>, 2015, 査読有.

Inomata, Takeshi, Jessica MacLellan, Daniela Triadan, Jessica Munson, Melissa Burham, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu, Flory Pinzón, Hitoshi Yonenobu Development of Sedentary Communities in the Maya Lowlands: Coexisting Mobile Groups and Public Ceremonies at Ceibal, Guatemala. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 112(14):4268-4273, <https://doi.org/10.1073/pnas.1501212112>, 2015, 査読有.

Tsukamoto, Kenichiro, Javier López Camacho, Luz Evelia Campaña, Kotegawa Hirokazu, Octavio Esparza Olgún Political Interactions among Social Actors: Spatial Organization at the Classic Maya Polity of El Palmar, Campeche, Mexico. *Latin American Antiquity* 26:200-220, doi: <https://doi.org/10.7183/1045-6635.26.2.200>, 2015, 査読有.

Takigami, Mai, Izumi Shimada, Rafael Segura, Hiroyuki Matsuzaki, Fuyuki Tokanai, Kazuhiro Kato, Hitoshi Mukai, Omori Takayuki, Minoru Yonedā Assessing the Chronology and Rewrapping of Funerary Bundles at the pre-Hispanic Religious Center of Pachacamac, Peru. *Latin American Antiquity* 25(3):322-343, doi: 10.7183/1045-6635.25.3.322, 2014, 査読有.